
第 130 回日本森林学会大会プログラム

会 期 2019年3月20日(水)～3月23日(土)
会 場 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
連絡先 〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050 新潟大学農学部内
第130回日本森林学会大会運営委員会
E-mail: jfs130@agr.niigata-u.ac.jp

大会日程

3月20日(水)

10:00～11:30	JFR 編集委員会	(301A)
11:30～13:00	日本森林学会誌編集委員会	(301A)
11:30～13:00	森林科学編集委員会	(301B)
10:00～12:00	ダイバーシティ推進委員会	(303/304)
13:00～14:30	日林誌・JFR・森林科学合同編集会議	(301A)
13:00～14:30	中等教育連携推進委員会	(301B)
13:30～14:30	【学会企画】森林環境税(仮称)及び森林経営管理法を契機とした森づくり(スノーホールA)	
15:00～18:00	研究発表(部門別口頭発表, 企画シンポジウム)	

3月21日(木)

9:00～12:00	研究発表(部門別口頭発表, 企画シンポジウム, 公募セッション)	
11:00～16:30	研究発表(P1ポスター: コアタイム 12:00～13:30)	(ウェーブマーケットB)
13:30～16:00	公開シンポジウム「雪国の森と木を活かす」	(スノーホールA)
16:00～18:00	日本森林学会各賞授賞式・受賞者講演	(マリンホール)
18:30～20:30	懇親会	(ホテル日航新潟・朱鷺の間)

3月22日(金)

9:00～19:00	研究発表(部門別口頭発表, 公募セッション)	
11:00～16:30	研究発表(P2ポスター・高校生ポスター: コアタイム 12:00～13:30)	(ウェーブマーケットB)
13:15～14:30	【学会企画】ダイバーシティ推進ランチョン Workshop 2019	(203/204)
17:00～19:00	【学会企画】日林誌に論文を出す	(スノーホールA)

3月23日(土)

9:00～	関連研究集会	
-------	--------	--

第130回日本森林学会大会運営委員会

紙谷 智彦(委員長), 秋岡 陽一郎(副委員長), 本間 晋(副委員長), 箕口 秀夫(副委員長), 崎尾 均, 中田 誠, 関島 恒夫, 権田 豊, 村上 拓彦, 森口 喜成, アンドリュー・C・ウイタカ, 阿部 晴恵, 本間 航介, 三亀 啓吾, 東原 貴志, 武田 宏, 涌井 克彦, 塚原 雅美, 皆川 勝之

第130回日本森林学会大会 公開シンポジウム

雪国の森と木を活かす

平成31年3月21日（春分の日） 13時30分～16時

朱鷺メッセ『スノーホール』（新潟市中央区万代島6番1号）



無料

どなたでも参加できます。

豪雪地には、かつて薪や炭の生産に利用されていたブナやナラ類など多様な樹種からなる広葉樹林が成長してきています。やはり大きく育ってきた人工林のスギとともに、広葉樹を積極的に活用することが、山間地の経済に貢献し、衰退が危惧される集落を支援することにも繋がります。雪国の森に育ってきた多様な木を活かす試みとその必要性について考えます。

13:30～13:35 **開会の挨拶** 黒田 慶子
(日本森林学会会長・神戸大学教授)



進行 塚原 雅美
(新潟県森林研究所・専門研究員)

13:35～13:40 **趣旨説明** コーディネーター 箕口 秀夫
(新潟大学農学部教授・副学長)



13:40～14:20 **基調講演「多雪地の森林の成り立ち・管理とその恵み」**
中静 透（文科省総合地球研・特任教授）「多雪山間地域のブナ林やスギ林などの森林生態系としての特徴とともに、私たちの暮らしに関わる生物多様性の恵みについて」



14:25～14:45 **講演1「旧薪炭ブナ林の林業的利用とネットワークの取組み」**
紙谷 智彦（新潟大学・名誉教授）「新潟県の豪雪山間地における旧薪炭ブナ林を対象に、ブナ林業の確立と国産ブナ材の普及に向けた上中下流が連携した課題への取組みについて」



14:50～15:10 **講演2「飛騨市における広葉樹のまちづくり」**
中村 幹広（飛騨市役所林業振興課・課長）「広葉樹のまちづくりを進める飛騨市が官民一体となって低コストで多様な広葉樹を育て、その過程で伐り出される小径木広葉樹の「新しい価値」を創造する取組みについて」



15:15～15:35 **講演3「多雪地のスギを大規模木造建築や住宅内装に活かす」**
志田 喜弘（株式会社志田材木店・代表取締役）「多雪地のスギの新たな木材の活用方法として期待されている大規模公共木造建築への利用拡大、さらに住宅内装材への新たな活用などについて」

15:40～15:45 **ブース紹介**「多雪地における林業生産活動、国産材を使った住宅の紹介、県産材を使って親子で取り組む木工体験、木製品の展示・予約販売等」



15:45～15:55 **コメントと閉会の挨拶「雪国の森をどう活かすか」**
田中 浩（森林総合研究所理事・日本森林学会副会長）

主催 一般社団法人 日本森林学会 ・ 公益社団法人 国土緑化機構「緑と水の森林ファンド助成事業
後援 新潟大学・新潟県・にいがた緑の百年物語緑化推進委員会・新潟県森林組合連合会・新潟県木材組合連合会

問合せ 第130回日本森林学会大会運営委員会 jfs130@agr.niigata-u.ac.jp

2019年度 日本森林学会各賞 受賞者および受賞業績

1. 日本森林学会賞

崎尾 均 (新潟大学)
水辺の樹木誌

2. 日本森林学会奨励賞

曾我 昌史 (東京大学)
Extinction of experience: the loss of human-nature interactions

小長谷 啓介 (森林総合研究所)
Revisiting phylogenetic diversity and cryptic species of *Cenococcum geophilum* sensu lato

津田 吉晃 (筑波大学)
Multispecies genetic structure and hybridization in the *Betula* genus across Eurasia

3. 日本森林学会学生奨励賞

河村 和洋 (北海道大学)
Effects of land use and climate on the distribution of the Jungle Nightjar (*Caprimulgus indicus*) in Hokkaido, northern Japan

伊津野 彩子 (投稿時：京都大学 応募時：森林総合研究所)
The population genomic signature of environmental association with gene flow in an ecologically divergent tree species *Metrosideros polymorpha* (Myrtaceae)

4. 日本森林学会功績賞

藤森 隆郎
森林生態学に基づく持続可能な森林管理の体系化およびその現場への普及

5. Journal of Forest Research 論文賞

Tsuyoshi Sato, Haruka Yamazaki and Toshiya Yoshida
Extending effect of a wind disturbance: mortality of *Abies sachalinensis* following a strong typhoon in a natural mixed forest. (Journal of Forest Research Vol.22, No.6, 336-342, 2017)
(筆頭著者の所属：北海道大学 現在：株式会社中嶋木材)

6. 日本森林学会誌論文賞

平野 悠一郎
日本におけるトレイルランニングの林地利用の現状と動向 —コンフリクトの表面化とランナーの対応—. (日本森林学会誌 100 巻 2 号, 55-64, 2018 年) (筆頭著者の所属：森林総合研究所)

久保山 裕史・古俣 寛隆・柳田 高志
未利用木質バイオマスを用いた熱電併給事業の成立条件. (日本森林学会誌 99 巻 6 号, 226-232, 2017 年) (筆頭著者の所属：森林総合研究所)

3月21日(木)16時から、朱鷺メッセ・マリンホールにおいて、授賞式ならびに学会賞、奨励賞、学生奨励賞の受賞者講演を行います。また、3月22日(金)にはウェーブマーケットBにてJournal of Forest Research 論文賞・日本森林学会誌論文賞のポスターを展示します。

研究発表される方へ

部門別口頭発表

部門別口頭発表の講演時間は 1 件 15 分（講演 12 分、討論 3 分） です。

部門別口頭発表の機材は、液晶プロジェクタのみとします。発表会場には、Microsoft PowerPoint 2013 をインストールしたコンピュータを準備します。発表に用いる PowerPoint ファイルは 2013 までのバージョン でご準備ください。ファイルは、USB 接続可能なメディアに保存してご持参ください。発表する 午前あるいは午後のセッション開始 10 分前までに、発表会場のコンピュータのデスクトップ上にある日付と名前のついたフォルダー（例 21日午前 経営）内にそのファイルをコピーしてください。ファイル名は「講演番号+筆頭者の名前」（例 D100000）としてください。なお、コピー後に動作確認されることをお勧めします。特にアニメーション・動画の機能を使用される場合は、ご自分で事前に動作確認されることを強くお勧めします。最近、USB メモリを介したウイルス感染の事例が増えています。使用される USB メディアのウイルスチェックも含めて、USB メモリ等の管理はご自分でお願いいたします。なお、会場設置のコンピュータからウイルスの感染が起こった場合でも、運営委員会は一切責任を負えませんのでご了承ください。

ポスター発表

ポスター発表のポスターの大きさは、A0 縦置き（高さ 1,189 mm×幅 841 mm）を基本とします。ポスターには、発表題目、発表者氏名を明記してください。運営委員会で用意するものは、パネル、講演番号、画鋺のみです。コアタイム時間には、発表者は必ず掲示場所で、発表・質疑応答を行ってください。

企画シンポジウム・公募セッション・関連研究集会での発表

運営は責任者（コーディネータ）に一任していますので、責任者からの指示に従って準備してください。

企画シンポジウム・公募セッションコーディネータ・関連研究集会責任者の方へ

企画シンポジウム・公募セッションの発表会場には、Microsoft PowerPoint 2013 をインストールしたコンピュータと 液晶プロジェクタを、関連研究集会会場には、液晶プロジェクタのみを準備します。これ以外の機器が必要な場合には各自ご準備ください。

企画シンポジウム・公募セッションについては、各会場にタイムキーパーを配置します。発表資料のコンピュータへのコピーの手順や 時間配分などは、コーディネータの責任で発表者に周知徹底するようお願いいたします。

大会へ参加される方へ

プログラム・学術講演集について

前回大会に引き続き冊子体の学術講演集（要旨集）を作成し、会場受付にて配付いたします。プログラム（印刷体）もこの学術講演集に含まれます。各要旨は、日本森林学会ホームページ（<https://www.forestry.jp/>）からリンクしたサイトにおいて 3 月初旬より閲覧できる予定です。

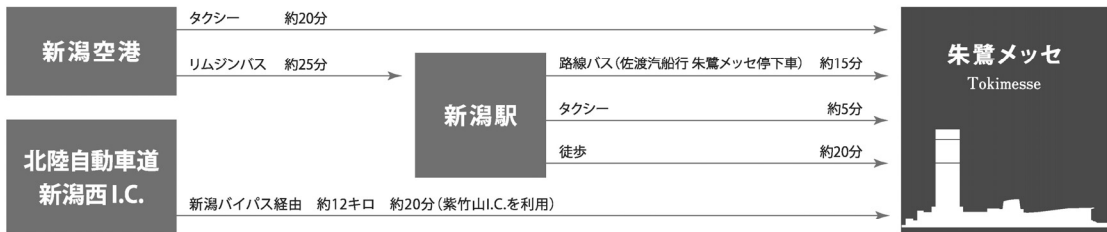
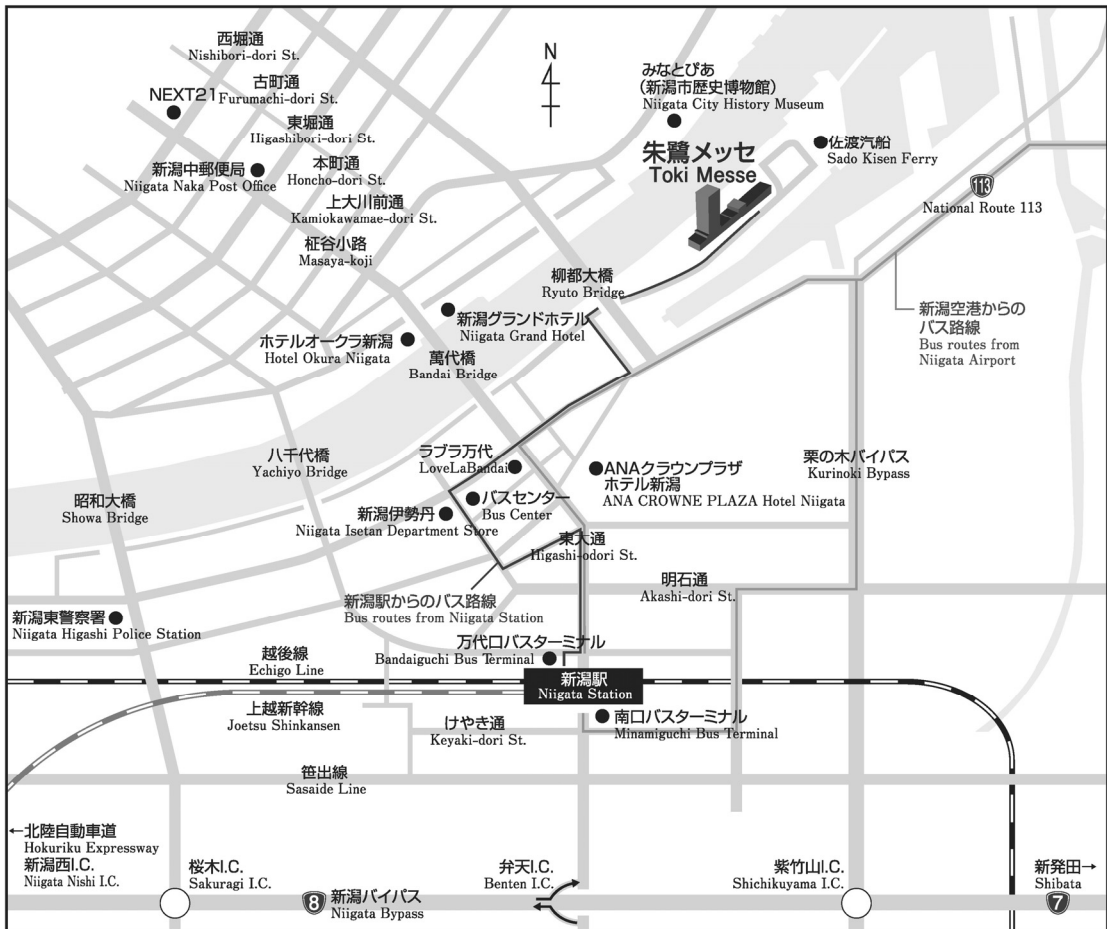
名札ケースについて

名札を収納するケースの持参をお願いいたします。運営委員会で名刺サイズの名札を用意いたしますので、お手持ちの名札ケースに入れてお使いください。

懇親会について

今大会の懇親会は、託児室を設けます。託児室を利用される方は 2 月 28 日（木）までに大会運営委員会（jfs130@agr.niigata-u.ac.jp）までお申し込みください。

交通案内



飛行機をご利用の方	札幌	新千歳空港 1日4便	約1時間15分	新潟空港
	成田	成田国際空港 1日1便	約1時間	
	大阪	大阪国際空港(伊丹空港) 1日10便	約1時間	
	名古屋	中部国際空港 1日2便 / 小牧空港 1日1便	約1時間	
	福岡	福岡空港 1日3便	約1時間45分	

鉄道をご利用の方	仙台	東北新幹線 ~ 上越新幹線 (大宮)	約3時間30分	新潟駅
	東京	上越新幹線	約2時間	
	名古屋	東海道新幹線 ~ 上越新幹線 (東京)	約4時間	
	大阪	東海道新幹線 ~ 上越新幹線 (東京)	約5時間	

お車をご利用の方	関東方面	関越自動車道 ~ 北陸自動車道	新潟西 I.C.
----------	------	-----------------	----------

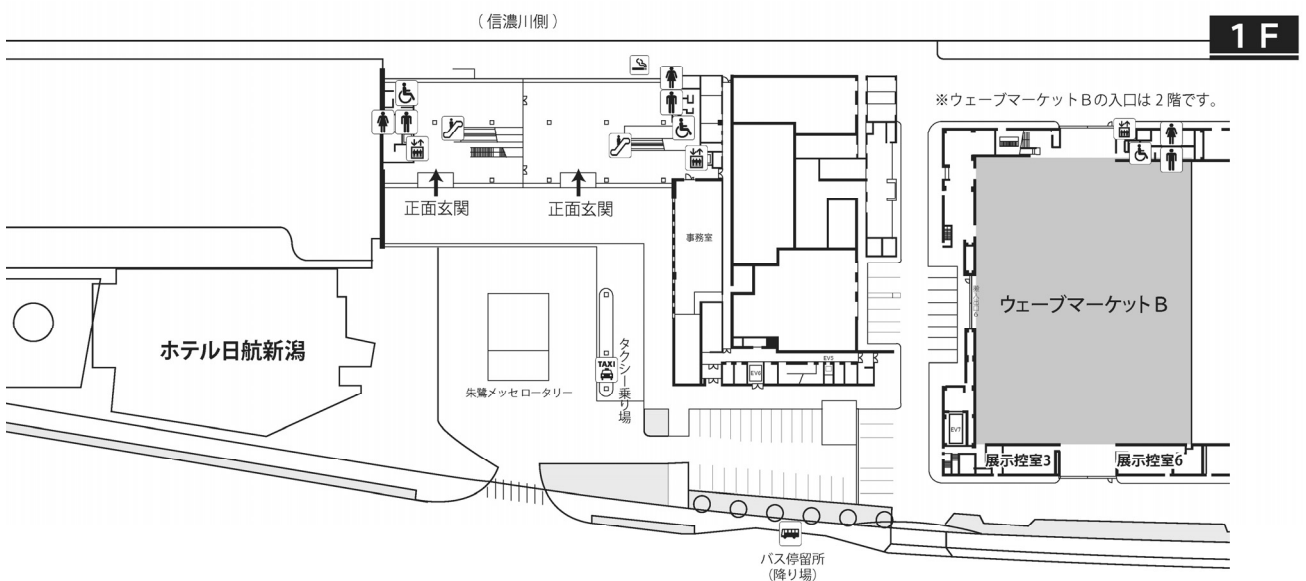
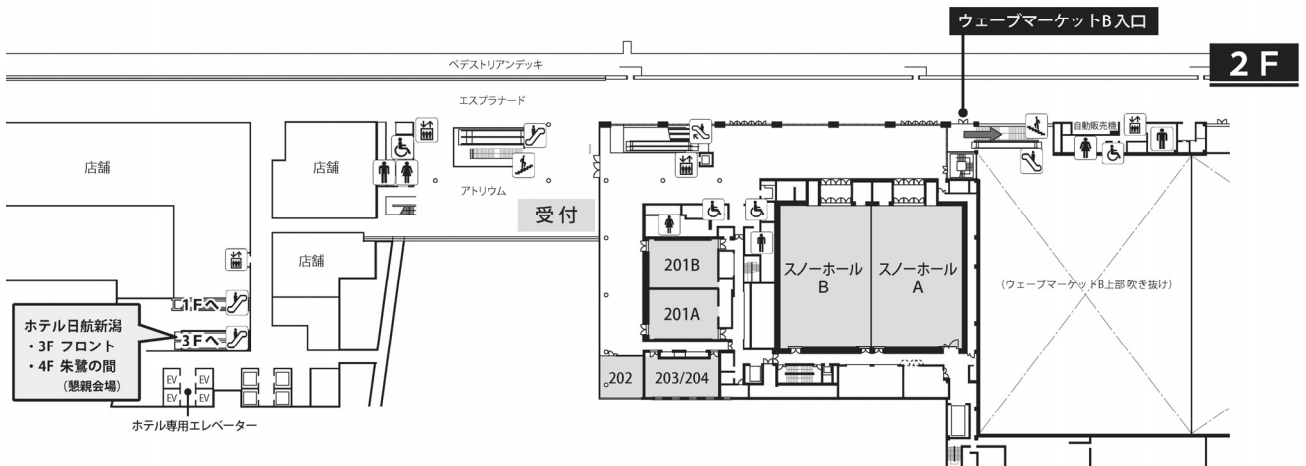
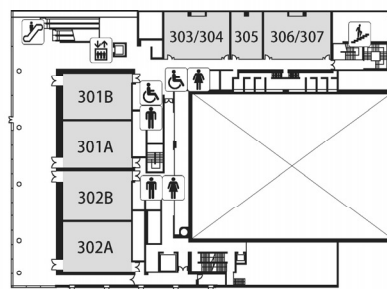
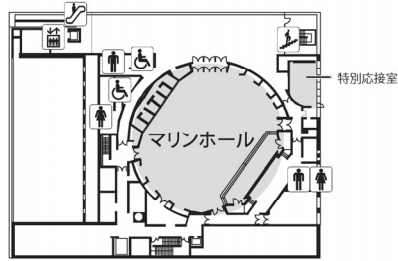
※会場までの詳しい交通案内については、朱鷺メッセのホームページをご覧ください。
<http://www.tokimesse.com/visitor/access/index.html>

【新潟駅から徒歩でお越しの場合】



新潟駅万代口→東大通交差点 → 流作場五差路交差点 → ファミリーマート右折 → ANAクラウンプラザホテル新潟前 → 柳都大橋方面 → 朱鷺メッセ

朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)



大会スケジュール 3月20日

開始時刻／会場	マリナーホール (国際会議室)	スノーホールA (メインホール)	スノーホールB (メインホール)	201A	201B	301A	301B
8:30							
8:45							
9:00							
9:15							
9:30							
9:45							
10:00							
10:15							
10:30						JFR編集委員会	
10:45							
11:00							
11:15							
11:30							
11:45							
12:00						日林誌編集委員会	森林科学編集委員会
12:15							
12:30							
12:45							
13:00							
13:15		学会企画					
13:30		森林環境税(仮称)及び森林経営管理法を契機とした森づくり				日林誌・JFR・森林科学三誌合同編集会議	中等教育連携推進委員会
13:45							
14:00							
14:15							
14:30							
14:45	S1	S2	S3	S4	S5	S6	S7
15:00							
15:15	S1-1						
15:30	S1-2						
15:45	S1-3	S2-1	S3-1			S6-1	S7-1
16:00	S1-4	S2-2	S3-2	S4-1	S5-1	S6-2	S7-2
16:15	S1-5	S2-3	S3-3	S4-2	S5-2	S6-3	S7-3
16:30	S1-6	S2-4	S3-4	S4-3	S5-3	S6-4	S7-4
16:45	S1-7	S2-5	S3-5	S4-4	S5-4	S6-5	S7-5
17:00	S1-8	S2-6	S3-6	S4-5	S5-5		S7-6
17:15	S1-9	S2-7	S3-7				
17:30	S1-10	S2-8					
17:45	S1-11						
18:00	S1-12						
18:15							
18:30							
18:45							

■学会企画(詳細は別ページをご覧ください)

会場
スノーホールA(メインホール) 森林環境税(仮称)及び森林経営管理法を契機とした森づくり ～森林環境税(仮称)及び森林経営管理法とは～

■委員会

会場
301A JFR編集委員会／日林誌編集委員会／日林誌・JFR・森林科学三誌合同編集会議
301B 森林科学編集委員会／中等教育連携推進委員会

■企画シンポジウム一覧(詳細は別ページをご覧ください)

会場
マリナーホール(国際会議室) S1. 未利用木材利用可能量推計および収穫システム
スノーホールA(メインホール) S2. 日本の人工林における気候変動適応策を考える
スノーホールB(メインホール) S3. 森林土壌は温暖化を加速するのか？
201A S4. 現代の林業専門教育はどうあるべきか - 森林科学・技術と社会を再考する
201B S5. 津波に対する減災を目的とした「多重防御」の一翼を担う海岸防災林造成のための生育基盤盛土の現状と課題
-「樹木根の成長と機能」共同シンポジウム-
301A S6. 林木の育種期間短縮への挑戦—無花粉スギの育種事例—
301B S7. 環境変化にともなう森林の生産性と分布の予測

大会スケジュール 3月20日

開始時刻／会場	302A	302B	303/304	ウェーブマーケットB (展示ホール)	アトリウム (2F)		
8:30							
8:45							
9:00							
9:15							
9:30							
9:45							
10:00							
10:15							
10:30							
10:45			ダイバーシティ 推進委員会				
11:00							
11:15							
11:30							
11:45							
12:00							
12:15					大会受付		
12:30							
12:45							
13:00							
13:15							
13:30							
13:45			森林立地 編集委員会				
14:00							
14:15							
14:30							
14:45	S8	S9					
15:00	S8-1 S8-2 S8-3 S8-4 S8-5 S8-6 S8-7	S9-1 S9-2 S9-3 S9-4 S9-5 S9-6 S9-7					
15:15							
15:30							
15:45							
16:00							
16:15							
16:30							
16:45							
17:00							
17:15							
17:30							
17:45			森林GISフォーラム 学生研究コンテスト				
18:00							
18:15							
18:30							
18:45							

■企画シンポジウム一覧(詳細は別ページをご覧ください)

会場

302A S8. スギの分布変遷を古森林学的研究手法から明らかにする

302B S9. 日本の伝統的な漆文化を継承する国産漆の増産に向けた取組

■委員会

会場

303/304 ダイバーシティ推進委員会

■関連研究集会(詳細は別ページをご覧ください)

会場

303/304 森林立地編集委員会

303/304 森林GISフォーラム学生研究コンテスト

大会スケジュール 3月21日

開始時刻／会場	マリンホール (国際会議室)	スノーホールA (メインホール)	スノーホールB (メインホール)	201A	201B	301A	301B
8:30							
8:45	T1	経営1	T2	S10	T4	S11	S12
9:00	T1-1	D1	T2-1	S10-1 S10-2 S10-3 S10-4 S10-5 S10-6 S10-7 S10-8 S10-9 S10-10	趣旨説明	S11-1 S11-2 S11-3 S11-4 S11-5 S11-6 S11-7	S12-1 S12-2 S12-3
9:15	T1-2	D2	T2-2		T4-1		
9:30	T1-3	D3	T2-3		T4-2		
9:45	T1-4	D4	T2-4		T4-3		
10:00	T1-5	D5	T2-5		T4-4		
10:15	調整・討論	調整・討論	T2-6		調整・討論		
10:30	T1-6	D6	T2-7		T4-5		
10:45	T1-7	D7	T2-8		T4-6		
11:00	T1-8	D8	総合討論		T4-7		
11:15	T1-9	D9	ポスター紹介		T4-8		
11:30	調整・討論	D10	ポスター紹介	調整・討論			
11:45		調整・討論					
12:00							
12:15							
12:30							
12:45							
13:00							
13:15		シンポジウム					
13:30		市民公開 シンポジウム 「雪国の森と木を 活かす」					
13:45							
14:00							
14:15							
14:30							
14:45							
15:00							
15:15							
15:30							
15:45	授賞式・受賞者講演						
16:00	日本森林学会 各賞授賞式・ 受賞者講演						
16:15							
16:30							
16:45							
17:00							
17:15							
17:30							
17:45							
18:00							
18:15							
18:30-20:30	懇親会（会場：ホテル日航新潟）						

■企画シンポジウム一覧(詳細は別ページをご覧ください)

- 会場
 201A S10. 森林教育研究のさらなる展開を目指して—教育活動現場との関わりを通じて—
 301A S11. 森林の分子生態学の研究成果を世界に発信するために—研究のデザインから論文投稿まで—
 301B S12. 生理部門企画シンポジウム「窒素—吸収・分配・再利用」とポスター1分紹介

■公募セッション一覧(詳細は別ページをご覧ください)

- 会場
 マリンホール(国際会議室) T1. 森林へのシカの影響とその管理
 スノーホールB(メインホール) T2. 準平衡状態へと分布が移行する中での森林の放射性セシウム研究
 201B T4. 樹木根の成長と機能

大会スケジュール 3月21日

開始時刻／会場	302A	302B	303/304	展示控室3	ウェーブマーケットB (展示ホール)	アトリウム (2F)
8:30						
8:45	林政1	S13	T5			
9:00	A1	S13-1 S13-2 S13-3 S13-4 S13-5 S13-6 S13-7 S13-8	T5-1		P1 ポスター 準備 (11:00までに掲 示してください)	企業展示準備
9:15	A2		T5-2			
9:30	A3		T5-3			
9:45	A4		T5-4			
10:00	A5		T5-5			
10:15	A6		調整・討論			
10:30	A7					
10:45	A8					
11:00	A9					
11:15	A10					
11:30	A11					
11:45	調整・討論					
12:00				学生ポスター賞 審査控室	P1 ポスター 発表	大会受付
12:15					P1 (奇数番) コアタイム	
12:30					P1 (偶数番) コアタイム	
12:45						
13:00						
13:15						
13:30						
13:45						
14:00						
14:15						
14:30						
14:45				学生ポスター賞 選考委員会	P1 ポスター 発表	
15:00						
15:15						
15:30						
15:45						
16:00						
16:15						
16:30						
16:45						
17:00					P1ポスター撤収・ 受賞ポスター移動	
17:15						
17:30						
17:45						
18:00						
18:15						
18:30-20:30	懇親会 (会場:ホテル日航新潟)					

■企画シンポジウム一覧(詳細は別ページをご覧ください)

会場

302B S13. 車両系林業機械が森林に与える影響の解明

■公募セッション一覧(詳細は別ページをご覧ください)

会場

303/304 T5. 森林環境の持つ保健休養機能の基礎的研究と応用研究

■P1ポスター発表(ウェーブマーケットB[展示ホール])

林政	P1-001~P1-011	防災	P1-180~P1-200
風致・観光	P1-012~P1-018	利用	P1-201~P1-217
教育	P1-019~P1-026	動物・昆虫	P1-218~P1-226 ※学生ポスター賞応募ポスターのみ
経営	P1-027~P1-045 ※学生ポスター賞応募ポスターのみ	T1	P1-227~P1-234
造林	P1-046~P1-064 ※学生ポスター賞応募ポスターのみ	微生物	P1-235~P1-264
遺伝・育種	P1-065~P1-082 ※学生ポスター賞応募ポスターのみ	T4	P1-265~P1-270
生理	P1-083~P1-098 ※学生ポスター賞応募ポスターのみ	特用林産	P1-271~P1-278
植物生態	P1-099~P1-130 ※学生ポスター賞応募ポスターのみ		
立地	P1-131~P1-156		
T2	P1-157~P1-179		

※ポスター番号(下3ケタ)は各配置場所に対して割り振られており、1日目と2日目で同一です。そのため、場所によっては空き番号があります。

大会スケジュール 3月22日

開始時刻／会場	スノーホールA (メインホール)	スノーホールB (メインホール)	201A	201B	203/204	301A	301B	302A
8:30								
8:45	経営2	林政2	動物・昆虫1	植物生態	T3	利用1	防災1	風致・観光1
9:00	D11	A12	L1	H1	T3-1	K1	J1	B1
9:15	D12	A13	L2	H2	T3-2	K2	J2	B2
9:30	D13	A14	L3	H3	T3-3	K3	J3	B3
9:45	D14	A15	L4	H4	T3-4	K4	J4	B4
10:00	調整・討論	A16	調整・討論	調整・討論	T3-5	K5	J5	B5
10:15	D15	A17	L5	造林1	T3-6	調整・討論	調整・討論	調整・討論
10:30	D16	A18	L6	E1	T3-7	K6	J6	B6
10:45	D17	A19	L7	E2	T3-8	K7	J7	B7
11:00	D18	A20	L8	E3	T3-9	K8	J8	B8
11:15	調整・討論	調整・討論	調整・討論	E4	T3-10	K9	J9	B9
11:30				E5	T3-11	K10	調整・討論	B10
11:45				調整・討論	調整・討論	調整・討論	調整・討論	B11
12:00								
12:15								
12:30								
12:45								
13:00					学会企画			
13:15					ダイバーシ ティ推進 ランチオン Workshop 2019			
13:30								
13:45								
14:00								
14:15	経営3	林政3	動物・昆虫2	造林2		利用2	防災2	風致・観光2
14:30	D19	A21	L9	E6		K11	J10	B12
14:45	D20	A22	L10	E7		K12	J11	B13
15:00	D21	A23	L11	E8		K13	J12	B14
15:15	D22	A24	L12	E9		K14	J13	B15
15:30	調整・討論	A25	調整・討論	調整・討論		K15	J14	B16
15:45		A26	L13	E10		調整・討論	調整・討論	B17
16:00		A27	L14	E11			J15	調整・討論
16:15		A28	L15	E12			J16	B18
16:30		A29		E13			J17	B19
16:45	学会企画	A30		E14			J18	B20
17:00	日林誌に論文を 出す	A31		調整・討論			J19	B21
17:15		A32		E15			調整・討論	B22
17:30		A33		E16			J20	B23
17:45		A34		E17			J21	調整・討論
18:00		A35		E18			J22	
18:15		A36		E19			J23	
18:30		調整・討論		調整・討論			J24	
18:45							調整・討論	

■学生ポスター賞授賞式 12:00-12:30 ウェーブマーケットB(展示ホール) 学生ポスター賞受賞ポスター掲示場所付近

■高校生ポスター表彰式等 14:00-15:45 ウェーブマーケットB(展示ホール) 高校生ポスター掲示場所付近

■学会企画(詳細は別ページをご覧ください)

会場

スノーホールA(メインホール) 日林誌に論文を出す
203/204 ダイバーシティ推進ランチオンWorkshop 2019

■公募セッション一覧(詳細は別ページをご覧ください)

会場

203/204 T3. 熱帯林研究

大会スケジュール 3月22日

開始時刻/会場	302B	303/304	306/307	展示控室3	ウェーブマーケットB (展示ホール)		アトリウム (2F)
8:30							
8:45	教育1	立地	生理				
9:00	C1	I1	G1		P2 ポスター 準備 (11:00までに 掲示して ください)	高校生 ポスター 準備 (11:00までに 掲示して ください)	
9:15	C2	I2	G2				
9:30	C3	I3	G3				
9:45	C4	I4	調整・討論				
10:00	C5	I5	G4				
10:15	調整・討論	I6	G5				
10:30	C6	調整・討論	G6				
10:45	C7	特用林産	調整・討論				
11:00	C8	N1	G7				
11:15	C9	N2	G8				
11:30	C10	N3	G9				
11:45	調整・討論	調整・討論	調整・討論	高校生 ポスター 審査控室	P2 ポスター 発表	高校生 ポスター 発表	企業展示 大会受付
12:00							
12:15							
12:30							
12:45							
13:00							
13:15							
13:30							
13:45							
14:00							
14:15	教育2	微生物	遺伝・育種		P2 ポスター 発表	高校生ポスター (奇数番) コアタイム	企業展示
14:30	C11	M1	F1				
14:45	C12	M2	F2				
15:00	C13	M3	F3				
15:15	C14	M4	F4				
15:30	調整・討論	調整・討論	F5				
15:45	C15	M5	調整・討論				
16:00	C16	M6	F6				
16:15	C17	M7	F7				
16:30	調整・討論	調整・討論	F8				
16:45		M8	F9		P2 ポスター 撤収	高校生ポスター 発表	企業展示 撤収
17:00		M9	F10				
17:15		M10	調整・討論				
17:30		調整・討論					
17:45		M11					
18:00		M12					
18:15		M13					
18:30		M14					
18:45							

■P2ポスター発表(ウェーブマーケットB[展示ホール])

経営	P2-026~059
造林	P2-060~109
遺伝・育種	P2-110~150
生理	P2-151~164
植物生態	P2-165~181
防災	P2-182~198
動物・昆虫	P2-199~227

※ポスター番号(下3ケタ)は各配置場所に対して割り振られており、1日目と2日目で同一です。そのため、場所によっては空き番号があります。

■高校生ポスター発表

高校生ポスター	KP01~KP31(配置場所番号は236~266)
高校生関連展示	KP32~KP38(配置場所番号は267~273)

■学生ポスター賞・JFR論文賞・日林誌論文賞 受賞ポスター展示

PP01~PP24(配置場所番号は001~024)

大会スケジュール 3月23日

開始時刻／会場	201A	201B	301A	301B	302A	302B					
9:00											
9:15											
9:30											
9:45											
10:00	森林計画学会 総会	第25回 森林昆虫 談話会	第23回 森林 施業研究会シンポ ジウム	森林水文・ 地球科学研究会	樹木病害 研究会	森林遺伝育種 学会総会・ 第8回 森林 遺伝育種学会 シンポジウム					
10:15											
10:30											
10:45											
11:00											
11:15											
11:30											
11:45											
12:00											
12:15											
12:30											
12:45											
13:00	森林計画学会賞										
13:15	受賞者講演会										
13:30	森林計画学会 春季シンポジウム										
13:45											
14:00											
14:15											
14:30											
14:45											
15:00											
15:15											
15:30											
15:45											
16:00											
16:15											
16:30											
16:45											
17:00											
17:15											
17:30											
17:45											

■関連研究集会一覧(詳細は別ページをご覧ください)
会場

- 201A 森林計画学会総会
- 201A 森林計画学会賞受賞者講演会・春季シンポジウム
- 201B 第25回森林昆虫談話会
- 301A 第23回森林施業研究会シンポジウム
- 301B 森林水文・地球科学研究会
- 302A 樹木病害研究会
- 302B 森林遺伝育種学会総会・第8回森林遺伝育種学会シンポジウム

口頭発表 座長

部門	発表番号	座長氏名(所属)	セッション番号	発表番号	座長氏名(所属)
林政1	A1	芳賀大地(鳥取大)	T1	T1-1~T1-5	明石信廣(北海道立総合研究機構)
	A2~A11	前の講演者が座長(司会)を務める		T1-6~T1-9	飯島勇人(森林総合研究所)
林政2	A12	横田康裕(森林総合研究所)	T2	T2-1~T2-4	小松雅史(森林総合研究所)
	A13~A20	前の講演者が座長(司会)を務める		T2-5~T2-8	大久保達弘(宇都宮大学)
林政3	A21	三木敦朗(信州大)	T3	T3-1	藤原敬大(九州大学)
	A22~A36	前の講演者が座長(司会)を務める		T3-2~T3-11	前の講演者が座長(司会)を務める
風致・観光1	B1~B5	田中伸彦(東海大学)	T4	趣旨説明	平野恭弘(名古屋大学)
	B6~B11	山本清龍(東京大学)		T4-1~T4-4	小林真(北海道大学)
風致・観光2	B12~B17	愛甲哲也(北海道大学)	T5	T4-5~T4-8	牧田直樹(信州大学)
	B18~B23	庄子康(北海道大学)		T5-1~T5-5	上原巖(東京農業大学)
教育1	C1~C5	大石康彦(森林総合研究所)	調整・討論のコマは座長の裁量で、総合討論、質疑、時間調整等にお使いください。 林政部門、T3では、講演終了後に次の講演の座長をお願いします。		
	C6~C10	井上真理子(森林総合研究所)			
教育2	C11~C14	杉浦克明(日本大学)			
	C15~C17	寺下太郎(愛媛大学)			
経営1	D1~D6	細田和男(森林総合研究所)			
	D7~D10	松村直人(三重大学)			
経営2	D11~D14	高橋正義(森林総合研究所)			
	D15~D18	平田泰雅(森林総合研究所)			
経営3	D19~D22	米康充(島根大学)			
造林1	E1~E5	酒井敦(森林総合研究所)			
造林2	E6~E9	渡邊仁志(岐阜県森林研究所)			
	E10~E14	酒井武(森林総合研究所)			
	E15~E19	吉田俊也(北海道大)			
遺伝・育種	F1~F5	岩泉正和(林木育種センター)			
	F6~F10	清水香代(長野県林業総合センター)			
生理	G1~G3	内海泰弘(九州大学)			
	G4~G6	樽本正明(静岡大学)			
	G7~G9	細尾佳宏(信州大学)			
植物生態	H1~H4	長池卓男(山梨県森林総合研究所)			
立地	I1~I6	金子真司(森林総合研究所)			
防災1	J1~J5	井手淳一郎(九州大学)			
	J6~J9	正岡直也(京都大学)			
防災2	J10~J14	南光一樹(森林総合研究所)			
	J15~J19	篠原慶規(宮崎大学)			
	J20~J24	山川陽祐(筑波大学)			
利用1	K1~K5	岩岡正博(東京農工大学)			
	K6~K10	仁多見俊夫(東京大学)			
利用2	K11~K15	吉村哲彦(島根大学)			
動物・昆虫1	L1~L4	山崎理正(京都大学)			
	L5~L8	加賀谷悦子(森林総合研究所)			
動物・昆虫2	L9~L12	中村克典(森林総合研究所)			
	L13~L15	吉田智弘(東京農工大学)			
微生物	M1~M4	松田陽介(三重大学)			
	M5~M7	竹内祐子(京都大学)			
	M8~M10	太田祐子(日本大学)			
	M11~M14	小長谷啓介(森林総合研究所)			
特用林産	N1~N3	小松雅史(森林総合研究所)			

研究発表題目(企画シンポジウム) 3月20日午後 1/2

会場	マリナーホール(国際会議室)	スノーホールA(メインホール)	スノーホールB(メインホール)	201A	201B
開始時刻	S1 未利用木材利用可能量推計 および収穫システム	S2 日本の人工林における 気候変動適応策を考える	S3 森林土壌は温暖化を 加速するのか？	S4 現代の林業専門教育は どうあるべきかー森林科学・ 技術と社会を再考する	S5 津波に対する減災を目的と した「多重防御」の一翼を担う 海岸防災林造成のための 生育基盤盛土の現状と課題 ー「樹木根の成長と機能」 共同シンポジウムー
15:00	S1-1 未利用木材利用可能量推計 および収穫システム:有賀一広(宇 都宮大学)	S2-1 日本の人工林における気候 変動適応策の現状:齊藤哲(森林総 合研究所)ら	S3-1 アジアの森林土壌有機炭 素放出の温暖化影響とフィード バック効果:梁乃申(国立研究開発 法人国立環境研究所)ら	S4-1 日本の林業専門教育の現 状:田村典江(総合地球環境学研 究所)	S5-1 生育基盤盛土に植栽したクロ マツの根系成長と土壌硬度の関係: 野口宏典(森林総合研究所)ら
15:15	S1-2 わが国における発電用木質 バイオマス燃料の競合状況の評 価:久保山裕史(国立研究開発法人 森林研究・整備機構森林総合研 究所)ら	S2-2 森林生態系および林業にお ける気候変動適応策の概観:中尾 勝洋(森林総合研究所)	S3-2 10年間の地温上昇処理が 道北の植林泥炭地の微生物呼吸 量に与える影響:高木健太郎(北 海道大学)ら	S4-2 林業技術者と職業、資格。教 育機関との接続とは:奥山洋一郎 (鹿児島大学)	S5-2 仙台湾沿岸域の海岸防災林再 生事業について:市川裕子(林野庁東 北森林管理局)
15:30	S1-3 都道府県別民有林間伐材生 産量の中長期的予測:広嶋卓也(東 京大学北海道演習林)ら	S2-3 人工林を対象とした気候変 動の影響評価モデル:鳥山淳平(森 林総合研究所)ら	S3-3 遺伝解析による土壌微生 物評価から温暖化に伴う土壌呼 吸量の変動要因を探る:近藤俊明 (広島大学)ら	S4-3 誰が市町村の林政アドバ イザーを担うべきか:小森胤樹(郡上 エネルギー株式会社)	S5-3 名取市海岸林の復興現場にお ける樹木の成長と施業の現況および 今後の課題:吉田俊通(公益財団法 人オイスカ)
15:45	S1-4 木材供給体制確立のための 地域木材生産に関する政策支援 ツールの検討:澤田直美(国際航空 株式会社)ら	S2-4 人工林の風倒リスク推定に 基づく森林計画ー現在気候下での 風倒モデリングー:森本淳子(北海 道大学)ら	S3-4 温暖化は土壌に貯留する 有機炭素にどのような変化をもた らすか?:小嵐淳(日本原子力研 究開発機構)ら	S4-4 林業専門教育にもとめられる 地域性と新規性:山本信次(岩手大 学)	S5-4 固結層形成抑制に配慮して造 成した生育基盤の土壌特性:新井隆 介(岩手県林業技術センター)ら
16:00	S1-5 地理情報を用いた原木供給 コストならびに供給量の推計:白澤 純明(信州大学)ら	S2-5 風倒の影響予測と適応策評 価ー04年18号台風の21世紀未疑 似温暖化実験:高野宏平(長野県環 境保全研究所)ら	S3-5 新たなリター供給を排除し たスギ林皆伐跡地の土壌呼吸速 度の6年間の変化:阿部有希子(東 京大学大学院)ら	S4-5 キコリからフォレスターへ。現 場から始める専門技術教育:香山 由人(企業組合山仕事創造舎)ら	S5-5 異なる地下水位の海岸に生育 するクロマツの倒伏抵抗力と根系構 造:平野恭弘(名古屋大学)ら
16:15	S1-6 木質バイオマス発電への燃 料供給体制の変化:佐藤政宗(株式 会社森のエネルギー研究所)	S2-6 気候変動に適応したスギ育 種素材の作出技術開発の取り組 み:松下通也(森林研究・整備機構)	S3-6 地中分光計測による森林 土壌有機物組成と微生物呼吸の 垂直分布の予測:中路達郎(北海 道大学)ら		
16:30	S1-7 発電用木質バイオマスの安 定供給体制構築プロセスの比較: 横田康裕(森林総合研究所)	S2-7 人工林における気候変動適 応策の研究動向:長池卓男(山梨県 森林研)	S3-7 全球スケールの土壌呼吸 量と地球温暖化:どこまで明らか になったのか?:橋本昌司(森林 総合研究所)		
16:45	S1-8 北海道における発電所向け 「未利用木材」供給の現状と木材 産業への影響:酒井明香(北海道立 総合研究機構 林産試験場)ら	S2-8 気候変動に林業が適応する ために必要な研究:河内清高(林野 庁)			
17:00	S1-9 里山コナラ林における燃材 供給可能性の検討:関子光太郎(富 山県農林水産総合技術センター森 林研究所)ら				
17:15	S1-10 再造林地で発生する枝条 量の推定ー機械地帯えの生産性 予測のためにー:大矢信次郎(長野 県林業総合センター)ら				
17:30	S1-11 長良川流域の人工林にお ける未利用木材の利用可能量の 推定:古川邦明(岐阜県森林研 究所)ら				
17:45	S1-12 未利用広葉樹と早生造林 木としてのコウヨウザンの収穫利 用可能性:鈴木保志(高知大学)ら				
18:00					
18:15					
18:30					
18:45					

企画シンポジウムについては、発表の順序を示しており、時間の配分は企画シンポジウムごとに異なります。

発表時間の厳守をお願いします。

座長は別のページに記載しています。

「調整・討論」のコマは、座長の裁量で、時間調整、総合討論等に使用します。

林政部門、T3は、直前の発表者が次の発表の司会(座長)を務めてください。

研究発表題目(企画シンポジウム) 3月20日午後 2/2

会場	301A	301B	302A	302B
開始時刻	S6 林木の育種期間短縮への 挑戦 —無花粉スキの育種事例—	S7 環境変化にともなう森林の 生産性と分布の予測	S8 スキの分布変遷を 古森林学的研究手法から 明らかにする	S9 日本の伝統的な漆文化を 継承する国産漆の増産に 向けた取組
15:00	S6-1 ロングリードで挑むスキゲノム配列決定:藤野健(東京大学)ら	S7-1 気孔反応を考慮したクロロフィル蛍光による乾燥下でのCO ₂ 吸収速度の推定:北尾光俊(森林総合研究所)ら	S8-1 花粉分析からみた最終氷期以降のスキの分布変遷:池田重人(森林総合研究所)ら	S9-1 優良ウルシ選抜に向けたDNAマーカー開発の取り組み:渡辺敦史(九州大学大学院)ら
15:15	S6-2 次世代シーケンスとAxiom SNPアレイを用いた無花粉スキ選抜マーカーの開発:長谷川陽一(新潟大学大学院)ら	S7-2 長崎に生育するヒノキの葉に沈着した粒子状物質の量と金属組成の経時的変化:山口真弘(長崎大学)ら	S8-2 遺伝解析と分布予測モデルからみた最終氷期以降のスキの分布変遷:木村恵(森林総研)ら	S9-2 青森県産ウルシ種子3集団の発芽に及ぼす発芽処理方法の影響:土屋慧(地方独立行政法人青森県産業技術センター林業研究所)
15:30	S6-3 DNAマーカーを活用した新潟県の無花粉スキ育種:戸塚聡子(新潟県森林研究所)ら	S7-3 空間的に不均一な窒素沈着は落葉広葉樹林の窒素・炭素動態に影響するか?:堅田元喜(茨城大学)ら	S8-3 スキの遺伝的分化と環境への適応:内山憲太郎(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	S9-3 ウルシにおけるさし木増殖技術の開発:井城泰一(森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場)ら
15:45	S6-4 組織培養による無花粉スキ苗の大量増殖技術の開発:丸山E.毅(森林総合研究所)ら	S7-4 我が国の森林集水域における越境輸送される物質流入の役割:佐瀬裕之(アジア大気汚染研究センター)ら	S8-4 17~19世紀の森林利用とスキの分布への影響:芳賀和樹(公益財団法人徳川黎明会 徳川林政史研究所)	S9-4 ウルシ植栽不適地における土壌の特徴:田端雅進((国研)森林研究・整備機構)ら
16:00	S6-5 スマート育種に向けたソバの遺伝・ゲノム解析:原尚資(北海道農業研究センター)ら	S7-5 富山県立山のブナ林における森林動態と広域大気汚染の影響:久米篤(九州大学)ら	S8-5 絵図から読み解く近年のスキの分布変化:岡本透(森林総合研究所)ら	S9-5 国産漆の新たな脅威・ <i>Phytophthora cinnamomi</i> :升屋勇人(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)ら
16:15		S7-6 野外操作実験による無機環境変化が樹林地構成樹木へ及ぼす影響の評価:小池孝良(北海道大学/大学院)	S8-6 施業図解析等に基づく昭和以降のスキ資源量の変化:宮本麻子(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	S9-6 植物ホルモンによる漆液増産の可能性:小谷二郎(石川県農林総合研究センター林業試験場)ら
16:30			S8-7 花粉分析と歴史史料に基づく江戸時代以降のスキ林変遷と人為影響:志知幸治(森林総合研究所)ら	S9-7 岩手県北地方におけるウルシ立木の生産性:林雅秀(山形大学)
16:45				
17:00				
17:15				
17:30				
17:45				
18:00				
18:15				
18:30				
18:45				

企画シンポジウムについては、発表の順序を示しており、時間の配分は企画シンポジウムごとに異なります。

発表時間の厳守をお願いします。

座長は別のページに記載しています。

「調整・討論」のコマは、座長の裁量で、時間調整、総合討論等に使用します。

林政部門、T3は、直前の発表者が次の発表の司会(座長)を務めてください。

研究発表題目(企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表) 3月21日午前 1/2

会場	マリンホール(国際会議室)	スノーホールA(メインホール)	スノーホールB(メインホール)	201A	201B
開始時刻	T1 森林へのシカの影響とその管理	経営1	T2 準平衡状態へと分布が移行する中での森林の放射性セシウム研究	S10 森林教育研究のさらなる展開を目指してー教育活動現場との関わりを通じてー	T4 樹木根の成長と機能
9:00	T1-1 電子機器を活用したシカ対策:小林正秀(京都府森林技術センター)	D1 全地球画像を用いた森林計測ツールの開発:金森匡彦(一般社団法人 日本森林技術協会)ら	T2-1 スギ茎葉に含まれる放射性Csの根への転流とKの影響:関本均(宇都宮大学)ら	S10-1 大学演習林による社会人林業技術者教育の実践:声原誠一(鹿児島大学) S10-2 新潟大学佐渡演習林における森林教育実践と今後の展望:阿部晴恵(新潟大学)ら S10-3 中学校技術科の生物育成の教育内容と「林木の育成」の具体例:谷田親彦(広島大学) S10-4 教員養成における木育を意図した授業内容の検討とその実践:大内毅(福岡教育大学) S10-5 学生のSDGsのアクション? 森林資源と学生の研究と学びの場?:佐々木豊志(青森大学) S10-6 森林教育の担い手の現在:前田和司(北海道教育大学岩見沢校) S10-7 森林文化の教育的機能:張本文昭(沖縄県立芸術大学)	趣旨説明 T4-1 クロマツと広葉樹4種の滞水に対する応答ー細根成長と形態に着目してー:藤田早紀(東京大学)ら T4-2 Postfire dynamic of fine root biomass in boreal forest on Russian Far East: Bryanin Semyon (Russian Academy of Sciences, Far Eastern Branch) et al. T4-3 ヒノキ林表層土壌における細根の脱落根量とその形態:吉田蔵(名古屋大学)ら
9:15	T1-2 新植地を利用するニホンジカのGPS首輪による行動追跡:大場孝裕(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)ら	D2 k近傍法とFIAデータによる米国ジョージア州沿岸部における森林蓄積量の推定:小幡進午(ジョージア大学)ら	T2-2 ¹³⁷ Cs/ ¹³⁵ Cs比を用いたスギの終根吸収 ¹³⁷ Cs量の推定1:渡邊未来(国環研)ら	S10-8 秋田県における森林環境教育の推進について:花田健介(秋田県) S10-9 「やまがた木育」の取組みについて:伊藤志津(山形県)	T4-4 樹木根の分解への樹種とサイズの影響ー羊ヶ丘実験林における長期分解試験ー:酒井佳美(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)
9:30	T1-3 再造林地における防護柵内に侵入するニホンジカの行動観察:小松鷹介(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)ら	D3 標準樹高曲線の実現可能性の検討:細田和男(森林総合研究所)ら	T2-3 ¹³⁷ Cs/ ¹³⁵ Cs比を用いたスギの終根吸収 ¹³⁷ Cs量の推定 2:今村直広(森林総合研究所)ら	S10-10 問題意識を醸成し自分ごととして考える森林学習ー小学校社会科を通してー:中橋浩太(世田谷区立等々力小学校)	T4-5 ミニライフトロン法による苗場山ブナ林における細根動態の解析:野口享太郎(森林総合研究所東北支所)ら
9:45	T1-4 防護柵の破損リスク要因の検討:飯島勇人(国研) 森林総合研究所)ら	D4 モウソウチク林における密度管理図の調製:井上昭夫(熊本県立大学)ら	T2-4 シイタケ原木林広葉樹当年度の放射性セシウム濃度の樹種間差:三浦寛(森林総合研究所)ら		T4-6 冷温帯性樹木の細根フェノロジー:地上部との非類似性や機能群による違い:小林真(北海道大学)ら
10:00	T1-5 食痕から生息を探る:ニホンジカ・カモシカ識別キット陽性率変動要因の検討:高橋裕史(森林総合研究所)ら	D5 国家森林資源調査におけるデータの連続性評価:北原文章(森林総合研究所)	T2-5 きこのこに含まれる ¹³⁷ Csの生態学的半減期:岡田直紀(京都大学)		T4-7 次数別の形態特性から見る直径2 mm以下全体の根系構造:土居龍成(名古屋大学大学院)ら
10:15	調整・討論	調整・討論	T2-6 公開データを活用した野生きのこの放射性セシウム汚染特性の解析:小松雅史(国立研究開発法人森林研究・整備機構)ら		T4-8 近赤外分光法を用いた樹木細根の混合割合推定の試み:宮本和樹(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら
10:30	T1-6 丹沢山地におけるニホンジカ捕獲後の林床植生の変化:田村淳(神奈川県自然環境保全センター)ら	D6 FSC日本国内森林管理規格策定の報告:三柴ちさと(東京大学、日本森林管理協議会(FSCジャパン))	T2-7 福島原発事故から8年後の森林の放射能汚染状況:加藤弘亮(筑波大学)ら		調整・討論
10:45	T1-7 大台ヶ原のブナ・ウラジロモミ林におけるシカの影響と回復の可能性:明石信廣(北海道立総合研究機構)ら	D7 ICTを利用した森林情報整備の在り方:鹿又秀聡(森林総合研究所)	T2-8 インパクト機構トルク増幅による廉価な成長錐コア採取装置:香川聡(森林総合研究所)		
11:00	T1-8 岐阜県における下層植生衰退速度指数とニホンジカの撮影頻度の比較:池田敬(岐阜大学)ら	D8 森林資源情報の整備とICT林業活性化について:松村直人(三重大学)ら	総合討論		
11:15	T1-9 兵庫県におけるシカによる下層植生衰退速度(SDR)の12年間の変化:藤木大介(兵庫県立大学)	D9 地上レーザー計測を活用した林業生産システムの展望:千葉幸弘(株式会社アドイン研究所)ら	ポスター紹介		
11:30	調整・討論	D10 レーザセンシングによるスマート精密林業技術の実践:加藤正人(信州大学)ら	ポスター紹介		
11:45		調整・討論			
12:00 ~ 13:30	P1ポスター発表コアタイム				

企画シンポジウムについては、発表の順序を示しており、時間の配分は企画シンポジウムごとに異なります。

発表時間の厳守をお願いします。

座長は別のページに記載しています。

「調整・討論」のコマは、座長の裁量で、時間調整、総合討論等に使用します。

林政部門、T3は、直前の発表者が次の発表の司会(座長)を務めてください。

研究発表題目(企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表) 3月21日午前 2/2

会場	301A	301B	302A	302B	303/304
開始時刻	S11 森林の分子生態学の研究 成果を世界に発信するために —研究のデザインから 論文投稿まで—	S12 生理部門企画シンポジウム 「窒素—吸収・分配・再利用」 とポスター1分紹介	林政1	S13 車両系林業機械が森林に 与える影響の解明	T5 森林環境の持つ保健休養 機能の基礎的研究と 応用研究
9:00	S11-1 論文の書き方:内藤健(農研 機構) S11-2 日本の森林遺伝学及び分 子生態学分野の成り立ちから現在 まで:津村義彦(筑波大学)	S12-1 窒素同位体比を用いた樹 木の窒素吸収源の推定:田中(小 田)あゆみ(信州大学) S12-2 草本植物との比較から見 てくる、樹木の光合成系におけ る窒素利用の特異性:宮澤真一(森林 研究・整備機構 森林総合研究所)	A1 住宅用木材需要の変遷とプレ カット工場およびハウスメーカーの 戦略:坂野上なお(京都大学)	S13-1 車両系林業機械による林内 作業と林分への影響 —森林利用 分野の視点から—:佐々木尚三(森 林総合研究所) S13-2 集材路での車両走行後 における土壌物理性の回復:佐藤弘 和(地方独立行政法人北海道立 総合研究機構林業試験場)ら	T5-1 注意回復要素とマインドフル ネスとの関連:尾崎勝彦(フリーラン ス)ら
9:15	S11-3 チーム戦で進める大学研究 室での研究活動:阪口翔太(京都大 学) S11-4 データ解析・論文原稿作成 における自動化と再現性:玉木一 郎(岐阜県立森林文化アカデミー)	S12-3 結実による落葉樹個体内の 窒素循環への影響:韓慶民(国立研 究開発法人森林研究・整備機構)	A2 沖縄県におけるプレカット工場 の展開:知念良之(琉球大学)ら	S13-3 攪乱を受けた団粒の再形 成過程における土壌物理性の変 化:小野裕(信州大学)ら	T5-2 森林散策による高血圧症予 防の検証:大規模疫学調査J- MIOC Study 静岡地区:森田えみ (国立研究開発法人森林研究・整 備機構)ら
9:30	S11-5 冒険に身をゆだねる:海外 研究留学から秘島野外調査まで: 高山浩司(京都大学)		A3 日本の木材チップ取引におけ る組織間関係:早船真智(国立研究 開発法人森林総合研究所)	S13-4 先進林業機械による土壌攪 乱が土壌微生物群集および窒素 動態に与える影響:館野隆之輔(京 都大学)	T5-3 デバイス化された森林環境 要素の休憩時における心身の回 復効果:高山範理(国立研究開発法 人森林研究・整備機構森林総合研 究所)ら
9:45	S11-6 海外ネットワークの構築で 研究が捗った!?:もがきつづける 1研究者の事例:梶田忠(琉球大学)		A4 農林業センサス個票の統合概 要および経営体の組織区分につ いて:田村和也(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研 究所)	S13-5 踏圧と窒素付加に対する植 栽当年のグイマツ雑種F、苗木の成 長と生理応答:菅井徹人(北海道大 学)ら	T5-4 身近な緑地環境を利用した カウンセリングの事例:上原巖(東京 農業大学)
10:00	S11-7 論文投稿のモチベーション をどう維持するか:ライフ・ワーク ・バランス?:津田吉晃(筑波大学)		A5 茨城県産材センターの稼働に 対する森林組合の対応:興沼克久 (筑波大学)ら	S13-6 トドマツの損傷と腐朽:徳田 佐和子(道総研 林業試験場)ら	T5-5 山中湖に暮らす地域住民の 「森林と健康」に関する意識調査: 竹内啓恵(東京大学大学院)ら
10:15			A6 木材取引情報の非対称性に対 する協定取引の影響—高原林業 地を事例として—:茂木もも子(筑波 大学)ら	S13-7 林業機械の伐出作業に伴う トドマツ残存立木幹・地表部根系の 損傷と腐朽被害:山口岳広(国立研 究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	
10:30			A7 間伐材の安定供給に向けた生 産コスト面からの課題:幡建樹(東 京大学)ら	S13-8 樹幹傷に起因する腐朽—ス ギ、ヒノキの事例と今後の課題:服 部力(森林総合研究所)	
10:45			A8 日本の素材生産における生産 性の推移:新井結詞(筑波大学大学 院)ら		
11:00			A9 森林投資における効果試算に 関する一考察:田中慧吾(東京大 学)		
11:15			A10 宇都宮大学演習林材はどの ように買われていくのか:林宇一(宇 都宮大学)ら		
11:30			A11 木材の持続可能な供給のネッ トワークと駆動力:藤原敬(林業経 済研究所/持続可能な森林フォー ラム/ウッドマイルズフォーラム)ら		
11:45			調整・討論		
12:00 ~ 13:30	P1ポスター発表コアタイム				

企画シンポジウムについては、発表の順序を示しており、時間の配分は企画シンポジウムごとに異なります。

発表時間の厳守をお願いします。

座長は別のページに記載しています。

「調整・討論」のコマは、座長の裁量で、時間調整、総合討論等に使用します。

林政部門、T3は、直前の発表者が次の発表の司会(座長)を務めてください。

研究発表題目(公募セッション・部門別口頭発表) 3月22日午前 1/2

会場	スノーホールA(メインホール)	スノーホールB(メインホール)	201A	201B	203/204	301A
開始時刻	経営2	林政2	動物・昆虫1	植物生態	T3 熱帯林研究	利用1
9:00	D11 Monitoring Forest Disturbances around Zeytsky State Nature Reserve, Russia using Remote Sensing:カタンチャルンチュラプッシュ(東京大学)ら	A12 タンザニアの国内政治状況が国際気候政策への対応に及ぼす影響:福島崇(亜細亜大学)	L1 薬剤を樹幹注入したブナ林の樹冠昆虫と鳥類の生息状況:谷脇徹(神奈川県自然環境保全センター)	H1 極東ロシア・ゼーヤ自然保護区における森林植生:特に森林火災が及ぼす影響:和田直也(富山大学)ら	T3-1 Researches on planted forests in Southeast Asia - Approaches from Japan:岡裕泰((国研)国際農林水産業研究センター)	K1 素材生産現場IoTによる作業システム管理と改善効果:仁多見俊夫(東京大学)ら
9:15	D12 Sentinel 2 画像を用いた2018年台風21号による風害林分の被害把握:高橋正義(森林総合研究所)ら	A13 タイにおける森林管理の地方分権化ー森林政策の歴史のアプローチ:久留島啓(東京大学)	L2 ヒノキ採種園における樹幹注入剤によるチャバネアオカメムシの防除効果:佐藤章博(岐阜県森林研究所)	H2 地形が東シベリアカラマツ林の分布に与える影響の広域シミュレーション:佐藤永(海洋研究開発機構)	T3-2 REDD+ Engagement Types Preferred by Japanese Private Firms:江原誠(森林総合研究所)ら	K2 ICTによる国産材サプライチェーン・マネジメント・システムのモデル化:繁田直樹(東京大学大学院 農学生命科学研究科)ら
9:30	D13 干渉SAR技術を用いた泥炭湿地林開発にともなう炭素排出量の評価:林真智(宇宙航空研究開発機構)ら	A14 FITIにおける木質バイオマスの温室効果ガス基準の必要性:泊みゆき(東京大学大学院)ら	L3 天敵微生物製剤バイオリサマタラを事業的に連年施用した際の防除効果:佐藤大樹(国立研究開発法人森林研究整備機構 森林総合研究所)ら	H3 札幌円山原始林の成り立ちと推移:春木雅寛(北海道大学)ら	T3-3 Impacts of socio-economic development on deforestation in Myanmar: an econometric approach:道中哲也(森林総合研究所)ら	K3 スマートチェーンソーによる伐倒造材作業工程把握:丸山泰史(東京大学)ら
9:45	D14 UAVカラー画像を用いたマツ枯れ判別手法の開発:星川健史(静岡県農林技術研究所)ら	A15 2000年代の森林法制度と森林所有者:大塚生美(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所)	L4 侵略的外来種による猛禽類群集の崩壊過程:工藤琢磨(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)	H4 スギ林及びヒノキ林土壌の撥水成分の抽出:光安啓二(九州大学)ら	T3-4 Three years implementation of PFES in Thua Thien Hue Province, Vietnam: Hoang Phan Bich Ngoc(九州大学) et al.	K4 無人航空機による空中写真画像を用いたスギ・ヒノキ林における単木樹種判別:佐々木重樹(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)ら
10:00	調整・討論	A16 森林計画制度前夜ー制度はなぜできたかー:山本伸幸(森林総合研究所)	調整・討論	調整・討論	T3-5 Transition of Political Forest in Indonesia: Key Policy Challenges of Its Reform:藤原敬大(九州大学)	K5 森林IoTの試験運用と今後の展開について:井内正直(森林IoT推進協会)ら
10:15	D15 Forest resource interpretation at the individual tree level using a SLAM laser scanning system:トウ送求(信州大学)ら	A17 木炭産業の展開過程に関する史的考察:土屋智樹(東京農業大学大学院)ら	L5 マツノマダラカミキリの受精と産卵ー野淵(1976)の再検討ー:江崎功二郎(石川県農林総合研究センター林業試験場)	造林1	T3-6 Prospects of a new social forestry initiative in the jurisdiction of the State Forestry Corporation in Java, Indonesia:大田真彦(九州工業大学)	調整・討論
10:30	D16 航空機レーザーセンサーデータの天然林管理への応用:平田泰雅(国立研究開発法人 森林総合研究所)ら	A18 林産品と地理的表示の保護制度・国際情勢と岩手県の切炭を事例として:香坂玲(東北大学)ら	L6 2017年と2018年に同一丸太から羽化したクビアカツヤカミキリ成虫の比較:浦野忠久((国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所)	E1 スギコンテナ苗において、出荷作業に最適な根鉢をもつ苗木を選別する手法:齋藤隆美(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	T3-7 Between Territorialization and Customary Forest: A Local Wisdom on "Suf" Forest in Timor Island, Indonesia: Budiman Imam (Kyushu University) et al.	K6 新たな小型マルチャーによる根株粉砕性能:渡辺一郎(北海道総合研究機構林業試験場)
10:45	D17 普及型ドローンを用いた単木レベルの森林解析・森林情報の可視化:千代西尾輔(信州大学)ら	A19 高齢化と木造率に関する一考察ー住宅・土地統計調査によるー:松下幸司(京都大学)ら	L7 <i>Bursaphelenchus doui</i> の寄生型成虫はカミキリムシに寄生するのか?:小澤壮太(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 東北支所)ら	E2 林地での除草剤(液剤)散布の工程調査事例:外館聖八朗(ノースジャパン素材流通協同組合)	T3-8 Forestland grabbing, land rights and sustainable development of Sal forests: insight from Bangladesh: ISLAM KAZI KAMRUL(Kyushu University) et al.	K7 チェーンソーウインチによる集材作業の生産性と労働負担の評価:吉村哲彦(島根大学)ら
11:00	D18 TLSを用いた樹木の形質調査のための形状処理手法:江藤信輔(電気通信大学)ら	A20 日本における関税撤廃が国内林業セクターに及ぼす影響:熊悠宇至(筑波大学大学院)ら	L8 飛来消長と被害木分布から探るカンノナガキウムシの穿孔対象木決定様式:山崎理正(京都大学)ら	E3 1年間の下刈省路で雑草木がスギの成長に与える影響:野宮治人((国研)森林機構 森林総合研究所九州支所)	T3-9 Forest utilization and livelihoods structure in a good practice site of community forest, Cambodia:御田成顕(九州大学)ら	K8 フォワードの自律走行のための超音波距離センサによる切取のり面の連続検出:小野祥(東京農工大学)ら
11:15	調整・討論	調整・討論	調整・討論	E4 山口県におけるシカ低嗜好性樹木の検証:渡邊雅治(山口県農林総合技術センター)	T3-10 Livelihood Transition and Changing Role of Community Forestry: A Case Study in Nyaung Shwe Township, Shan State, Myanmar: Phyu Phyu SoeThel (Kyoto University) et al.	K9 森林作業道切土のり頭に残された立木は安定しているのか?:松本武(東京農工大学)ら
11:30				E5 植栽苗に及ぼすツリーシェルターの効果と問題点の研究レビュー:安部哲人(森林総合研究所)	T3-11 Sustainable <i>Acacia catechu</i> Forest Management through Cutch Production in Saw Township, Magway Region, Myanmar: Maung Wai Phyo (Kyoto University) et al.	K10 災害に強い路網のための資材開発:不織布とコンクリートキャンバス:檜崎タツヤ(FOREST MEDIA WORKS)ら
11:45				調整・討論	調整・討論	調整・討論
12:00 ~ 13:30	P2ポスター発表コアタイム					

発表時間の厳守をお願いします。

座長は別のページに記載しています。

「調整・討論」のコマは、座長の裁量で、時間調整、総合討論等に使用します。

林政部門、T3は、直前の発表者が次の発表の司会(座長)を務めてください。

研究発表題目(部門別口頭発表) 3月22日午前 2/2

	301B	302A	302B	303/304	306/307
開始時刻	防災1	風致・観光1	教育1	立地	生理
9:00	J1 土壌浸食モデルを用いた森林流域の長期土砂流出量推定:堀田紀文(東京大学)ら	B1 自然地域における混雑度の許容限界評価:順序ロジックモデルの適用:庄子康(北海道大学)ら	C1 中学生を対象とした森林の保水力実験に関する理科の授業実践:東原貴志(上越教育大学)ら	I1 アカマツ実生苗のセシウム・カリウム吸収に及ぼす菌根菌の影響:小河澄香(森林総合研究所)ら	G1 苗木において根切りが葉の萎れと幹の透水性に及ぼす影響:梅林利弘(北海道大学)ら
9:15	J2 ヒノキ人工林において雨滴エネルギーを決定する要因の解明:篠原慶規(宮崎大学)ら	B2 大山における山岳トイレ整備:携帯トイレと費用負担の導入の可能性:岡野瑞樹(北海道大学)ら	C2 大学の選択科目「森林環境教育論」の内容と成果-日本大学での実践をもとに-井上真理子(森林総合研究所)ら	I2 苗場山ブナ林における土壌有機炭素分解に対する温暖化影響:寺本宗正(独立研究開発法人国立環境研究所)ら	G2 落葉広葉樹の根部透水機能の回復性にどのような生理的特性が影響するのか:三木直子(岡山大学)ら
9:30	J3 土石流扇状地の地形発達サイクルが流域源頭部からの土砂流出に及ぼす影響:経隆悠(森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	B3 都市公園の生態系サービスの評価:部分プロファイル型選択型実験を用いて:金慧隣(北海道大学大学院 農学院)ら	C3 人と自然との関係性を考える森林科学カリキュラム構成-秋田県立大学の事例:藤田明史(秋田県立大学)ら	I3 異なる盛土資材における5成長期後のクロマツについて:福山文子(福島県林業研究センター)ら	G3 落葉広葉樹環孔材における孔道管の形成過程:工藤佳世(秋田県立大学)ら
9:45	J4 流水混じり土砂流の流下・捕捉過程の数値計算:鈴木拓郎(国研 森林研究・整備機構)ら	B4 各種地理情報を用いた森林散策ポテンシャルマッピング:松浦俊也(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	C4 林業アカデミー設立に関する諸課題:小菅良豪(にちなん中国山地林業アカデミー)	I4 年平均気温と土壌条件がヒノキの樹冠葉素動態に及ぼす影響:福垣善之(森林総合研究所)ら	調整・討論
10:00	J5 スコアア堆積地の防災対策における地域住民の取り組み:田中賢治(国土防災技術株式会社)ら	B5 滋賀県比良地域の里山における市民活動と自然資源のネットワーク化:深町加津枝(京都大学)	C5 オーストリアの森林・林業教育システム:寺下太郎(愛媛大学)	I5 スギとヒノキの葉と細根から分解過程で放出される有機・無機の窒素とリン:谷川東子(森林総合研究所)ら	G4 根腐病は樹木の根系よりも葉の光合成機能にダメージを与える:矢崎健一(国研)森林機構 森林総合研究所)ら
10:15	調整・討論	調整・討論	調整・討論	I6 奥秩父山地における落葉分解過程に対する落葉形質と環境要因の影響:田沼美雪(千葉大学大学院)ら	G5 リュウキュウコクタン繁殖枝の剥皮が光合成産物の転流、糖蓄積に及ぼす影響:谷口真吾(琉球大学)ら
10:30	J6 2018年北海道胆振東部地震によって発生した山地崩壊とテラフ層の関係:柳井清治(石川県立大学)ら	B6 Sacred Forest and Tourism: Focusing on Sacred Yen Tu Mountain in Vietnam.: LEKHANHL Y (Sophia University) et al.	C6 小学校での教科横断的な森林環境教育の効果-「森のノート」の分析から:平山大輔(三重大学)	調整・討論	G6 常緑樹実生の積雪下での生存と生理的变化:吉村謙一(山形大学)ら
10:45	J7 平成30年7月豪雨により発生した斜面崩壊の解析:小杉賢一朗(京都大学大学院)ら	B7 大津市南小松の絵図に基づく江戸から明治初期の土地利用:安藤滉一(京都大学)ら	C7 児童の生活空間と樹木との関係-神奈川県藤沢市の事例-:杉浦克明(日本大学)ら	特用林産	調整・討論
11:00	J8 ベトナム中部の地すべり地での地表変位の測定手法の比較:浅野志穂(国立研究開発法人森林研究・整備機構)ら	B8 森林美学の系譜とその現代的意義:芝正己(琉球大学)	C8 ロングトレイルにおける自然体験活動が小学生のレジリエンスに及ぼす効果:山田亮(北海道教育大学岩見沢校)ら	N1 キリ玉植苗(地上部切除苗)の開発:手代木徳弘(福島県林業研究センター)	G7 <i>Eucalyptus camaldulensis</i> の没食子酸合成に関わる脱水素酵素の同定:田原恒(国立研究開発法人森林研究・整備機構)ら
11:15	J9 深層崩壊発生場の地盤構造評価に向けた自然電位法の適用性検証:山川陽祐(筑波大学)ら	B9 立山の自然景観に対するヒューマンインパクトと保全:大宮徹(富山県農林水産総合技術センター 森林研究所)	C9 長野市財産区有林での小学生の森林体験を補完拡張する定点カメラ映像の活用:中村和彦(東京大学)	N2 マツタケの収量と天候との関連:古川仁(長野県林業総合センター)ら	G8 ブナ葉のリボソーム遺伝子発現におけるエビジェネティック制御:斎藤秀之(北海道大学)
11:30	調整・討論	B10 モンゴル・フスタイ国立公園内外における協働型自然資源管理の現状と課題:宮坂隆文(名古屋大学)ら	C10 高校生が学校の遠足行事を通して、林業で有名な旧宮川村について学ぶ:小西伴尚(三重中学校・高等学校)ら	N3 鹿児島県の竹資源利用の現状製竹業者に対するアンケート調査を通じて:孫鵬程(京都大学)ら	G9 ゲノム編集によるスギの遺伝子変異と無花粉化:西口満(森林総合研究所)ら
11:45	調整・討論	B11 上高地の自然管理に対する重層的合意形成:自然公園の協働型管理に着眼して:矢作郁理(信州大学大学院)	調整・討論	調整・討論	調整・討論
12:00 ~ 13:30	P2ポスター発表コアタイム				

発表時間の厳守をお願いします。

座長は別のページに記載しています。

「調整・討論」のコマは、座長の裁量で、時間調整、総合討論等に使用します。

林政部門、T3は、直前の発表者が次の発表の司会(座長)を務めてください。

研究発表題目(部門別口頭発表) 3月22日午後 1/2

会場	スノーホールA(メインホール)	スノーホールB(メインホール)	201A	201B	301A
開始時刻	経営3	林政3	動物・昆虫2	造林2	利用2
14:30	D19 UAV空撮の撮影高度とDTMの違いが樹高計測精度に及ぼす影響:小林裕之(富山県農林水産総合技術センター)	A21 自然保護契約制度の内実と応用可能性:堀靖人(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)	L9 ピロウドカミキリに感染しているホルバキアが引き起こす細胞質不和合:相川拓也(森林総合研究所)	E6 暖温帯から冷温帯まで混交するヒノキの更新機構に関する一考察:酒井武(森林総合研究所)	K11 パネーダッシュボッドモデルを用いた集材架線に発生する衝撃の定式化:植之原碧(東京農工大学)
14:45	D20 UAV-SfMデータとDeep Learningを用いたトドマツ人工林単木材積推定の試み:竹内史郎(北海道立総合研究機構林業試験場)	A22 ロシア連邦国立公園の管理問題に関する研究 —バイカル湖を事例として—:タタウロワナデジダ(岩手大学大学院連合農学研究所)	L10 ヒゲナガカミキリ族カミキリとサイセンチュウ属線虫の共種分化関係:土岐和多瑠(名古屋大学)	E7 愛媛県久万高原町ヒノキ人工林における天然更新 VI:豊田信行(愛媛大学)	K12 林業労働環境改善を目指した林業版WISE(WIF)の開発:山田容三(愛媛大学)
15:00	D21 畳み込みニューラルネットワークを用いた航空写真による高精度樹種分類:溝口知広(日本大学)	A23 中山間地域における森林所有と環境意識の関係:中村省吾(国立研究開発法人国立環境研究所)	L11 Evolutionary relationship between the genus <i>Platycerus</i> and its yeast symbionts in East Asia:朱雪(東京大学)	E8 高齢人工林の帯状伐採跡地におけるヒノキと広葉樹の更新状況:酒井敦(森林総合研究所四国支所)	K13 森林空間情報に基づく林業機械の最適運用計画と生産性評価:佐藤高士(東北大学)
15:15	D22 RTK測量を用いたUAVによる森林計測精度の向上II:米康充(鳥根大学)	A24 森林への価値の多様化—野洲川上流域集落の事例から:石橋弘之(総合地球環境学研究所)	L12 Diversity of ambrosia beetles on the monoculture and polyculture systems of <i>Albizia</i> forest: Tarno Hagus (University of Brawijaya) et al.	E9 間伐時に下層木を保全したヒノキ林における7年間の林床植生の種組成変化:山岸極(宮崎大学)	K14 資源分布を考慮したバイオマス利用施設の最適配置:阪本絵奈(東京大学)
15:30	調整・討論	A25 中国建国後の森林管理における村規民約の有効性:高井恵(東京大学)	調整・討論	調整・討論	K15 竹チップの熱利用の可能性:岩岡正博(東京農工大学)
15:45		A26 「禁伐林台帳」から読み解く明治初期の禁伐林と山村の暮らし:赤池慎吾(高知大学)	L13 熊本県球磨地域の造林地で発生したニホンジカによる食害への防除技術の検討:川中守(熊本県林業研究指導所)	E10 広葉樹造林地の植栽後10年間の林分発達過程 早生樹探索と造林手法の検討:江島淳(佐賀県林業試験場)	調整・討論
16:00		A27 インドネシア焼畑先住民のアプラヤン依存打ち止め戦略:沖田広希(東京大学)	L14 北海道のトドマツ人工林とカンバ二次林におけるハナアブ類の種構成:佐藤重穂(森林総合研究所)	E11 300年生超クロマツ林の個体成長と枯死確率を予測するモデルを作る:正木隆(国立研究開発法人森林研究・整備機構)	
16:15		A28 市民アンケートの結果にみる市林業行政の課題と展望—飛騨市の調査から:中村幹広(飛騨市役所)	L15 トラップにより捕獲したトビムシ画像データ解析に対する機械学習の適用:後藤和明(兵庫県立大学)	E12 カラマツ人工林皆伐・地掻き15年後の広葉樹の実生更新・萌芽再生状況:杉田久志(雪森研究所)	
16:30		A29 水源涵養機能を重視した森林経営への転換—横浜市有志水源林を事例に—:山口広子(筑波大学)		E13 母樹保残法による伐採から21年後のコナラ天然下種更新試験地:沼宮内信之(一般社団法人日本森林技術協会)	
16:45	学会企画 日林誌に論文を出す	A30 自治体林政の政策波及:森林環境税と森林づくり条例を事例に:梶間周一郎(東北大学大学院)		E14 施業履歴の異なる高齢ジョイ二次林の更新動態について:佐藤保(森林研究・整備機構 森林総合研究所)	
17:00	詳細は別ページに記載	A31 地方自治体による流木被害対策の特徴と課題:佐藤宣子(九州大学)		調整・討論	
17:15		A32 民有林における森林管理のリスクに対する森林保険の役割:社有林を中心に:菱田歩海(筑波大学)		E15 異なる日照条件下でのクロモジ苗木の生育特性:高橋輝昌(千葉大学)	
17:30		A33 林業における労災保険第二種特別加入と加入者団体の動向:川崎章恵(九州大学大学院農学研究院)		E16 針葉樹人工林の生物多様性保全価値の空間明示型実証モデル:山浦悠一(森林総合研究所)	
17:45		A34 ドイツにおける林業就業者の教育制度の展開と現状 —BW州を例に—:滝沢裕子(岩手大学大学院連合農学研究所)		E17 低密度航空レーザ計測データによる地位指数の推定とその課題:福井翔宇(株式会社バスコ)	
18:00		A35 中山間地域に移住した林業従事者の定住意思への影響要因の明確化:石佳凡(早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科)		E18 皆伐更新施業が進められる中で林分・景観構造の複雑性の役割を考える:水永博己(静岡大学)	
18:15		A36 林業労働研究の動向:山口和真(東京農業大学大学院)		E19 旧薪炭ブナ林から収穫したブナ丸太と挽板の特性:紙谷智彦(新潟大学)	
18:30		調整・討論		調整・討論	
18:45					

発表時間の厳守をお願いします。

座長は別のページに記載しています。

「調整・討論」のコマは、座長の裁量で、時間調整、総合討論等に使用します。

林政部門、T3は、直前の発表者が次の発表の司会(座長)を務めてください。

研究発表題目(部門別口頭発表) 3月22日午後 2/2

会場	301B	302A	302B	303/304	306/307
開始時刻	防災2	風致・観光2	教育2	微生物	遺伝・育種
14:30	J10 北海道内における造林樹種の根張り抵抗力についての地域間比較.阿部友幸(北海道立総合研究機構 森林研究本部 林業試験場)ら	B12 エコツアー実施者が飯能市エコツーリズムに感じる価値と仕組みの継続性.張新語(筑波大学)ら	C11 小・中学校の教育活動における森林の利用.遊々の森を事例に.立花敏(筑波大学)ら	M1 産卵・交尾のために飛来するマダラカミキリの後食による潜在感染木の発生.石黒秀明(石黒樹木医事務所)ら	F1 ダケカンバの遺伝構造と集団動態の歴史.加藤朱音(筑波大学)ら
14:45	J11 2018年台風24号の強風による被害木で実測した立木振動.上村佳奈(信州大学)ら	B13 持続可能な観光のためのローカルルール普及の背景.寺崎竜雄(公益財団法人日本交通公社)ら	C12 森林教育の題材とその具体例(1):中島皇(京都大学)	M2 マツノザイセンチュウの少数感染による潜在感染木の発生.二井一禎(京都大学)ら	F2 ブナ天然分布北進最前線集団における由来推定の試み.北村系子((国研)森林総合研究所)ら
15:00	J12 地中レーダーと土壌水分計付責入計を用いた海岸林・内陸防風林の植栽基盤診断.岩崎健太(北海道立総合研究機構林業試験場)ら	B14 パラオ共和国の林縁シュノーケルサイトにおける混雑状況と混雑感の関係.武正憲(筑波大学)ら	C13 森林教育に関する教員研修へのニーズと体験型プログラムの検討.田中千賀子(武蔵野美術大学)ら	M3 クロマツ樹幹注入処理木における枯損発生とマツノザイセンチュウの検出状況.中村克典(森林総合研究所)ら	F3 海岸林におけるカシワからミズナラへの適応的浸透交雑遺伝子座の検出.中西敦史(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら
15:15	J13 冠雪リスク評価モデルに組み込み可能な樹木力学モデルの開発.勝島隆史(森林総合研究所)ら	B15 道の駅の活用による鳴子温泉郷の活性化に関する研究.山本清龍(東京大学)	C14 森林教育交流会は交流を促したのか?八巻一成(森林総合研究所)ら	M4 モミとクロマツに対する <i>Bursaphelenchus firmae</i> の接種試験.秋庭満輝(森林総合研究所)ら	F4 ハワイフトモモの葉形質多型における遺伝的基盤の解明.伊津野彩子(森林総合研究所)ら
15:30	J14 日本の針葉樹林における地表火から樹冠火への移行条件の評価.吉藤奈津子((国研)森林研究・整備機構)ら	B16 China's National Parks: Development Background and Barriers to Nature Conservation. 陳碧霞(琉球大学)ら	調整・討論	調整・討論	F5 温暖地域に移植した北方針葉樹の環境応答—3年間の生残と成長—後藤晋(東京大学大学院農学生命科学研究科)ら
15:45	調整・討論	B17 富士北麓地域における観光客の周遊行動.藤野正也(山梨県富士山科学研究所)ら	C15 都市近郊林の森林教育利用の需要調査—福岡県糸島市を事例に—.市野瀬愛(九州大学大学院)ら	M5 伊吹山の異なる標高に生息する土壌線虫群集のメタ解析.北上雄大(三重大学大学院)ら	調整・討論
16:00	J15 全国のタワーサイトで採取された森の香り物質の季節変動特性.深山貴文(森林総合研究所)ら	調整・討論	C16 世界自然遺産候補地やんばるの森における人間活動の影響を学ぶ.大島順子(国立大学法人琉球大学)	M6 ブナ葉ぶくれ線虫, <i>Litylenchus crentatae</i> の分類学的所属.神崎菜摘(森林総合研究所)ら	F6 気象条件に関連した東北育種区におけるアカマツの成長の家系間変異.那須仁弥(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所 林木育種センター)
16:15	J16 樹形と樹皮吸収が樹幹流流出に与える影響.白木克繁(東京農工大学)ら	B18 森林・植物資源を利用した地域活性化のあり方に関する考察.田畑智博(神戸大学)ら	C17 共生社会を見通す森林教育の視座—特別支援教育への移行を題材に—.大石康彦(森林総合研究所)ら	M7 ナガキクイムシ共生菌群の分子系統と生理生化学的性状.遠藤力也(理化学研究所)ら	F7 スギ精英樹の水ストレスに対する水分生理特性の系統間差異.池田武文(京都府立大学大学院)ら
16:30	J17 東南アジア熱帯雨林における蒸散散に寄与する土層深についての水文学的解析.小杉緑子(京都大学)ら	B19 Investigating Risk Management at Mount Fuji: A Comparison of Domestic and International Climbers. JONES Thomas (Ritsumeikan APU)	調整・討論	調整・討論	F8 スギ特定母樹の挿し木苗に関するいくつかの知見.佐藤博文(秋田県林業研究研修センター)
16:45	J18 葉量と光合成特性の季節変化がスギ群落H ₂ O・CO ₂ 交換速度に及ぼす影響.羽田泰彬(東京大学大学院)ら	B20 自然保護地域の管理有効性評価と評価指標.愛甲哲也(北海道大学)ら		M8 ヒバ天然更新林におけるヒバ漏脂病の発病に与える間伐強度の影響.市原優(森林総合研究所 関西支所)ら	F9 育種種苗とグルタチオンを用いたスギコンテナ苗の育苗期間短縮への取り組み.宮本尚子(森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場)ら
17:00	J19 秋田県長坂試験地におけるスギ林の間伐による蒸散量の変化.飯田真一(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)ら	B21 国立公園の管理有効性評価における協働型管理運営にむけた指標作成.沖田雄都(北海道大学)ら		M9 薬剤による土壌中の南根腐病菌の密度低減試験—農薬登録拡大に向けて—.酒井康子(沖縄県森林資源研究センター)ら	F10 簡易な無花粉スギスクリーニング技術の検討.齋藤史嗣(神奈川県自然環境保全センター)
17:15	調整・討論	B22 保護地域における土地所有とガバナンスの関係.伊藤太一(筑波大学)		M10 中日本の人工林で採取されたスギ細根に関わる内生菌の群集構造.松田陽介(三重大学)ら	調整・討論
17:30	J20 日本の針葉樹人工林における間伐が低水時流出に及ぼす影響のモデル解析.畠山寛樹(東京大学大学院)ら	B23 自然保護地域におけるガバナンスのあり方試論(4):土屋俊幸(東京農工大学)		調整・討論	
17:45	J21 高密度観測データに基づく花崗岩山地の地下水水文過程に関する考察.正岡直也(京都大学)ら	調整・討論		M11 紀伊半島の残存トガサワラ林における外生菌根菌埋土胞子の空間分布様式.岡田経太(三重大学大学院)ら	
18:00	J22 山地源流域間の溪流水平平均滞留時間の相違を規定する要因.勝山正則(京都大学)ら			M12 琉球列島・低島のリュウキュウマツ林における外生菌根菌の埋土胞子群集.安井瞭(東京大学)ら	
18:15	J23 山地源流域における六フッ化硫黄濃度と地下水滞留時間推定値の変動要因.山田啄也(京都大学大学院)ら			M13 東シベリア永久凍土上のダフリアカマツ外生菌根菌群集と宿主特異性.宮本裕美子(北海道大学)ら	
18:30	J24 流域間比較による河川水のリン酸-酸素安定同位体比の変動要因の解明.井手淳一郎(九州大学)ら			M14 Ectomycorrhizal fungal communities of <i>Tristanopsis</i> forests in Kalimantan Island, Indonesia: Helbert (The University of Tokyo) et al.	
18:45	調整・討論				

発表時間の厳守をお願いします。

座長は別のページに記載しています。

「調整・討論」のコマは、座長の裁量で、時間調整、総合討論等に使用します。

林政部門、T3は、直前の発表者が次の発表の司会(座長)を務めてください。

研究発表題目(ポスター発表 P1グループ P1-001からP1-278) 3月21日 1/5

会場: ウェブマーケットB # : 学生ポスター賞応募 ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~18:00

林政	風致・観光	教育	経営	
P1-001# Jクレジット制度の森林管理プロジェクトにおける運用の課題: 牧京右(鳥取大学)ら	P1-012# ニュージーランド資源管理法における資源利用承認の現状: 田中伸彦(東海大学)	P1-019# 環境教育研究の変遷に見る森林環境教育の位置づけ: 早川尚吾(日本大学大学院)ら	P1-027# UAVによる間伐作業評価法の開発: 成田周平(名古屋大学)ら	P1-044# 東京大学千葉演習林における100年生超スギ人工林の現状: 橋本晋太(東京大学)ら
P1-002# 林政・林業経済学分野の歴史と展望: 峰尾恵人(京都大学)	P1-013# 中国海南省鹦哥嶺自然保護区管理における先住民護林員の活動: 陳元君(東京大学)ら	P1-020# 何が子供の自然離れを引き起こすのか: 小中学生親子へのアンケートから: 北村芽唯(秋田県立大学)ら	P1-028# UAVを用いた作業道の測量と造林地の周囲測量法 II: 青木千咲(島根大学)ら	P1-045# 2017年九州北部豪雨災害における森林管理の影響: 井上晴香(九州大学大学院)ら
P1-003# 森林所有制度の視点から見る中国の集団林: 韋瑛傑(東京大学)ら	P1-014# 北山林業の景観と林分形態の特徴: 高田弥生(京都大学大学院)ら	P1-021# 林業大学校卒業生調査—大生校での生活を振り返って—: 小川高広(名古屋大学)	P1-029# UAV画像を用いた樹冠検出およびDBH推定手法の検討: 米原太一(京都大学大学院)ら	
P1-004# 横浜市市民の森制度での愛護会の位置づけ: 石原皓(東京大学)ら	P1-015# 六甲山における景観資源の変遷と今後の森林管理に関する提案: 大野朋子(神戸大学大学院)ら	P1-022# 聞き書き甲子園における高校生の着眼点: 牧野純也(日本大学)ら	P1-030# UAV画像を活用した樹種判別—紅葉時期の信州大学構内演習林を事例として: 浦野陽平(信州大学)ら	
P1-005# 鳥取県の木材流通の変化: 池淵博之(鳥取大学)ら	P1-016# 埼玉県三芳町上富地区における平地林利用の持続性に関する考察: 平塚基志(早稲田大学)ら	P1-023# 企業が実施する三者協働(企業・NPO・大学)の森林教育プログラム: 大前勝利(京都大学)ら	P1-031# 機械学習を用いたUAV画像の分類: 森岡佑介(島根大学)ら	
P1-006# 三重県中部地域の原木市場における原木流通の現状と課題: 石川智代(三重県)ら	P1-017# 全天球パノラマ画像を用いた公園緑地としての里山景観の比較: 神宮翔真(筑波大学)ら	P1-024# 森林環境教育のためのVR空間の構築: 松岡佑典(宇都宮大学)ら	P1-032# UAVを用いた2018年台風第21号風倒被害の解析: 岡田羅一郎(島根大学)ら	
P1-007# 製材業における地域共同納材体制—静岡県の事例—: 村井敦史(富山県農林水産総合技術センター木材研究所)	P1-018# 公園利用者の利用目的と利用行動に関する研究: 小林徹哉(公益財団法人神戸市公園緑化協会 神戸市立森林植物園)ら	P1-025# 大学における森林・林業関連学科の教育内容の分析: 上甲夏子(日本大学)ら	P1-033# ドローンを用いた写真測量による森林資源量推定: カラムツ林を例に: TRAN DINH TUNG(富山大学大学院)ら	
P1-008# 岩手県における製材工場の実態解明—素材生産量の増加への対応—: 泉桂子(岩手県立大学)ら		P1-026# 文学を通じた(森林)環境教育(2)~実践編(1)~: 松岡幸司(信州大学)	P1-034# Quantifying individual tree parameters of large-sized high-value trees using unmanned aerial vehicle (UAV): Kyaw Thu Moe-(Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo) et al.	
P1-009# 林業遺産を取り込んだ懐かしい未来への旅~デジタル古地図の活用~: 小山泰弘(長野県林業総合センター)ら			P1-035# Coastline changes and its effect on land cover and use in Subang, Indonesia: Kalthar Jimy (Mie University) et al.	
P1-010# 狩猟による資源管理を中心とした野生動物保護管理システムについて: 高柳敦(京都大学大学院)			P1-036# 時系列Landsat画像と合成開口レーダを用いた森林変化推定: 志水克人(九州大学)ら	
P1-011# ラオスにおける非木材林産物利用の5年間の変化: 木村健一郎(国際農林水産業研究センター)ら			P1-037# Landsatデータを用いた山口県の実用竹林マッピング: 辻藤一(新潟大学)ら	
			P1-038# 空中写真から得られる樹冠サイズを用いたフナ二次林の材積推定: 篠原朋恵(新潟大学)ら	
			P1-039# 航空機LiDARによる簡易林相区分評価法の開発: 岩附慶大(名古屋大学)ら	
			P1-040# 地上レーザスキャナのための樹高推定の理論の構築: 越河一樹(熊本県立大学)ら	
			P1-041# カンボジア・シェムリアップ州における熱帯季節林の林分動態: 小寺翔太(九州大学)ら	
			P1-042# Forest Cover Changes Under Hydropower Dam Construction in Paunglaung Reserved Forest, Southern Shan Highlands, Myanmar: Khin Nilar Swe (Kyoto University) et al.	
			P1-043# 長期観測されたヒノキ人工林の成長動態の検討: 安延大輝(宇都宮大学大学院)ら	

ポスターの準備ならびに撤収は速やかにお願いします。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。

研究発表題目(ポスター発表 P1グループ P1-001からP1-278) 3月21日 2/5

会場: ウェブマーケットB # : 学生ポスター賞応募 ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~18:00

造林	遺伝・育種	生理
P1-046# Carbon and nitrogen budget within a flowered of sapling and miniature trees of <i>Cryptomeria japonica</i> : Farikhah Anisatul (Shizuoka University) et al.	P1-063# 京阪奈丘陵北部における里山の植生の歴史的变化: 宮田咲矢香(鳥取大学)ら	P1-065# トドマツの高山環境への遺伝的適応: 光合成活性とカロチノイドに着目して: 山崎有(東京大学大学院)ら
P1-047# スギ挿し木苗の根切りがコンテナ移植時の作業効率と根系発達に及ぼす影響: 徳田楓(宮崎大学)ら	P1-064# Socio-economic condition of shifting and non-shifting cultivators and their perception on shifting cultivation: Akari Phyu PhyuThet (Kyoto University) et al.	P1-066# サクラ属における雑種実生の生育不全候補遺伝子の発現特性と塩基配列の変異: 桐原奏子(岐阜大学)ら
P1-048# 乾燥がドングリの発芽率に与える影響: 木家彩華(鳥取大学)ら	P1-067# 景観スケールにおけるシデコブシとコブシの種間雑種の分布拡大: 和田崎直隆(名古屋大学大学院)ら	P1-084# カエデ属における土壌水分傾度に沿った水利用特性の比較: 加藤薫(京都大学)ら
P1-049# 海の波の音と菌根菌がコナラ苗木の2年間の生長に与える影響: 武田浩太(長野大学)ら	P1-068# ツバキ節を中心とする形態比較およびMIG-seqを用いた分子系統解析: 片山瑠衣(新潟大学大学院)ら	P1-085# 振動および環境要因による通水機能への影響は樹種によって異なるのか: 高橋俊臣(静岡大学)ら
P1-050# 海岸防災林再生地に植栽するコナラ苗木の生産に適した外生菌根菌を探る: 熊谷唯(長野大学)ら	P1-069# マイクロサテライトマーカーと一塩基多型を用いたブナ集団内の遺伝的構造: 塚本将司(三重大学)ら	P1-086# 摘葉後の経過と連続摘葉がブナ当年枝の木部水分通導組織構造に与える影響: 植村恭子(京都府立大学大学院)ら
P1-051# 海岸林再生地に植栽した広葉樹の2年間の生長: 防風ネットとマルチング材: 古幡奏未(長野大学)ら	P1-070# シラビソ集団における空間遺伝構造と遺伝子散布: 石川雄大(名古屋大学大学院)ら	P1-087# MRIを用いたエンボリズムの発生・回復過程における水分通導の可視化: 平川雅文(東京大学)ら
P1-052# 宮崎県のマツ枯れ跡地に植栽された広葉樹の活着と成長: 酒井絵莉(宮崎大学)ら	P1-071# 秩父山地におけるヒナウチワカエデの空間遺伝構造: 芝野萌葉実(東京大学)ら	P1-088# クスノキの乾燥耐性と水分通導回復に関する機能解剖学的研究: 山田佳乃(神戸大学)ら
P1-053# 植え替えない緑化活動について: 小倉太一(立命館大学)ら	P1-072# ツバキ2種(ユキツバキとヤブツバキ)のクローン構造と遺伝的多様性の比較: 小濱宏基(新潟大学)ら	P1-089# 森林限界の樹木4種における細根水吸収・輸送の解明: 矢原ひかり(信州大学)ら
P1-054# 無下刈り処理下におけるスギ挿し木コンテナ中苗の初期成長: 小田樹(宮崎大学)ら	P1-073# MIG-seq分析による宮城県産スギ精英樹クローン間の遺伝的關係解析: 小沼拓矢(東北大学)ら	P1-090# 低コストで爆発的に成長するブナ根系: 異なる産地の雑樹に共通の生き残り方: 黒澤陽子(山形大学)ら
P1-055# スギ人工林の広葉樹導入による水質浄化能の向上について: 森川夢奈(東北大学)ら	P1-074# Analysis of Genetic Diversity & Phenotypic Traits for <i>Shorea platyclados</i> , an Important Timber Species in South-east Asia: SAWITRI (UNIVERSITY OF TSUKUBA) et al.	P1-091# ミズナラにおける萌芽枝形成と潜伏芽との関係: 平方広大(新潟大学大学院)ら
P1-056# スギ人工林の混交林化が植物の葉の窒素濃度に与える影響: 増田千恵(東北大学)ら	P1-075# Genetic diversity of Teak in Java Island to Identify Origin of Plantation Material: プラセティオエコ (University of Tsukuba)ら	P1-092# Effect of hydrogel and phosphorus core on ectomycorrhizal colonization of oak seedlings in dry condition: Omari Abdulhaq (Tokyo University of Agriculture and Technology) et al.
P1-057# 台風によるギャップ拡大現象の発生メカニズム: 小谷野開多(静岡大学)ら	P1-076# RADシーケンスを用いたブナの地理的変異の検出: 三須直也(名古屋大学)ら	P1-093# The combined stress effect of rhizospheric hypoxia and excess aluminum on Myrtaceae species: 余賀(東京大学)ら
P1-058# ヒノキ人工林ギャップ構造が被食型鳥散布に及ぼす影響: 高野翼(静岡大学)ら	P1-077# DNA配列と光学顕微鏡とを用いた空中花粉中のヒノキ科花粉の種組成: 伊藤愛(岐阜大学)ら	P1-094# ヒノキのシベリンに対する花成応答の系統間差: 上兼乗ふく(岐阜大学)ら
P1-059# 種多様性が高い温帯広葉樹林での細根の時空間的すみわけ: 唐澤拓朗(静岡大学)ら	P1-078# 無花粉スギの効率的な種苗生産に向けた雄性不稔遺伝子のピラミディング: 田玉巧(新潟大学)ら	P1-095# Effect of Ethephon and Methyl Jasmonate on Gum Duct Formation in Broadleaf Trees: Carolina Anne (The University of Tokyo) et al.
P1-060# 重機地拵え後の高木雑樹と草本類の発生一代替的作業を行うタイミングの効果: 山崎遥(北海道大学)ら	P1-079# 組織培養で作出された無花粉スギ苗の形質評価: 金枝拓実(新潟大学)ら	P1-096# カラマツにおけるカリウム膜輸送体遺伝子 <i>LKUP2</i> の機能および発現解析: 西村佳穂(信州大学)ら
P1-061# 広葉樹二次林に隣接した人工林の伐採後3年間の広葉樹実生に及ぼす影響要因: 横沢広朗(東京農工大学)ら	P1-080# スギ肥大成長の年変動に及ぼす気象要素の影響と家系間変異: 廣田真珠(京都府立大学大学院)ら	P1-097# 風環境下におけるヒノキの遺伝子発現と成長解析: 杉田昂駿(静岡大学大学院)ら
P1-062# スギ人工林の部分伐採が広葉樹の更新と植生再生に及ぼす影響: 木村草(宮崎大学)ら	P1-081# ヨレスギ原因遺伝子の連鎖地図上の位置の解明: 斎藤龍之介(新潟大学)ら	P1-098# クマイザサのフロリゲン様遺伝子の発現調節機構: 馬場俊希(北海道大学)ら

ポスターの準備ならびに撤収は速やかにお願いします。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。

研究発表題目(ポスター発表 P1グループ P1-001からP1-278) 3月21日 3/5

会場: ウェブマーケットB #: 学生ポスター賞応募 ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~18:00

植物生態	立地	T2 準平衡状態へと分布が移行する中での 森林の放射性セシウム研究
P1-099# 新潟県新潟市上越におけるハンノキ湿地林の植物群落と環境要因: 田中亮輔(新潟大学)	P1-116# 航空機LiDARを用いた落葉広葉樹二次林におけるギャップ動態のモニタリング: 荒木一穂(岐阜大学)	P1-131 デジタル地形データを用いた九州地方の土壌型を規定する地形要因の解析: 稲垣昌宏(国) 森林研究・整備機構
P1-100# 沼ノ平地すべり地域における森林の多様性: 松浦隆介(新潟大学)	P1-117# タイ熱帯季節林における種による樹冠構造の違いと光利用及び樹冠動態の関係: 菅原悠希(静岡大学)	P1-148# 天然林からの流出(VI)-粗粒状有機物の流出の長期観測と台風イベント流出: 鈴江卓也(京都大学)
P1-101# 土石流後の溪畔林樹木の更新: 来住健太郎(新潟大学)	P1-118# 遷移前期種と後期種の樹冠光合成プロセスの違い: 花輪光彦(静岡大学大学院)	P1-149# 屋久島火山灰土壌における樹木細根渗出物と根圏土壌の化学特性の変化: 向井真那(京都大学)
P1-102# 暖温帯の小扇状地溪畔林における樹木の成長と枯死: 平山知宏(宮崎大学大学院)	P1-119# 都市林における外来樹木ウネズミモチと在来樹種との競合の可能性: 原千夏(神戸大学)	P1-150# 開放系オゾン付加施設での落葉広葉樹リターと中型土壌動物野中佳祐(北海道大学)
P1-103# 九州山地の冷温帯における溪畔林成種の9年間の個体群動態: 原田奈那(宮崎大学)	P1-120# 伊南川の河川攪乱がハリエンジュとヤナギ類の分布に及ぼす影響: 庭野元氣(新潟大学)	P1-151# 溶存有機物組成の違いは鉄イオン動態に影響をもたらすのか: 小林高嶺(北海道大学)
P1-104# 佐渡島の多雪環境がヒノキアスナロの樹形と群落構造に与える影響: 内木翔太(新潟大学大学院)	P1-121# ニセアシアナほどのように拡大するのか - 秋田市夕日の松原を例に -: 青木雅哉(秋田県立大学)	P1-152# 林相の異なる小流域における陸域から水域にかけての落葉分解特性: 小出祥平(北海道大学大学院)
P1-105# 魚梁瀬干本山保護林におけるヤナセグシの更新や定着に必要な環境要因: 藤山美薫(高知大学)	P1-122# 同一容量の鉢で直径の違いが木本実生の生残や成長に及ぼす影響: 志村綱太(首都大学東京大学院)	P1-153# 北海道東部の森林土壌からの亜酸化窒素発生に対する栄養塩添加の影響: 長根美和子(北海道大学)
P1-106# シカ食害下の地上部-地下部相互作用が樹木の実生動態に及ぼす影響: 小原茜(東京大学大学院)	P1-123# 光資源と養分の偏りがマダケの成長に与える影響: 金道知聖(東京大学大学院)	P1-154# 植物種による土壌水分の分解と溶存有機炭素濃度の関係: 金子真司(国研) 森林総合研究所
P1-107# 東中国山地におけるシカの食害によるササ枯れプロセスの解明: 吉田航平(鳥取大学)	P1-124# 異なるメカニズムで収斂するタケと樹木の地上部呼吸スケールリング: 王莫非(岩手大学大学院)	P1-155# 木質燃焼灰を施用したスギ新植林の成長: 山田毅(国立研究開発法人 森林研究・整備機構)
P1-108# スズクエー斉開花・枯死後のササ・木本実生の更新動態: 依田浩輝(名古屋大学大学院)	P1-125# 大規模風倒攪乱とその後のササ・木本実生の更新動態: 依田浩輝(名古屋大学大学院)	P1-156# モウソウチクの生種・枯死種における各種元素の部位別濃度分布: 籠谷泰行(滋賀県立大学)
P1-109# 環境要因が天然林の萌芽動態に及ぼす影響: 種の機能形質による応答の違い: 田中翔太(東京大学大学院)	P1-126# Soil hydraulic conductivity differences between upslope and downslope of two coniferous tree species on a hillslope: Farahnaklangroudi Moein (Kyushu University) et al.	P1-163# 森林流域からの放射性Cs流出機構の研究: SSの流出と役割について: 川井拓哉(京都大学)
P1-110# 火入れ草原におけるブナ科の葉の堅果生産: 小畑晶史(鳥取大学)	P1-127# Effect of soil moisture and light intensity on plant species diversity around forest edges in Indonesia: ヲラグナウマルヤサ(宮崎大学大学院)	P1-164# 放射性セシウム汚染土壌浄化への竹チップの利用可能性: 五十子碧(名古屋大学大学院)
P1-111# ブナの幹・枝の年輪成長と豊凶パターン: 小野寺智子(岐阜大学)	P1-128# Plant species diversity in understory of agroforestry and monoculture for clove oil production in Indonesia: セディアワンアディ(宮崎大学大学院)	P1-165# 帰還困難区域内及びその周辺のスギ林内における放射性セシウムの分布動態: 篠宮佳樹(森林総合研究所)
P1-112# 結実によるブナの枝葉構造と林分LAIの変化: 鶴賀太一(静岡大学)	P1-129# インターネット情報から視る日本周辺の主要高木種の分布: 吉本新一郎(鳥取大学)	P1-166# 異なる林齢のスギ樹幹木部におけるCs-137濃度の分布パターンの共通性: 塚飯和也(宇都宮大学)
P1-113# 太平洋型ブナ林20種の着葉期間の種内・種間変異: 國友翔平(静岡大学)	P1-130# 東北地方落葉樹林の種組成と樹木サイズ ~日本海側から太平洋側にかけて~: 近藤裕貴(山形大学)	P1-167# 原発事故3年後の針葉樹3種の幹材における ¹³⁷ Cs, ¹³⁴ Cs濃度の放射・垂直分布: 大橋伸太(森林総合研究所)
P1-114# Leaf Phenology Variation in Species Rich Natural Beech Forest: Do Canopy Duration Affect Stem Growth?: BUDIANTI NOVIANA (Shizuoka University) et al.	P1-146# 暖温帯林における落葉炭素収支~分解呼吸量・溶脱量の環境応答~: 安宅未央子(京都大学)	P1-168# 放射性セシウムの経根吸収抑制に対するカリウム施肥の効果と施肥中断の影響: 平井敏三(国立研究開発法人 森林研究・整備機構)
P1-115# ブナにおける葉フェノロジーの集団間・集団内変異: 開葉・落葉時期と耐凍性: 杉本映(弘前大学)	P1-147# 北海道東部の天然林及び人工林の土壌細菌・真菌群集構造と共存ネットワーク: 中山理智(京都大学)	P1-169# 新規植栽ヒノキ苗における葉、枝、幹、および根の放射性セシウム濃度の関係: 長倉淳子(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)
		P1-170# 2016年・2017年休眠期のセシウム ¹³⁷ Cs, ¹³⁴ Cs濃度: コナラ萌芽枝における変化: 金指努(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)
		P1-171# 会津地方におけるコナラ萌芽枝の放射性セシウム濃度について: 橋本正伸(福島県林業研究センター)
		P1-172# 森林林床における ¹³⁷ Csの存在形態とその経年変化に関する検討: 小野賢二(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)
		P1-173# 福島の小流域における森林の枝葉に含まれる放射性セシウムの動態: 大橋瑞江(兵庫県立大学)

ポスターの準備ならびに撤収は速やかにお願いします。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。

研究発表題目(ポスター発表 P1グループ P1-001からP1-278) 3月21日 4/5

会場: ウェブマーケットB #: 学生ポスター賞応募 ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~18:00

T2 準平衡状態へと分布が移行する中で 森林の放射性セシウム研究	防災	利用	動物・昆虫
P1-174 栃木県内コナラ林での落葉分解にともなう放射性セシウム濃度および量の变化:市川貴大(くまの木里山応援団)ら	P1-180 岐阜県における冠雪害危険度マップの検討ー将来予測研究に向けた予備解析ー:久田善純(岐阜県森林研究所)ら	P1-197# 異なる3つの抽出方法による植物水及び土壌水の安定同位体比分析結果の比較:村中麻咲(京都大学大学院)ら	P1-218# 樹幹の凹凸がカシノナガキクイムシの穿孔に及ぼす影響:廣廣志(京都大学)ら
P1-175 栃木県内コナラ林の採取用落葉と表層土壌の放射性セシウムの経年変化:大久保達弘(宇都宮大学)ら	P1-181 なだれ斜面における森林造成の検討:堀和彦(株式会社 寒河江測量設計事務所)	P1-198# 赤外線サーモグラフィを用いた降雨に対する地下水流出応答の観測:青木康真(京都大学)ら	P1-219# Flight behaviors of the ambrosia beetle <i>Platypus quercivorus</i> revealed by a flight mill:アラム ドウイロン(京都大学)ら
P1-176 高沈着量の森林流域における溶存態放射性セシウムの供給源・流出経路の推定:赤岩哲(筑波大学)ら	P1-182 カンボジア国の低地乾燥常緑林における二酸化炭素交換量観測:清水貴範(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	P1-199 山梨県瑞穂山山麓のカラマツ林斜面における表面流の評価:廣瀬満(山梨県森林総合研究所)ら	P1-220# マツ材線虫病における宿主?病原体トランスクリプトーム同時解析:山口莉未(九州大学大学院)ら
P1-177 スギ林における土壌、シイタケホダ木および子実体のCs濃度の5年間の推移:成松真樹(岩手県林業技術センター)	P1-183# スギ辺材面積推定における手法の比較検討:藤目直也(東京大学)ら	P1-200 森林域から供給される水資源量の気候変動影響評価:澤野真治(森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	P1-221# 長野県菅平高原におけるエゾハルゼミの生活史特性および遺伝構造の評価:湯本景将(筑波大学)ら
P1-178 原木露地栽培きご類における放射性セシウム濃度:山口晶子(茨城県林業技術センター)ら	P1-184# 森林伐採が地表面温度に与える影響ー衛星画像を使った解析ー:瀬戸島仁朗(宮崎大学)ら	P1-205# Estimating availability of unused woody materials for energy in Northern Kanto region: Battuvshin Biligt (Tokyo University of Agriculture and Technology) et al.	P1-222# 佐渡島と本州におけるヤマアカガエルの遺伝的分化の検証:小池南(新潟大学)ら
P1-179 発生時期の異なるタケノコの放射性セシウム濃度・蓄積量の変化:齋藤智之(森林総合研究所)ら	P1-185 ヒノキ人工林30%間伐後1年間の林内雨量の経過:細田育広(森林総合研究所関西支所)	P1-206 深層学習を用いた自動荷役作業のための材認識:有水賢吾(国立研究開発法人 森林研究・整備機構)ら	P1-223# 島嶼環境においてヒメズミはオングルミを採食するのか?・小川郁奈(新潟大学)ら
	P1-186 アズマネザサの形態と蒸散量推定:スギ人工林の事例:邱??(東京農工大学)ら	P1-207 レーザースキャナー(3次元画像)を用いた林内の無線電波伝搬特性:五明友美(東洋技研コンサルタント株式会社)ら	P1-224# イヌワシ保全に配慮した施業が林床植生とノウサギの出現頻度と与える影響:伊藤実穂(山形大学)ら
	P1-187 多摩川上流域における過去140年間の林分構造の変化に伴う蒸発散量の推移:佐藤博紀(東京農業大学大学院 / いであ株式会社)ら	P1-208 バックホウ走行による沈下量と締固め度の関係:鈴木秀典(森林総合研究所)ら	P1-225# 多状態占有モデルにより解明されたオオタカの繁殖状態の決定要因:夏川遼生(横浜国立大学)ら
	P1-188 視録秤量法に基づくスギの樹液流速のキャリブレーション:竹内真一(東海大学)ら	P1-209 森林作業道開設箇所における自然斜面勾配と路体崩壊の関係性:和多田友宏(岐阜県森林研究所)ら	P1-226# 地域スケールにおける森林棲中大型哺乳類の生息地選択と季節動態の解明:谷川鴻介(東京大学)ら
	P1-189 冷温帯落葉広葉樹林におけるCO ₂ フラックスの年々変動:小坂泉(日本大学)ら	P1-210 その路線は崩壊対策すべき?費用便益分析による要対策箇所の抽出方法の検討:津田高明(地方独立行政法人北海道立総合研究機構)ら	
	P1-190 洪水流出寄与域の拡大過程のモデル化:小島永裕(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)ら	P1-211 林業事業体におけるGISの導入と活用について:山崎真(高知県立森林技術センター)ら	
	P1-191 斜面内の間隙空気圧の測定手法について:岩上翔(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)	P1-212 ラフテレーンクレーンを用いた特殊伐採の生産性とコスト:中澤昌彦(森林総合研究所)ら	
	P1-192 確率年による豪雨の土砂災害発生危険度評価について:執印康裕(宇都宮大学)	P1-213 津波被災海岸林再造成の機械化における省力化技術の開発:山田健(森林総合研究所)ら	
	P1-193# 扇状地における土石流に伴う流木の氾濫特性に関する実験的検討:剣持嵩之(筑波大学)ら	P1-214 クサビ打ちを想定した作業におけるショックレスハンマーの打撃効果:山口浩和(森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	
	P1-194# 隣接森林流域における脱窒が地下水・渓流水の硝酸イオン濃度に与える影響:白井峻太(京都大学)ら	P1-215 北海道における土場と伐区との位置関係の実態:猪俣雄太(森林総合研究所)ら	
	P1-195 釜淵試験地のスギ年輪 $\delta^{18}O$ ・ $\delta^{13}C$ と77年間の降水量・流出量との関係:久保田多余子(森林総合研究所)ら	P1-216 林業用スマート防護服の開発ー低サンプリングレートジャイロ情報の利用ー:松村哲也(信州豊南短期大学・東京大学)ら	
	P1-196# 大起伏堆積岩山地における水質に着目した地下水流動経路の推定:谷知幸(京都大学)ら	P1-217 林道における異なる簡易な横断排水溝を通過した際に発生する加速度について:山口智(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	

ポスターの準備ならびに撤収は速やかにお願します。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。

研究発表題目(ポスター発表 P1グループ P1-001からP1-278) 3月21日 5/5

会場: ウェブマーケットB #: 学生ポスター賞応募 ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~18:00

T1 森林へのシカの影響とその管理	微生物	T4 樹木根の成長と機能	特用林産
P1-227# 同所的に生息するニホンジカおよびカモシカが実生の生存に与える影響:中森さつき(岐阜大学大学院)ら	P1-235# Fungi isolated from an ambrosia beetle, <i>Euwallacea interjectus</i> (Scolytinae), emerging from fig trees in Japan:姜自如(名古屋大学大学院)ら	P1-252 特異的プライマーによるサクラ類てんぐ巣病菌の無病微サクラからの検出:長谷川絵里(森林総合研究所)ら	P1-265# 樹木細根の分光反射画像から見てくるもの-化学・形態・解剖特性との関係-:谷川夏子(信州大学)ら
P1-228 ニホンジカの侵入検出に適した植生指標の探索:安藤正規(岐阜大学)ら	P1-236# ツツクボウシタケのカイコとセミ科幼虫への接種試験:畠山友希(日本大学)ら	P1-253 サワラ腐朽材中および土壌中のナミダタケモドキの検出および絶対定量:原口竜成(東京大学)ら	P1-266# スギ次根根特性の季節変化:和田竜征(名古屋大学大学院)ら
P1-229 福岡県英彦山地域におけるニホンジカの行動圏と生息地利用:桑野泰光(福岡県農林業総合試験場資源活用研究センター)ら	P1-237# 日本大学湘南キャンパス内のスギに発生したスギ非赤枯性溝腐病木村遥(日本大学)ら	P1-254 海洋博公園における樹木の管理方法について-各診断器の診断結果に着目して-:辻本悟志(一般財団法人沖縄美ら島財団)	P1-267# 下層植生との競争は樹木根の滲出物量を変化させるか:土壌深度に注目して:河上智也(北海道大学大学院)ら
P1-230 中国地方におけるニホンジカ分布拡大最前線の把握/八代田千鶴(森林総合研究所)ら	P1-238# イヌツグ枝枯病菌の発育・樹体内分布・被害拡大に及ぼす温度・季節の影響:尾関俊亮(名古屋大学大学院)ら	P1-255 円板を用いた空検出における音速トモグラフィと横打撃共振法の比較:山田利博(東京大学)ら	P1-268# コナラ林における細根動態:養分獲得に関わる菌根の生産フェノロジー:仲畑了(京都大学)
P1-231 航空機搭載型センサを用いた森林域におけるシカの分布調査:田村恵子(中日本航空株式会社)ら	P1-239# 沖縄県下のデゴイから検出された病原性 <i>Fusarium</i> 属菌の遺伝的多様性:高階空也(神戸大学大学院)ら	P1-256 かん類の葉に内生する <i>Tubakiaceae</i> spp.の多様性:松村愛美(東京大学)ら	P1-269 スキャナー法によるボルネオの熱帯雨林における細根動態の年変化の調査:遠藤いず貴(兵庫県立大学)ら
P1-232 ウバメカシ伐採株の萌芽枝に対するニホンジカ食害による枯死回避技術:法眼利幸(和歌山県林業試験場)ら	P1-240# 暗色雪腐菌菌の苗畑と造林地における遺伝構造の比較:岩切鮎佳(東京大学)ら	P1-257 徳島県北部のヒノキ林におけるヒノキ材の分解過程:山下聡(徳島大学)ら	P1-270 引き倒し試験における回転中心の深さは根の深さを表す指標となるか?:藤堂千景(兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター)ら
P1-233 農地と後背山林におけるニホンジカの併行捕獲は農地への出没を減らせる!:福本浩士(三重県林業研究所)ら	P1-241# 日本で発見されたナミダタケモドキの新たな隠蔽種:太田暉(東京大学大学院)ら	P1-258 落葉分解における土壌微生物群集の固有性:執行彦彰(東京大学)ら	P1-271 旧薪炭ブナ林における主要林床樹木の葉の抗酸化活性と総ポリフェノール量:山口智子(新潟大学)ら
P1-234 神奈川県丹沢山地における銃によるニホンジカ捕獲効率に影響を与える要因:町田直樹(神奈川県)ら	P1-242# カラマツ属コンテナ苗の成長と菌根形成:山本恭大(北海道大学大学院)ら	P1-259 アカマツ細根の分解に伴う経時的変化:田中恵(東京農業大学)ら	P1-278# ケニア中央部における <i>Arundinaria alpina</i> の利用状況について:笹原千佳(京都大学)
	P1-243# アカマツ-コナラ林分における外生菌根菌群集が実生成長に与える影響:山岡野枝(東京農業大学)ら	P1-260 日本産黒トリュフ <i>Tuber himalayense</i> 子嚢果の5年半にわたる遺伝的動態:中村慎崇(森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	
	P1-244# 埋土胞子の混合接種による遺伝的に分化した外生菌根菌集団間の外交配の誘導:大嶋健資(東京大学大学院)ら	P1-261 トドマツ人工林の伐採跡地における外生菌根菌の土壌感染源:小長谷啓介(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	
	P1-245# 広葉樹二次林と針葉樹人工林の境界域における外生菌根性実生の局所分布:石川陽(東京農業大学大学院)ら	P1-262 アボイカンバ・ハイマツ林における外生菌根菌の埋土胞子群集:村田政穂(東京大学大学院)ら	
	P1-246# 異なる地域由来の <i>Cenococcum geophilum</i> に白樺に対する感染の違いがあるか?:王化庸(東京大学)ら	P1-263 冷温帯林でのササ除去前後における樹木と共生した外生菌根菌組成:福澤加里部(北海道大学)ら	
	P1-247# Salt-tolerance mechanisms of <i>Cenococcum geophilum</i> , an ectomycorrhizal fungus:李佳麗(東京大学)ら	P1-264 子実体および菌根を対象とした広葉樹二次林における外生菌根菌の多様性評価:白川誠(東京農業大学大学院)ら	
	P1-248# スギのジェノタイプの多様性が根および土壌の菌叢に与える影響:岩崎隼(東京大学大学院)ら		
	P1-249# 異なる施用が沿岸に植栽されたクロマツ菌根の酵素活性に及ぼす影響:山口郷彬(三重大学)ら		
	P1-250 戦前期九州地方におけるスギ赤枯病の被害および対策の実態:高畑義啓(森林総合研究所)ら		
	P1-251 スギ赤枯病の診断方法:安藤裕萌(森林総合研究所)ら		

ポスターの準備ならびに撤収は速やかにお願いします。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。

研究発表題目(ポスター発表 P2グループ P2-026からP2-227) 3月22日 1/3

会場: ウェブマーケットB ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~18:00

経営		造林	
P2-026 条件不利地域における森林経営計画作成に関する一考察:吉野聡(東京農業大学)ら	P2-043 UAV由来のオルソ写真を用いたスギ単木検出の試み:太田徹志(九州大学)ら	P2-060 国産針葉樹の葉切片からの器官分化と細胞培養の試み:細井佳久(森林総合研究所)ら	P2-077 成長が早いヒノキ・コナラ苗による下刈り期間短縮の可能性:渡邊仁志(岐阜県森林研究所)ら
P2-027 地域森林における機能間トレードオフの空間的分析:山田祐亮(国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	P2-044 ドローン画像からの単木樹高推定:高橋與明(森林総合研究所九州支所)ら	P2-061 マルチキャビティコンテナを用いたブナ苗の生育に及ぼす被陰と肥培の効果:塚原雅美(新潟県森林研究所)	P2-078 一貫作業によるヒノキ苗木の生長と雑草木の再生 -中国地方植栽地の事例-奥田史郎(森林総合研究所)ら
P2-028 最適造林補助政策による収穫計画における目標法正状態の感度分析:守口海(京都大学)	P2-045 LiDARとドローンのDCHMを利用したスギ幼齢林の樹冠サイズの解析:栗屋善雄(岐阜大学)ら	P2-062 木質バイオマス燃焼灰の育苗培地への混入がスギ苗木の成長に及ぼす影響:渡辺直史(高知県立森林技術センター)	P2-079 仕様の異なる食害防止用ツリーシェルター内の微気象:米田令仁(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら
P2-029 多変数を考慮しての人工林最適施業体系の検討:富山啓介(東京大学)	P2-046 UAVオルソ画像判別による林相界と所有界の対応:木村一也(石川県森林組合連合会)ら	P2-063 用土配合割合がスギさし木コンテナ苗の得苗に及ぼす影響:寺本聖一郎(熊本県林業研究指導所)ら	P2-080 皆伐一焼畑一再造林地におけるスギの生育状況:上野瀧(山形県森林研究研修センター)
P2-030 スイングヤードを利用したフロンティアブロック式集材:千原敬也(鳥根県中山間地域研究センター)ら	P2-047 小型無人飛行機によるナラ枯れ被害抽出:伊高静(統計数理研究所)ら	P2-064 2018年夏季から秋季に発生したスギ・ヒノキコンテナ苗の根腐症:陶山大志(鳥根県中山間地域研究センター)ら	P2-081 海岸防災林再生地に植栽したコナラ苗木の1年間の生長:土壌改良材の効果:高橋一秋(長野大学)
P2-031 毎木情報をを用いた地位指数モデルの推定:蝦名益仁(地方独立行政法人北海道立総合研究機構)	P2-048 UAV-LiDARによる森林資源モニタリングの検討:松英恵吾(宇都宮大学)	P2-065 スギ実生1年生コンテナ苗における生産方法による得苗率の違い:山中豪(三重県林業研究所)	P2-082 重機による地拵え後の針葉樹の天然更新:表土の残し方で成績が変わるか?:吉田俊也(北海道大学)ら
P2-032 スギ・ヒノキの樹高成長に影響を及ぼす諸要因について:松本純(大分県農林水産研究指導センター林業研究部)ら	P2-049 森林資源量解析における回転翼LiDAR・UAV-LiDAR・UAV-SfMの比較:前田佳子(国際航業(株))ら	P2-066 スギ、ヒノキ、カラマツコンテナ苗の育苗方法の違いによるコスト評価:飛田博順(森林総研)ら	P2-083 「倒木遮蔽更新」仮説を応用した再生促進法:草加伸吾(琵琶湖博物館)ら
P2-033 アカマツ・ヒノキ・スギ複層林の成長について:田中邦宏(国研)森林機構 森林総合研究所 関西支所)ら	P2-050 航空機LiDARによる樹木個体樹種分類手法の汎用性評価:山本一清(名古屋大学)ら	P2-067 数種類の育苗法によるコンテナ苗の生産コスト比較:藤本浩平(高知県立森林技術センター)	P2-084 千葉県におけるスギ人工林内苗の広葉樹の進入状況:小真生(千葉県農林総合研究センター)ら
P2-034 四国地方スギ高年齢分における本数密度と直径成長の関係:福本桂子(森林総合研究所)ら	P2-051 屋久島における高密度航空レーザデータを用いた森林特性の把握:引地慶多(国際航業株式会社)ら	P2-068 スギコンテナ苗の冷暗所長期保管の試み:藤井栄(徳島県立農林水産総合技術支援センター)ら	P2-085 中層間伐による長伐期施業林で林冠構造が更新木のサイズ・分布に及ぼす影響:望月貴治(中森林環境研究所)ら
P2-035 新潟県阿賀町三川地域における天然スギの利用:龍原哲(東京大学)ら	P2-052 地上レーザ計測における下層植生の影響:加佐剛(鹿児島大学)ら	P2-069 暗処理がスギコンテナ苗植栽後の活着と成長に及ぼす影響:染谷祐太郎(あいち海上の森センター)ら	P2-086 木曾ヒノキ天然更新試験成功例における後生種樹と前生種樹:森澤猛(森林総合研究所)ら
P2-036 東北地方におけるスギ人工林の経営の評価-長期継続調査データの分析-西園国広(森林総合研究所)ら	P2-053 地上レーザによる広葉樹林標準地の調査手法の開発:小谷英司(森林総合研究所)ら	P2-070 ベーパーボットで育苗したスギ挿し木苗の林地植栽後の根系発達:伊藤哲(宮崎大学)ら	P2-087 愛媛県におけるスギ・ヒノキ人工林皆伐跡地の天然更新状況:石川実(愛媛県農林水産研究所林業研究センター)
P2-037 ミャンマーの伝統的森林生態系における森林劣化の現状と課題:溝上展也(九州大学)ら	P2-054 複数年時系列衛星画像による森林の被覆変化と季節変化の再現:尾元(森林総合研究所)	P2-071 スギコンテナ苗の植栽時のサイズと初期成長の関係:袴田哲司(静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター)ら	P2-088 広葉樹林化の更新完了基準-初期に定着した樹木の個体数変化から考える:山川博美(国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら
P2-038 森林内の蔓の資源化に関する一考察:佐藤孝吉(東京農業大学)ら	P2-055 二時期の空中写真解析による森林成長量の推定:久保敏宏(株式会社エフバイオス)ら	P2-072 植栽時の苗サイズとツリーシェルターの施工がスギ植栽木の成長に及ぼす影響:八木真信(森林総合研究所)	P2-089 北海道小川町におけるミズナラ造林について:平松悠輝(小川町)
P2-039 コナラ高年齢林におけるシタケ原木採材量の樹冠情報からの把握手法の検討:瀧美幸大(石川県農林総合研究センター林業試験場)ら	P2-056 深層学習による航空写真を用いた樹種分類:実利用に向けた検討:井筒憲司(株式会社エフバイオス)ら	P2-073 グイマツ雑種F1幼齢林における植栽木の樹高成長と樹形:大野泰之(北海道立総合研究機構)ら	P2-090 繰り返し萌芽再生したヤナギ属2樹種におけるバイオマス生産量:矢野慶介(森林総合研究所 林木育種センター 北海道育種場)
P2-040 山梨県におけるヒノキコンテナ苗の植栽季節別生存率:大地純平(山梨県森林総合研究所)	P2-057 台風被害に伴う針葉混交林の長期的変化:旧空中写真を用いた分析:尾張敏章(東京大学)ら	P2-074 カラマツ類苗木の成長・生残に対する苗木サイズ及び下刈りの影響:滝谷美香(北海道立総合研究機構林業試験場)ら	P2-091 海岸林における広葉樹植栽技術に関する研究:檜崎康二(福岡県農林業総合試験場資源活用研究センター)ら
P2-041 UAVにより取得した林内全天球画像は"使える"か?:矢田豊(石川県農林総合研究センター)ら	P2-058 針葉混交天然林の施業管理のためのマルチセンサ観測:古家直行(森林総合研究所)ら	P2-075 機械地拵え地で隔年下刈りしたカラマツ類植栽苗の生残と成長:原山尚徳(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所北海道支所)ら	P2-092 石灰山に植栽したクスノキ4種の成長とアーバスキュラー菌根菌の効果:香山雅純(森林総合研究所)ら
P2-042 固定翼型UAVを活用した遠隔地路網の判読:瀧誠志郎(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	P2-059 マルチスペクトル・熱赤外センサによるブナ環状剥皮木の水ストレス検出:坂上大翼(東京大学)ら	P2-076 東京都多摩地域における少花粉ヒノキコンテナ苗の初期成長:久保田将之(東京都農林総合研究センター)ら	P2-093 本州西部地域でのセンダンの成長に影響する諸要因について:糟谷信彦(京都府立大学大学院)ら

ポスターの準備ならびに撤収は速やかにお願いします。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。

研究発表題目(ポスター発表 P2グループ P2-026からP2-227) 3月22日 2/3

会場: ウェブマーケットB ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~18:00

遺伝・育種	生理	植物生態
P2-110 ヤマザクラとカスミザクラの交雑に関する考察: 勝木俊雄(森林総合研究所)	P2-144 スギさし木苗における根系形態に関するゲノムワイド関連解析: 福田有樹(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター)ら	P2-165 蔵王連峰オオシラビソリの集団枯損の分布と更新立地: 千葉翔(山形県森林研究研修センター)ら
P2-111 林木遺伝資源所在地データベースの作成: 山田浩雄(森林総合研究所林木育種センター)ら	P2-145 クロマツにおけるマツ材線虫病抵抗性に関する遺伝解析: 平尾知士(森林総合研究所)ら	P2-166 シカによる樹木被害を受けた北八ヶ岳亜高山帯針葉樹林の19年間の動態: 西村尚之(群馬大学)ら
P2-112 ヒノキ優良品種の選抜: 佐藤太郎(大分県農林水産研究指導センター)ら	P2-146 MiG-seq法を用いたシタケ品種のDNA識別: 松尾歩(東北大学)ら	P2-167 奥秩父山地の非攪乱森林における樹木萌芽生産の種間・種内のパターン: 梅木清(千葉大学)ら
P2-113 CO ₂ 施用と気温がスギ・ヒノキ苗木の成長に及ぼす影響: 大平峰子(森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター)	P2-147 サクラ属における組織分化の制御に関するALOG gene familyの配列比較: 鶴田燃海(東京大学)ら	P2-168 奥羽山系の冷温帯林における水利用特性の解明: 東若葉(京都大学)ら
P2-114 当年生カラマツコンテナ苗の育苗方法の検討: 清水香代(長野県林業総合センター)	P2-148 コウヨウザンの葉緑体DNA変異解析: 磯田圭哉(森林総合研究所林木育種センター)ら	P2-169 液果樹木の開花結実豊凶: 30樹種1018個体の12年間の観察から: 直江将司(森林総合研究所)
P2-115 カラマツ種子の比重選に関わるパラメータの測定: 成田あゆ(北海道立総合研究機構林業試験場)ら	P2-149 衰退過程にあるスズカケの景観的遺伝構造: MiG-seqによる解析: 鈴木智之(東京大学)ら	P2-170 天城山に現存するブナの成立年代: 井出雄二(森林学会員)ら
P2-116 関東地方北部で造成した1年生スギコンテナ苗の検定: 山野達太郎(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター)ら	P2-150 Evaluation of The genetic structure of Japanese black pine stand on Ikinomatsubara Coast: Aziz Akbar Mukasyaf (Kyushu University) et al.	P2-171 無人航空機(ドローン)を用いた森林生態系の植生構造の検出: 友常満利(早稲田大学)ら
P2-117 3次元点群を用いたスギの葉群形質の評価: 平岡裕一郎(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター)ら	P2-151 環状剥皮したカラマツ採種木の着果促進効果と実用化に向けた課題: 福田陽子(森林総合研究所林木育種センター北海道育種場)ら	P2-172 林床処理を行った二次林における放射性セシウムの動態特性の把握: 瀬崎浩介(千葉大学大学院)ら
P2-118 スギ精英樹における幼苗段階の水分生理特性と成木の成長特性との関係: 河合慶恵(研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 関西育種場)ら	P2-152 長日処理によるカラマツの着花促進効果と実用化に向けた課題: 福田陽子(森林総合研究所林木育種センター)ら	P2-173 ミズナラのマスキングは2年前から決まっているのか? : 今博計(北海道立総合研究機構)
P2-119 九州育種基本区におけるスギ精英樹のジベレリン着花特性: 栗田学(森林総合研究所林木育種センター九州育種場)ら	P2-153 抵抗性アカマツ採種圃の性能: 抵抗性ランク、系統配置、園齡による違い: 岩泉正和(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)ら	P2-174 スギ・シュートにおける貯蔵炭水化物の時間変動パターン: 壁谷大介(森林総研)ら
P2-120 土壌乾燥ストレスに対するスギの成長及び生理的応答の評価手法の開発: 高島有哉(森林総合研究所 林木育種センター)ら	P2-154 マツ属における接ぎ木接合部の組織観察: 中島剛(地方独立行政法人青森県産業技術センター林業研究所)	P2-175 雌雄異株植物アブラチャンの株構造および分布パターンにおける性差: 志水奎介(三重大学)ら
P2-121 スギの根元曲がりに影響を与える木材形質の検討: 宮下智弘(山形県森林研究研修センター)ら	P2-155 低温貯蔵はスギ挿し木発根の向上に有効か?: 本田あかり(九州大学)ら	P2-176 絶滅危惧種オキナワセッコクの自生地と森林管理: 阿部真(国立研究開発法人森林研究・整備機構)ら
P2-122 Relationship between the male flower index and quantity of cedar: 遠藤良太(千葉県農林総合センター)	P2-156 低温貯蔵はスギ挿し木発根の向上に有効か?: 本田あかり(九州大学)ら	P2-177 冷温帯アカマツ林のCO ₂ 吸収量の長期変動: 小南裕志(森林総合研究所)ら
P2-123 スギの雄花着花性のクローン間差評価に対する順序ロジックモデルの有用性: 花岡剛(森林総合研究所林木育種センター北海道育種場)ら	P2-157 強度被陰環境におけるトドマツ茎頂分裂組織と形成層の成長抑制: 内海泰弘(九州大学)ら	P2-178 樹冠と枝内の光勾配に対する光合成能力の変化 能力推定にはどの光を使う?: 飯尾淳弘(静岡大学)
P2-124 雄花着花量の異なるスギクローンのジベレリン処理後の遺伝子発現解析: 坪村美代子(森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	P2-158 交互作用効果: 菌根共生、施肥と乾燥による成長と生理学的特性: Agathokleous Evgenios (Forestry and Forest Products Research Institute) et al.	P2-179 個体・水分生理ベースの動的全球植生動態モデル: S-TEDy: 熊谷朝臣(東京大学)
P2-125 気候が異なる西南日本の3地域におけるスギ精英樹の初期成長: 三浦真弘(森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター関西育種場)ら	P2-159 DNAマーカーによる採種圃産種子の診断: カラマツ類の雑種率の年変動: 石塚航(道総研・林業試)ら	P2-180 気候変動にともなう全球スケールでの森林分布域の変化予測: 平田晶子(国立研究開発法人 国立環境研究所)ら
P2-126 爽春家系からの雄性不稔スギの新品種開発: 西原寿明(愛媛県農林水産研究所林業研究センター)	P2-160 カラマツにおける分子育種に向けたゲノムおよびバイオリソースの整備: 三嶋賢太郎(森林総合研究所 林木育種センター)ら	P2-181 系統や環境を超えた個体根系/地上呼吸配分スケリングの統一性: 森茂太(山形大学)ら

ポスターの準備ならびに撤収は速やかにお願いします。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。

研究発表題目(ポスター発表 P2グループ P2-026からP2-227) 3月22日 3/3

会場: ウェブマーケットB ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~18:00

防災	動物・昆虫	
P2-182 斜面変動場の透水性に依存した積雪期の間隙水圧変動特性:岡本隆(森林総合研究所)ら	P2-199 キクイムシ被害木早期発見への近赤外の有効性?北海道カラマツ林での事例?:和田尚之(北海道立総合研究機構)ら	P2-216 ニホンジカの侵入初期における広葉樹二次林の下層植生の経年変化:松浦崇遠(富山県農林水産総合技術センター森林研究所)ら
P2-183 模型を用いた樹木引き倒し実験:岡田康彦(森林研究・整備機構森林総合研究所)ら	P2-200 青森県西部のナラ林における養菌性キクイムシ類のモニタリング:伊藤昌明(地独)青森県産業技術センター林業研究所	P2-217 宮崎県のシカ移入初期におけるスギ植栽苗への被害:平田令子(宮崎大学)ら
P2-184 ミズクラゲチップのアラカシに対する施用効果:全種雨(江原大学)ら	P2-201 カシノナガキクイムシの過冷却点の季節変化:北島博(森林総合研究所)ら	P2-218 石川県におけるニホンジカの誘因物の効果—2018年—:北市仁(石川県白山自然保護センター)ら
P2-185 日本の海岸における飛砂量全国マッピングに向けた予測手法の開発:南光一樹(国立研究開発法人森林研究・整備機構)ら	P2-202 ヨシブエナガキクイムシから分離された菌類、および接種試験:衣浦晴生(森林総合研究所関西支所)ら	P2-219 シカ生息密度の広域分布表示:近藤洋史(森林総合研究所)ら
P2-186 雪崩斜面における樹木の倒伏過程と積雪条件との関係:鈴木高峰(新潟大学災害・復興科学研究所)ら	P2-203 千葉県におけるスギカミキリの被害推移:福原一成(千葉県農林総合研究センター森林研究所)	P2-220 長野県塩尻市東山における自動撮影カメラを用いたニホンジカの生息状況調査:柳澤賢一(長野県林業総合センター)ら
P2-187 樹幹位置の精密計測による横方向外力に対する幹変位応答:鈴木寛(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	P2-204 ハラアコブカミキリ成虫の長期室内飼育の試み:小坂肇(森林総合研究所)ら	P2-221 センサーカメラの撮影画像による東京大学秩父演習林のクマ剥ぎ行動の解析:石橋整司(東京大学)ら
P2-188 林業用機械を用いて地がきを行ったドブマツ人工林における土砂発生・流出:延廣竜彦(森林総合研究所北海道支所)ら	P2-205 クビアカツヤカミキリ誘引トラップで捕獲された昆虫類の組成-館林市の事例-松本剛史((国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	P2-222 ツキノワグマ垂成獣の行動追跡の試み:小池伸介(東京農工大学大学院)ら
P2-189 雪崩防止林造成における木製杭と植栽木による斜面積雪安定効果の検証:柴和宏(富山県農林水産総合技術センター 木材研究所)ら	P2-206 ヒノキ採種園での集合フェロモンによるチャバネアオカメムシ卵寄生蜂の誘引:片桐奈々(岐阜県森林研究所)ら	P2-223 地形と植生にみるツキノワグマ出没地特性—岐阜県高山市周辺の事例—:福田夏子(東京大学大学院)ら
P2-190 雪による枝葉の力学的ストレスの測定:宮下彩奈(森林総合研究所)ら	P2-207 センリョウにおけるムラサキシロハシカメムシの生育および産卵:川口エリ子(鹿児島県森林技術総合センター)ら	P2-224 動物種による違いに基づいて評価したサクラ類の種子散布:加藤珠理(森林総合研究所)ら
P2-191 LiDARデータの差分処理による斜面の崩壊深の特徴—H29九州北部豪雨の事例—:鶴崎幸(福岡県農林業総合試験場資源活用研究センター)ら	P2-208 サカキを加害する新たなヨコバイの生態と防除:坂本淳(和歌山県林業試験場)ら	P2-225 針葉樹人工林に設置したカラ類用果箱の利用者:近藤崇(石川県白山自然保護センター)ら
P2-192 平成30年7月豪雨により岐阜県で発生した山地災害の特徴:白田寿生(岐阜県森林研究所)ら	P2-209 樹齢や異型葉によって大きく異なるクスサン幼虫の成長:松木佐和子(岩手大学)	P2-226 気候変動がヤマガラ、シジウカラの初卵日に及ぼす影響:水谷瑞希(信州大学)ら
P2-193 開設された作業道と再利用された作業道からの間伐後の濁水流出量:阿部俊夫(森林総合研究所)ら	P2-210 新燃岳噴火後5年間の霧島山系におけるアカマツの枯死状況:金谷整一(森林総合研究所九州支所)ら	P2-227 人工林の伐採はヨタカに生息地を提供するか?北海道中部での4年間の調査:河村和洋(北海道大学)ら
P2-194 強度間伐後の下層植生の繁茂が表面侵食防止に与える影響:土井裕介(大阪府立環境農林水産総合研究所)ら	P2-211 マツ材線虫病予防剤の樹幹注入による壊死部の樹体内における分布:加藤徹(静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター)	
P2-195 山地溪流の底生無脊椎動物群集に対する林相と地質の複合的な影響の検討:大平充(東京農工大学大学院)ら	P2-212 コナラ枯死材を利用する無脊椎動物の群集構造:森戸航平(東京農工大学)ら	
P2-196 笠松山山火事跡地の森林の再生:江崎次夫(愛媛大学)ら	P2-213 丘陵地の二次林及び針葉樹林におけるオサムシ科甲虫群集:貝塚淳(株式会社長大)	
P2-197 有用広葉樹を用いた放置竹林対策:河野修一(愛媛大学)ら	P2-214 ボルネオ島低地熱帯雨林における種子食性キクイムシの寄主利用様式:浅野郁(京都大学大学院)ら	
P2-198 仙台の海岸防災林に植栽された常緑広葉樹種の活力度調査:佐野哲也(東北工業大学)ら	P2-215 大規模防鹿柵による昆虫と植物の多様性保全効果—霧ヶ峰高原における事例—:中浜直之(東京大学)ら	

ポスターの準備ならびに撤収は速やかにお願いします。ポスターの掲示場所については当日に会場でお知らせします。

コアタイムには必ずポスターの前に立ち質疑に応じてください。

ポスター発表会場配置（ウェブマーケットB[展示ホール]）

※ポスター番号（下3ケタ）は各配置場所に対して割り振られており、1日目と2日目で同一です（高校生ポスター発表を除く）。そのため、場所によっては空き番号があります。当日会場に掲示されている配置図に従ってポスターを11:00までに掲示してください。ポスターは、発表当日の16:30～18:00（21日）に撤収してください。学生ポスター賞受賞ポスターは、22日にも掲示します。

3月21日		3月22日		
配置場所番号	ポスター番号	部門	ポスター番号	部門
1	P1-001	林政	PP01	JFR論文賞
2	P1-002		PP02	日林誌論文賞
3	P1-003		PP03	
4	P1-004			
5	P1-005			空き
6	P1-006			空き
7	P1-007		PP06	学生ポスター賞 受賞ポスター
8	P1-008		PP07	
9	P1-009		PP08	
10	P1-010		PP09	
11	P1-011	PP10		
12	P1-012	PP11		
13	P1-013	PP12		
14	P1-014	PP13		
15	P1-015	PP14		
16	P1-016	PP15		
17	P1-017	PP16		
18	P1-018	PP17		
19	P1-019	PP18		
20	P1-020	PP19		
21	P1-021	PP20		
22	P1-022	PP21		
23	P1-023	PP22		
24	P1-024	PP23		
25	P1-025	PP24		
26	P1-026	P2-025	空き	
27	P1-027	P2-026	経営	
28	P1-028	P2-027		
29	P1-029	P2-028		
30	P1-030	P2-029		
31	P1-031	P2-030		
32	P1-032	P2-031		
33	P1-033	P2-032		
34	P1-034	P2-033		
35	P1-035	P2-034		
36	P1-036	P2-035		
37	P1-037	P2-036		
38	P1-038	P2-037		
39	P1-039	P2-038		
40	P1-040	P2-039		
41	P1-041	P2-040		
42	P1-042	P2-041		
43	P1-043	P2-042		
44	P1-044	P2-043		
45	P1-045	P2-044		
46	P1-046	P2-045		
47	P1-047	P2-046		
48	P1-048	P2-047		
49	P1-049	P2-048		
50	P1-050	P2-049		
51	P1-051	P2-050		
52	P1-052	P2-051		
53	P1-053	P2-052		
54	P1-054	P2-053		
55	P1-055	P2-054		
56	P1-056	P2-055		
57	P1-057	P2-056		
58	P1-058	P2-057		
59	P1-059	P2-058		
60	P1-060	P2-059		
61	P1-061	P2-060		
62	P1-062	P2-061		
63	P1-063	P2-062		
64	P1-064	P2-063		
65	P1-065	P2-064		
66	P1-066	P2-065		
67	P1-067	P2-066		
68	P1-068	P2-067		
69	P1-069	P2-068		
70	P1-070	P2-069		
71	P1-071	P2-070		
72	P1-072	P2-071		
73	P1-073	P2-072		
74	P1-074	P2-073		
75	P1-075	P2-074		
76	P1-076	P2-075		
77	P1-077	P2-076		
78	P1-078	P2-077		
79	P1-079	P2-078		
80	P1-080	P2-079		
81	P1-081	P2-080		
82	P1-082	P2-081		
83	P1-083	P2-082		
84	P1-084	P2-083		
85	P1-085	P2-084		
86	P1-086	P2-085		
87	P1-087	P2-086		
88	P1-088	P2-087		
89	P1-089	P2-088		
90	P1-090	P2-089		
91	P1-091	P2-090		
92	P1-092	P2-091		
93	P1-093	P2-092		
94	P1-094	P2-093		
95	P1-095	P2-094		
96	P1-096	P2-095		

3月21日		3月22日		
配置場所番号	ポスター番号	部門	ポスター番号	部門
97	P1-097	生理	P2-097	造林
98	P1-098		P2-098	
99	P1-099		P2-099	
100	P1-100		P2-100	
101	P1-101		P2-101	
102	P1-102		P2-102	
103	P1-103		P2-103	
104	P1-104		P2-104	
105	P1-105		P2-105	
106	P1-106		P2-106	
107	P1-107	P2-107		
108	P1-108	P2-108		
109	P1-109	P2-109		
110	P1-110	P2-110		
111	P1-111	P2-111		
112	P1-112	P2-112		
113	P1-113	P2-113		
114	P1-114	P2-114		
115	P1-115	P2-115		
116	P1-116	P2-116		
117	P1-117	P2-117		
118	P1-118	P2-118		
119	P1-119	P2-119		
120	P1-120	P2-120		
121	P1-121	P2-121		
122	P1-122	P2-122		
123	P1-123	P2-123		
124	P1-124	P2-124		
125	P1-125	P2-125		
126	P1-126	P2-126		
127	P1-127	P2-127		
128	P1-128	P2-128		
129	P1-129	P2-129		
130	P1-130	P2-130		
131	P1-131	P2-131		
132	P1-132	P2-132		
133	P1-133	P2-133		
134	P1-134	P2-134		
135	P1-135	P2-135		
136	P1-136	P2-136		
137	P1-137	P2-137		
138	P1-138	P2-138		
139	P1-139	P2-139		
140	P1-140	P2-140		
141	P1-141	P2-141		
142	P1-142	P2-142		
143	P1-143	P2-143		
144	P1-144	P2-144		
145	P1-145	P2-145		
146	P1-146	P2-146		
147	P1-147	P2-147		
148	P1-148	P2-148		
149	P1-149	P2-149		
150	P1-150	P2-150		
151	P1-151	P2-151		
152	P1-152	P2-152		
153	P1-153	P2-153		
154	P1-154	P2-154		
155	P1-155	P2-155		
156	P1-156	P2-156		
157	P1-157	P2-157		
158	P1-158	P2-158		
159	P1-159	P2-159		
160	P1-160	P2-160		
161	P1-161	P2-161		
162	P1-162	P2-162		
163	P1-163	P2-163		
164	P1-164	P2-164		
165	P1-165	P2-165		
166	P1-166	P2-166		
167	P1-167	P2-167		
168	P1-168	P2-168		
169	P1-169	P2-169		
170	P1-170	P2-170		
171	P1-171	P2-171		
172	P1-172	P2-172		
173	P1-173	P2-173		
174	P1-174	P2-174		
175	P1-175	P2-175		
176	P1-176	P2-176		
177	P1-177	P2-177		
178	P1-178	P2-178		
179	P1-179	P2-179		
180	P1-180	P2-180		
181	P1-181	P2-181		
182	P1-182	P2-182		
183	P1-183	P2-183		
184	P1-184	P2-184		
185	P1-185	P2-185		
186	P1-186	P2-186		
187	P1-187	P2-187		
188	P1-188	P2-188		
189	P1-189	P2-189		
190	P1-190	P2-190		
191	P1-191	P2-191		
192	P1-192	P2-192		

3月21日		3月22日		
配置場所番号	ポスター番号	部門	ポスター番号	部門
193	P1-193	防災	P2-193	防災
194	P1-194		P2-194	
195	P1-195		P2-195	
196	P1-196		P2-196	
197	P1-197		P2-197	
198	P1-198		P2-198	
199	P1-199		P2-199	
200	P1-200		P2-200	
201	P1-201		P2-201	
202	P1-202		P2-202	
203	P1-203	P2-203		
204	P1-204	P2-204		
205	P1-205	P2-205		
206	P1-206	P2-206		
207	P1-207	P2-207		
208	P1-208	P2-208		
209	P1-209	P2-209		
210	P1-210	P2-210		
211	P1-211	P2-211		
212	P1-212	P2-212		
213	P1-213	P2-213		
214	P1-214	P2-214		
215	P1-215	P2-215		
216	P1-216	P2-216		
217	P1-217	P2-217		
218	P1-218	P2-218		
219	P1-219	P2-219		
220	P1-220	P2-220		
221	P1-221	P2-221		
222	P1-222	P2-222		
223	P1-223	P2-223		
224	P1-224	P2-224		
225	P1-225	P2-225		
226	P1-226	P2-226		
227	P1-227	P2-227		
228	P1-228	空き		
229	P1-229	空き		
230	P1-230	空き		
231	P1-231	空き		
232	P1-232	空き		
233	P1-233	空き		
234	P1-234	空き		
235	P1-235	空き		
236	P1-236	KP01		
237	P1-237	KP02		
238	P1-238	KP03		
239	P1-239	KP04		
240	P1-240	KP05		
241	P1-241	KP06		
242	P1-242	KP07		
243	P1-243	KP08		
244	P1-244	KP09		
245	P1-245	KP10		
246	P1-246	KP11		
247	P1-247	KP12		
248	P1-248	KP13		
249	P1-249	KP14		
250	P1-250	KP15		
251	P1-251	KP16		
252	P1-252	KP17		
253	P1-253	KP18		
254	P1-254	KP19		
255	P1-255	KP20		
256	P1-256	KP21		
257	P1-257	KP22		
258	P1-258	KP23		
259	P1-259	KP24		
260	P1-260	KP25		
261	P1-261	KP26		
262	P1-262	KP27		
263	P1-263	KP28		
264	P1-264	KP29		
265	P1-265	KP30		
266	P1-266	KP31		
267	P1-267	KP32		
268	P1-268	KP33		
269	P1-269	KP34		
270	P1-270	KP35		
271	P1-271	KP36		
272	P1-272	KP37		
273	P1-273	KP38		
274	P1-274	空き		
275	P1-275	空き		
276	P1-276	空き		
277	P1-277	空き		
278	P1-278	空き		

企画シンポジウム

S1 未利用木材利用可能量推計および収穫システム

Availability estimation and harvesting system of unused woody materials

コーディネータ： 有賀一広（宇都宮大学）

図子光太郎（富山県農林水産総合技術センター森林研究所）

3月20日 15:00-18:00 会場 マリンホール（国際会議室）

平成24年7月に再生可能エネルギー固定価格買取制度FIT（Feed-in Tariff）が開始され、木質バイオマス発電、特に固定価格が高値に設定された未利用木材（森林バイオマス）を燃料とする発電施設が、平成29年3月時点で、全国で122カ所認定され、すでに39カ所で稼働しています。未利用木材を燃料として利用することは、林業振興や山村の雇用創出などに貢献することが期待されていますが、一方で出力5,000kWで60,000t/年程度が必要とされる未利用木材を買取期間20年間、安定して調達できるかが懸念されています。そこで本企画シンポジウムではこれまで「日本全国の長期的な森林バイオマス利用可能量推計モデル」と「未利用木材の収穫システム」に関する研究を行ってきた研究者にご講演いただき、これらの研究の現状と課題を整理し、今後の木質バイオマス発電の採算性向上に資する未利用木材長期安定供給シナリオの提示、新たな産業となる森林バイオマスサプライチェーンの確立、そして安定的な未利用木材の供給体制の構築に関して議論を深めたいと考えております。多数の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

S1-1 未利用木材利用可能量推計および収穫システム：有賀一広（宇都宮大学）

S1-2 わが国における発電用木質バイオマス燃料の競合状況の評価：久保山裕史（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら

S1-3 都道府県別民有林間伐材生産量の中長期的予測：広嶋卓也（東京大学北海道演習林）ら

S1-4 木材供給体制確立のための地域木材生産に関する政策支援ツールの検討：澤田直美（国際航業株式会社）ら

S1-5 地理情報を用いた原木供給コストならびに供給量の推計：白澤紘明（信州大学）ら

S1-6 木質バイオマス発電への燃料供給体制の変化：佐藤政宗（株式会社森のエネルギー研究所）

S1-7 発電用木質バイオマスの安定供給体制構築プロセスの比較：横田康裕（森林総合研究所）

S1-8 北海道における発電所向け「未利用木材」供給の現状と木材産業への影響：酒井明香（北海道立総合研究機構 林産試験場）ら

S1-9 里山コナラ林における燃材供給可能性の検討：図子光太郎（富山県農林水産総合技術

センター森林研究所)ら

S1-10 再造林地で発生する枝条量の推定 —機械地拵えの生産性予測のために—:大矢信次郎(長野県林業総合センター)ら

S1-11 長良川流域の人工林における未利用木材の利用可能量の推定:古川邦明(岐阜県森林研究所)ら

S1-12 未利用広葉樹と早生造林木としてのコウヨウザンの収穫利用可能性:鈴木保志(高知大学)ら

S2 日本の人工林における気候変動適応策を考える

Adaptation to climate change for Japanese forestry

コーディネータ: 齊藤哲(森林総合研究所), 長池卓男(山梨県森林総合研究所),
中尾勝洋(森林総合研究所)

3月20日 15:00-18:00 会場 スノーホールA(メインホール)

気候変動に対する森林の影響評価・適応策についてはこれまで世界的にも様々な場で議論されてきた。日本でもブナ林などでは将来的な潜在生育適域の変化が推測され、保護区域の見直しや孤立個体群の積極的管理などが提唱されている。政策面では平成30年に「気候変動適応法」が成立し、気候変動適応に向けての法的措置が講じられた。農林水産分野に関しては平成28年に「農林水産省気候変動適応計画」が策定され、農畜産業では作物栽培や家畜飼育の環境の管理などの方策が示されている。しかし、生育環境の管理が困難な林業分野に関しては影響評価の高度化の必要性と適応策の着手が言及されている程度で十分な適応策が提示されているとはいえない。海外では林業分野においても積極的に適応策が議論され、報告などもみられる。そこで本シンポジウムでは日本における人工林を対象とした適応策について討議することを目的とする。まず議論に先立ち適応策の概念の整理と海外の適応策の報告事例の紹介を行う。続いて日本における影響評価・適応策の現状を示し、海外事例の日本への応用の可能性や今後の方向性などについて行政からの視点を交えて議論する。

S2-1 日本の人工林における気候変動適応策の現状:齊藤哲(森林総合研究所)ら

S2-2 森林生態系および林業における気候変動適応策の概観:中尾勝洋(森林総合研究所)

S2-3 人工林を対象とした気候変動の影響評価モデル:鳥山淳平(森林総合研究所)ら

S2-4 人工林の風倒リスク推定に基づく森林計画—現在気候下での風倒モデリング—:森本淳子(北海道大学)ら

S2-5 風倒の影響予測と適応策評価—04年18号台風の21世紀末疑似温暖化実験:高野宏平(長野県環境保全研究所)ら

S2-6 気候変動に適応したスギ育種素材の作出技術開発の取り組み:松下通也(森林研究・整備機構)

S2-7 人工林における気候変動適応策の研究動向:長池卓男(山梨県森林研)

S2-8 気候変動に林業が適応するために必要な研究:河内清高(林野庁)

S3 森林土壌は温暖化を加速するのか?

Will Global Warming be Accelerated by Forest Soil Carbon Decomposition?

コーディネータ: 寺本宗正(国立環境研究所), 丹下健(東京大学),
梁乃申(国立環境研究所)

3月20日 15:00-18:00 会場 スノーホールB(メインホール)

土壌には、約3兆トンもの有機炭素が蓄積している。土壌中の微生物がその有機炭素を分解し、大気中に二酸化炭素として放出する(微生物呼吸)ため、土壌は二酸化炭素の大きな排出源ともなっている。植物根の呼吸も合わせると、全球における土壌の年間二酸化炭素排出量(土壌呼吸)は、炭素換算で約980億トンとも推定されている。これは人為起源の二酸化炭素排出量の約10倍に相当する量である。そのうち微生物呼吸は、土壌呼吸の約7割を占めると考えられる。また、微生物呼吸は、温度上昇に対して指数関数的に上昇する性質がある。そのため、温暖化によって土壌有機炭素の分解が促進され、さらに温暖化を加速させるという悪循環が想定されている。一方で、温暖化によってどれほど微生物呼吸が増進するのか、また、その増進効果はどれほど持続するのかといったことに関しては、統一的な見解は得られていない。これらの点が、温暖化の将来予測に関して、大きな壁となっている。その理由としては、陸域の気候や植生、土壌組成は多様であるため、地域によって温暖化に対する微生物呼吸の応答が異なるということが考えられる。アジアモンスーン地域は、植生タイプやバイオマスに富んだ、広大な地域である。そのため、温暖化に関する将来予測の上でも、重要な地域であると考えられる。特に、日本の森林土壌に注目すると、世界の平均と比して単位面積あたり7割ほど多い土壌有機炭素が含まれているとされるため、温暖化に対する微生物呼吸の長期的な応答も、これまでの欧米における報告と異なる可能性がある。そこで本シンポジウムは、日本を含むアジアモンスーン地域の森林土壌における微生物呼吸に対し、温暖化がおよぼす影響評価とメカニズムの解明をテーマとし、観測、モデル解析、微生物や土壌有機炭素の化学的分析など、分野横断的な研究発表を行い、活発な議論を交わすことを目的とする。

S3-1 アジアの森林土壌有機炭素放出の温暖化影響とフィードバック効果:梁乃申(国立研究開発法人国立環境研究所)ら

S3-2 10年間の地温上昇処理が道北の植林泥炭地の微生物呼吸量に与える影響:高木健太

- 郎(北海道大学)ら
- S3-3 遺伝解析による土壌微生物評価から温暖化に伴う土壌呼吸量の変動要因を探る:近藤俊明(広島大学)ら
- S3-4 温暖化は土壌に貯留する有機炭素にどのような変化をもたらすか?:小嵐淳(日本原子力研究開発機構)ら
- S3-5 新たなリター供給を排除したスギ林皆伐跡地の土壌呼吸速度の6年間の変化:阿部有希子(東京大学大学院)ら
- S3-6 地中分光計測による森林土壌有機物組成と微生物呼吸の垂直分布の予測:中路達郎(北海道大学)ら
- S3-7 全球スケールの土壌呼吸量と地球温暖化:どこまで明らかになったのか?:橋本昌司(森林総合研究所)

S4 現代の林業専門教育はどうあるべきか ―森林科学・技術と社会を再考する

What matters in professional forestry education system in Japan? -rethinking forest science, technology and society

コーディネータ: 田村典江(総合地球環境学研究所), 奥山洋一郎(鹿児島大学)

3月20日 15:00-18:00 会場 201A

戦後に造林した針葉樹人工林が収穫期を迎えるとともに、国産材需要は上向きに転じ、日本の林業は一時の低迷期を脱したように見える。林業成長産業化に向け、担い手の育成確保の必要性が叫ばれ、林業大学校設立や研修の拡充などの制度的支援が行われている。一方で、人口減少と都市化、豪雨災害や鳥獣被害の増加、環境意識の高まり、デジタル化など多様な要因のために、日本のみならず世界各地で、市民社会と森林との関係が変化している。諸外国では、時代の変化に対応したあるべき林業専門教育に関する議論が行われてきたが、日本では、近年まで林業専門教育をめぐる研究や議論は停滞しており、新たな林業専門教育に関する議論は活発にはなされてこなかった。しかしながら、近年、林業の再活性化とともに、観光、レジャー、エネルギーなど新たな森林の利用への関心も高まり、林業への注目が高まっている。林業をふたたび山村地域の基幹的な産業として構成するためには、正確な伐倒・集材技術の習得だけではなく、幅広く森林と社会のつなぎ手となる人材の育成が必要ではないだろうか。

折しも森林環境譲与税が始まるなか、科学的にありうる選択枝と地域社会のニーズや思いを受け止めて将来を描く専門技術者の必要性が市町村レベルでいっそう高まりつつある。行政と地域社会が林業技術者に寄せる期待は高く、これに応えるためにもあるべき専門教育と、それを支えうるあるべき森林科学技術について、分野横断的に検討する必要がある。

本企画シンポジウムでは、林業技術者育成に携わってきた研究者が、当事者の視点も含

んで現状の専門教育システムを概観する。同時に、中部地域の先進的な林業実務者が現場経験を踏まえて教育や科学に対するニーズや期待を述べる。両者の報告を踏まえて、望ましい現代的な林業専門教育のあり方や、森林科学・技術と社会のよりよい関係について包括的な議論を行うことを目的とする。

- S4-1 日本の林業専門教育の現状：田村典江（総合地球環境学研究所）
- S4-2 林業技術者と職業，資格。教育機関との接続とは：奥山洋一郎（鹿児島大学）
- S4-3 誰が市町村の林政アドバイザーを担うべきか：小森胤樹（郡上エネルギー株式会社）
- S4-4 林業専門教育にもとめられる地域性と新規性：山本信次（岩手大学）
- S4-5 キコリからフォレスタへ。現場から始める専門技術教育。：香山由人（企業組合山仕事創造舎）ら

S5 津波に対する減災を目的とした「多重防御」の一翼を担う海岸防災林造成のための生育基盤盛土の現状と課題 — 「樹木根の成長と機能」共同シンポジウム—

Current state of the berm constructed as a growth medium of coastal forests with the disaster reduction function, which must play an important role of the multiple protection function against mega-tsunami, and related challenges

コーディネータ： 小野賢二（森林総合研究所），野口宏典（森林総合研究所），野口享太郎（森林総合研究所）

3月20日 15:00-18:00 会場 201B

東日本大震災大津波によって被災した海岸防災林の復旧は、「東日本大震災からの復興の基本方針」、「復興・創世期間」における東日本大震災からの復興の基本方針」等に基づいて行われている。この事業には、海岸防災林が従前有していた公益的機能の回復に加え、津波に対する減災を目的とした「多重防御」の一翼を担うことも期待されている。そのため、再生・復旧された海岸防災林では植栽木根系の健全な成長が担保されるよう、盛土をして嵩上げすることによって、十分な有効土層厚を確保し得る生育基盤の造成がなされているところである。

海岸防災林の復旧事業着手初期には、基盤造成時に天端面を走行した重機の転圧により生育基盤盛土が締め固まり、固結層の形成や透排水性不良の事例が散見された。こうした状況は、植栽時の植え付け穴の作成を困難とし、植栽後の樹木の活着や生育、健全な根系成長の確保に対して影響を与えることが懸念された。そのため、現在進められている事業では、固結層の形成を抑制し、排水・透水性を確保する生育基盤造成工法へと改善がなされている。

本シンポジウムでは、海岸防災林再生事業における生育基盤造成の現状を、事業発注者、

施工者および植栽事業者の視点からご報告を頂く。また、海岸防災林の根系成長を規定する要因に関する研究成果についてご紹介頂き、海岸防災林再生事業の現状との関係について情報を共有し、今後の課題と、それらを解決するための方向性について、議論を深める場としたい。

S5-1 生育基盤盛土に植栽したクロマツの根系成長と土壌硬度の関係:野口宏典(森林総合研究所)ら

S5-2 仙台湾沿岸域の海岸防災林再生事業について:市川裕子(林野庁東北森林管理局)

S5-3 名取市海岸林の復興現場における樹木の成長と施業の現況および今後の課題:吉田俊通(公益財団法人オイスカ)

S5-4 固結層形成抑制に配慮して造成した生育基盤の土壌特性:新井隆介(岩手県林業技術センター)ら

S5-5 異なる地下水位の海岸に生育するクロマツの倒伏抵抗力和根系構造:平野恭弘(名古屋大学)ら

S6 林木の育種期間短縮への挑戦—無花粉スギの育種事例—

Challenging breeding cycle reduction: a case study of male sterile tree breeding in *Cryptomeria japonica*

コーディネータ : 上野真義 (森林総合研究所), 森口喜成 (新潟大学),
松本麻子 (森林総合研究所)

3月20日 15:00-17:30 会場 301A

林木の品種改良や優良種苗の生産・普及に要する期間を大幅に短縮することは、林木に求められる新しい需要に迅速に対応する上で重要なことである。イネなどの主要な作物ではモデル生物で培われたゲノム解析技術を育種に応用することで、新しい品種の開発が進められている。一方で林木、特に針葉樹は、巨大なゲノム(遺伝情報の総体)を持つため、ゲノム配列の解読も容易ではない。さらに一年生の草本とは異なり、交配が可能になるまで育成する時間も数年単位で必要である。このような特徴を持つ林木の育種期間を短縮するために、ゲノム解析技術や組織培養技術の活用が役立つと期待される。

本シンポジウムでは、スギ花粉症対策として重要な無花粉スギ(花粉の発育過程に異常があるため花粉を飛散しないスギ)の育種期間の短縮に向けた研究事例として、スギのゲノム解読、無花粉スギの原因遺伝子(雄性不稔遺伝子)の探索、無花粉スギの選抜マーカーの開発、無花粉スギの苗木を生産するための組織培養技術の開発について報告する。また、作物分野で先端的な育種をされている方の研究から話題を提供する。以上を踏まえて林木の育種期間の短縮について今後の研究開発の方向性を議論したい。

- S6-1 ロングリードで挑むスギゲノム配列決定: 笠原雅弘(東京大学)ら
- S6-2 次世代シーケンスと Axiom SNP アレイを用いた無花粉スギ選抜マーカーの開発: 長谷川陽一(新潟大学大学院)ら
- S6-3 DNA マーカーを活用した新潟県の無花粉スギ育種: 戸塚聡子(新潟県森林研究所)ら
- S6-4 組織培養による無花粉スギ苗の大量増殖技術の開発: 丸山 E. 毅(森林総合研究所)ら
- S6-5 スマート育種に向けたソバの遺伝・ゲノム解析: 原尚資(北海道農業研究センター)ら

S7 環境変化にともなう森林の生産性と分布の予測

Forest productivity and distribution under changing environment

コーディネータ: 渡辺誠(東京農工大学), 北尾 光俊(森林総合研究所)

3月20日 15:00-18:00 会場 301B

産業革命以降、化石燃料の消費増大に代表される人間活動によって、森林を取り巻く環境は劇的に変化している。気候変動に伴う降水量の変化、大気 CO₂ 濃度の上昇、窒素や硫黄などを含んだ酸性物質の沈着量の増加、オゾンや PM_{2.5} などの大気汚染物質が森林生態系に与える地球規模の影響が懸念されている。このような環境変化は、光合成活性の低下、土壌の養分・水分の利用性や病虫害に対する抵抗性といった様々なプロセスに複雑な変化を与え、森林の生産性や分布に影響を与える。そして、そのフィードバック作用として、森林からの養分・水分および揮発性有機化合物などの放出特性も変化する。数十年以上かけて蓄積される森林バイオマス、環境資源としての森林の持続的利用、そして流域レベルでの物質循環の将来予測を行う上で、これら人為的な環境変化と森林・樹木における相互作用の理解は避けて通ることができない重要な課題である。本シンポジウムでは、このような研究課題に対して世界レベルでリードしてきた北海道大学の小池孝良氏に、樹木に対して長年にわたり実施された CO₂ やオゾンFACE 実験で得られた研究成果を総括していただく。そして、関連分野の研究者による環境変化と森林・樹木の関係についての講演を加えて、包括的な討論を行う。様々な分野における最新の知見を持ち寄り、日本をはじめとしたアジア地域の森林に対する大気環境の変化の影響と将来の展望を議論する。特に異なる分野間の異なるスケールで得られた知見を、どのように融合していくのかについての議論を深めることを目的とする。

- S7-1 気孔反応を考慮したクロロフィル蛍光による乾燥下での CO₂ 吸収速度の推定: 北尾光俊(森林総合研究所)ら
- S7-2 長崎に生育するヒノキの葉に沈着した粒子状物質の量と金属組成の継時的変化: 山口真弘(長崎大学)ら

- S7-3 空間的に不均一な窒素沈着は落葉広葉樹林の窒素・炭素動態に影響するか?：堅田元喜(茨城大学)ら
- S7-4 我が国の森林集水域における越境輸送される物質流入の役割：佐瀬裕之(アジア大気汚染研究センター)ら
- S7-5 富山県立山のブナ林における森林動態と広域大気汚染の影響：久米篤(九州大学)ら
- S7-6 野外操作実験による無機環境変化が樹林地構成樹木へ及ぼす影響の評価：小池孝良(北海道大学／大学院)

S8 スギの分布変遷を古森林学的研究手法から明らかにする

Distribution change of *Cryptomeria japonica* cleared by introduction of paleoecology methods

コーディネータ： 志知幸治(森林総合研究所), 木村恵(森林総合研究所),
岡本透(森林総合研究所)

3月20日 15:00-18:00 会場 302A

スギは日本の固有種であり、日本海側を中心に青森県から屋久島まで広範囲に天然分布している。日本海側に分布するものをウラスギ、太平洋側に分布するものをオモテスギと呼ぶが、両者は遺伝的に分化していることが明らかになっており、過去の気候変動に対応して分布範囲が変化していったと考えられる。一方で、スギ天然林は、江戸時代以降の大量伐採により大きく減少したが、戦後の拡大造林などの影響でスギ人工林の割合が増加するなど、近年のスギの動態に及ぼした人間活動の影響は大きいといえる。

スギの分布変遷に関して、かつては、氷期に若狭湾、伊豆などに逃避していたスギが完新世の温暖化に伴って分布を拡大したとする説が支配的であったが、近年では日本各地に存在していたスギの小集団が、完新世に分布を拡大したとする説が有力になっている。しかし、スギが拡大を開始した気候的な要因や、スギの小集団が拡大した範囲については明らかになっていない。また、人間活動がスギに及ぼした影響についても、スギ天然林が減少した時期や減少に及ぼした人為的要因は詳細には明らかになっていない。

本シンポジウムでは、森林の変遷や人間との関わりについて調べることができる方法(古森林学的研究手法)として、生態学、集団遺伝学、林政学などの視点による事例研究を組み合わせるにより、スギの分布変遷や、それが生じた気候的・人為的要因について議論したい。

S8-1 花粉分析からみた最終氷期以降のスギの分布変遷：池田重人(森林総合研究所)ら

S8-2 遺伝解析と分布予測モデルからみた最終氷期以降のスギの分布変遷：木村恵(森林総合研究所)ら

- S8-3 スギの遺伝的分化と環境への適応：内山憲太郎(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら
- S8-4 17～19 世紀の森林利用とスギの分布への影響：芳賀和樹(公益財団法人徳川黎明会 徳川林政史研究所)
- S8-5 絵図から読み解く近年のスギの分布変化：岡本透(森林総合研究所)ら
- S8-6 施業図解析等に基づく昭和以降のスギ資源量の変化：宮本麻子(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら
- S8-7 花粉分析と歴史史料に基づく江戸時代以降のスギ林変遷と人為影響：志知幸治(森林総合研究所)ら

S9 日本の伝統的な漆文化を継承する国産漆の増産に向けた取組

Recent studies toward high urushi lacquer production for keeping traditional urushi culture in Japan

コーディネータ： 田端雅進(森林総合研究所), 渡辺敦史(九州大学)

3月20日 15:00-17:30 会場 302B

ウルシの樹脂を含む樹液(漆)は、9000年前の縄文時代から接着剤や塗料等に使われ、日本人に広く親しまれている。漆は国宝・重要文化財の保存・修復等伝統文化の維持に貢献してきたが、昨今伝統文化を支える国産漆の供給が危機的状況にある。現在、日本で使用される漆の約97%を中国産が占め、国産漆は残り3%程度しか生産されていない。国宝・重要文化財の保存・修復において国産漆と中国産漆を混合して使用してきたが、国においては2018年までに国産漆のみを用いた国宝・重要文化財の保存・修復を進める方向で取り組んでいることから、安定的な需給体制を確立する必要性が高まっている。これまで平成22年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業及び平成28年度農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業(現、イノベーション創出強化研究推進事業)で研究を行い、第123・124・129回森林学会テーマ別シンポジウムにおいてウルシ林の管理技術や樹脂生産量と樹皮組織の関連性等について報告し、情報共有した。

今回のシンポジウムでは、国宝・重要文化財の保存・修復に関わる国産漆使用において不可欠なウルシについて、ウルシ林の植栽適地、植栽地で問題になる病気、漆が良く出る個体を確実に識別・同定出来るDNAマーカーの開発、国産漆の生産性に関わる収益性を技術的・社会科学的な視点等の研究成果を発表していただき、国産漆増産に向けた課題を整理し、今後のウルシ林管理のあり方について議論を深めたい。

- S9-1 優良ウルシ選抜に向けたDNAマーカー開発の取り組み：渡辺敦史(九州大学大学院)ら
- S9-2 青森県産ウルシ種子3集団の発芽に及ぼす発芽処理方法の影響：土屋慧(地方独立行

- 政法人青森県産業技術センター林業研究所)
- S9-3 ウルシにおけるさし木増殖技術の開発:井城泰一(森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場)ら
- S9-4 ウルシ植栽不適地における土壌の特徴:田端雅進((国研) 森林研究・整備機構)ら
- S9-5 国産漆の新たな脅威・*Phytophthora cinnamomi*:升屋勇人(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)ら
- S9-6 植物ホルモンによる漆液増産の可能性:小谷二郎(石川県農林総合研究センター林業試験場)ら
- S9-7 岩手県北地方におけるウルシ立木の生産性:林雅秀(山形大学)

- S10 森林教育研究のさらなる展開を目指してー教育活動現場との関わりを通じてー
For seeking to extend forest education research activities: associating with various pedagogies and specialists of forest administration
コーディネータ: 井上真理子(森林総合研究所), 東原貴志(上越教育大学),
芦原誠一(鹿児島大学), 山田亮(北海道教育大学)
3月21日 9:00-12:00 会場 201A

森林・林業分野では、「森林環境教育」の提唱(1999年)や「木育」の提唱(2004年)など、教育活動が推進されている。日本森林学会大会では、森林教育に関するセッション(企画シンポジウム)が2003年(第114回大会)から設けられ、2018年(第129回大会)から教育部門が設置された。

森林教育の研究史は古く、1930(昭和5)年の林學會春季大会では、「我國林業教育の改善について」と題する討論が行われている。近年では、林業大学校の新設が相次いでおり、教育研究は、ますます推進が期待されている。ただし、森林に関わる教育活動は、専門家養成のための専門教育から一般市民や子ども達向けの普及活動まであり、活動内容も幅広く、さまざまな実践活動が行われている一方、研究方法などの研究蓄積が豊富とは言い難い。森林教育を研究対象として捉え、森林科学の一部門として研究の発展を図るには、境界領域にある多様な分野の多様な研究者や教育活動の実践者などの視点を交えて、研究に取り組む必要があるといえる。

教育部門が新設された昨年の第129回大会では、森林に関わりが深い環境教育、野外教育、理科教育、木材学や建築学、さらに教育活動の実践者や行政担当者などと共に、「森林教育研究のさらなる展開を目指して」と題した企画シンポジウムを開催した。学会大会後には、日本野外教育大会で「野外教育と森林教育とのコラボレーション」と題した企画(2018年6月、後援:日本森林学会)が実施され、好評を得るなど、教育をめぐる学会間の交流に進展している。そこで、森林教育のさらなる展開を目指して、前回大会に引き続き、境

界領域の他分野の研究者や活動実践者から発表を集めた企画シンポジウムを企画した。森林学の知見の普及に関心のある研究者や人材育成に関わる多くの学会員にご参加頂き、共に議論を行いながら、森林教育研究の可能性を追求してゆく機会としたい。

- S10-1 大学演習林による社会人林業技術者教育の実践：芦原誠一（鹿児島大学）
- S10-2 新潟大学佐渡演習林における森林教育実践と今後の展望：阿部晴恵（新潟大学）ら
- S10-3 中学校技術科の生物育成の教育内容と「林木の育成」の具体例：谷田親彦（広島大学）
- S10-4 教員養成における木育を意図した授業内容の検討とその実践：大内毅（福岡教育大学）
- S10-5 学生の SDGs のアクション？森林資源と学生の研究と学びの場？：佐々木豊志（青森大学）
- S10-6 森林教育の担い手の現在：前田和司（北海道教育大学岩見沢校）
- S10-7 森林文化の教育的機能：張本文昭（沖縄県立芸術大学）
- S10-8 秋田県における森林環境教育の推進について：花田健介（秋田県）
- S10-9 「やまがた木育」の取組みについて：伊藤志津（山形県）
- S10-10 問題意識を醸成し自分ごととして考える森林学習？小学校社会科を通して？：中楯浩太（世田谷区立等々力小学校）

S11 森林の分子生態学の研究成果を世界に発信するためにー研究のデザインから論文投稿までー

How to publish your forest molecular ecology data for the world: From research design to journal submission

コーディネータ： 津田吉晃（筑波大学），
玉木一郎（岐阜県立森林文化アカデミー）

3月21日 9:00-12:00 会場 301A

大量遺伝データの取得技術の向上や集団遺伝学・ゲノムミクス解析法の急速な発展により、森林分子生態学分野では以前にも増して魅力的な研究が可能となってきた。さらに一昔前は国レベル、EUなど地域レベルでの研究事例が主だったのに対し、最近では研究者間の国際ネットワーク構築、人材交流やSNSを通じた情報交換が容易になったこともあり、より広域な国際研究展開が可能となってきたことも近年の関連研究の発展の重要要因となっている。このような世界的な潮流の中で、世界でも“クオリティは高い”と言われてきた日本の森林分子生態学の質を今後も維持し、また独自性を出していくためには、国際競争力も視野に入れた研究展開、森林現場への応用、そしてそのための教育、グローバル人材育成が重要といえる。このような場面において研究の国際誌への論文掲載はそのための

最初の一步であり、英語論文執筆は研究をする上で大きな意味をもつ。しかし、学会等で発表した研究内容が公表されていないことも多いのも実情である。本シンポジウムでは、海外経験も豊富で、さらに論文執筆活動あるいはその教育も積極的に行っている若手からベテランまでの研究者の講演を通じて、どのように研究をデザインし、材料採取、データ解析、論文執筆に取り組むべきか、どのように外国語を習得し、共同研究を進めるか、またそれにより、どのように自身の研究にフィードバックがあるのかについて概観する。そしてこれら議論を通して日本の森林分子生態学がより一層、世界レベルで活発化することを目的とする。

なお、本シンポジウムの演者は海外ポスドク経験者、海外の研究グループと国際研究展開をしている者、外国語教育に従事している者などからも構成されている。そのため、分子生態学を主眼としたシンポジウムではあるが、専門分野に関わらず国際誌論文投稿、海外ポスドク、海外研究展開などに興味のある方の参加も歓迎したい。

S11-1 論文の書き方:内藤健(農研機構)

S11-2 日本の森林遺伝学及び分子生態学分野の成り立ちから現在まで:津村義彦(筑波大学)

S11-3 チーム戦で進める大学研究室での研究活動:阪口翔太(京都大学)

S11-4 データ解析・論文原稿作成における自動化と再現性:玉木一郎(岐阜県立森林文化アカデミー)

S11-5 冒険に身をゆだねる:海外研究留学から秘島野外調査まで:高山浩司(京都大学)

S11-6 海外ネットワークの構築で研究が捗った!?:もがきつづける1研究者の事例:梶田忠(琉球大学)

S11-7 論文投稿のモチベーションをどう維持するか:ライフ・ワーク・バランス?:津田吉晃(筑波大学)

S12 生理部門企画シンポジウム「窒素—吸収・分配・再利用」とポスター1分紹介

Physiology Section Symposium “Nitrogen in trees – uptake, partitioning and recycling” and poster introduction

コーディネータ: 則定真利子(東京大学), 田原恒(森林総合研究所),
小島克己(東京大学), 斎藤秀之(北海道大学), 津山孝人(九州大学)

3月21日 9:00-12:00 会場 301B

講演会「窒素—吸収・分配・再利用」と生理部門のポスター発表の1分紹介からなる生理部門の企画シンポジウムを開催します。

生理部門では樹木の成長の仕組みを明らかにする研究に携わる方々の情報・意見交換の

場となることを目指します。個体から細胞・分子レベルまでの幅広いスケールの現象を対象とした多様な手法によるアプローチを対象として、以下のキーワードを掲げています：樹木生理，個体生理，生態生理，水分生理，栄養成長，生殖成長，物質輸送，栄養，環境応答，ストレス耐性，光合成，呼吸，代謝，細胞小器官，細胞壁，植物ホルモン，組織培養，形質転換，遺伝子発現，ゲノム解析，エピゲノム解析，オミクス解析。従来の研究分野の枠組みにとらわれることなく、さまざまなスケール・手法で樹木の成長の仕組みの解明に携わる多くの皆様に生理部門での口頭・ポスター発表にご参加頂くとともに本シンポジウムにご参集頂きたいと考えております。

講演会では、植物の主要養分のひとつであり、樹木の生育の制限要因となりやすい窒素を取り上げ、その吸収や個体内における分配，代謝，再利用について理解を深めることを目的に、森林総合研究所の韓慶民氏，宮澤真一氏と信州大学の田中（小田）あゆみ氏に、現在の知見の概説を含めて研究成果を披露頂きます。

1分紹介では、生理部門でポスター発表をされる方に発表内容を1分間でご紹介頂きます。

S12-1 窒素同位体比を用いた樹木の窒素吸収源の推定：田中（小田）あゆみ（信州大学）

S12-2 草本植物との比較から見えてくる、樹木の光合成系における窒素利用の特異性：宮澤真一（森林研究・整備機構 森林総合研究所）

S12-3 結実による落葉樹個体内の窒素循環への影響：韓慶民（国立研究開発法人森林研究・整備機構）

S13 車両系林業機械が森林に与える影響の解明

Effects of vehicle-based forest machinery on forest environment

コーディネータ： 倉本恵生（森林総合研究所），中澤昌彦（森林総合研究所），
服部力（森林総合研究所）

3月21日 9:00-12:00 会場 302B

主伐・間伐の推進，低コスト化，生産性の向上が求められる中で林業機械は大きな役割を果たしています。車両系林業機械は伐採から再生林までの各工程に活用され，高い生産性と安全性から，今後もさらなる活用が期待されます。一方で，車両機は森林内に直接乗り入れて作業を行うことから，土壌や立木など森林環境に影響を与える可能性があります。しかしその実態は日本ではほとんど明らかにされていません。

車両系林業機械の影響は，機体が林地を直接走行することによるものと，立木を損傷させることによるものがあります。林地への影響として代表的なものは土壌の締固めがありますが，その発生実態やその後の変化については十分に分かりません。締固めは土壌

の通気性や透水性を低下させることで、植栽木の生育や土壌中の物質の動態にも影響すると考えられますが、これらの点はさらに分かっていません。立木の損傷は腐朽につながると懸念されていますが、それについても解明すべき点が山積みです。

これまで林業機械の作業については主に森林利用の分野で研究がなされてきました。しかし林業機械が森林に与える影響を理解するためには、森林土壌、樹木の生理や生態、森林微生物などの研究者がさらに連携して研究を進める必要があります。そこで、車両系林業機械の影響の解明というテーマについて、まずは様々な分野の方に関心を持っていただき、理解を深め、今後の進展を促すべく、本シンポジウムを企画しました。本シンポは、1) 車両系機械の走行による土壌の物理性や構造の変化、2) 走行による土壌の養分や微生物の動態、植栽木の生育への影響、3) 立木の損傷による腐朽の3部構成となっています。現在行われている研究の知見を講演いただいて、それぞれの部で討論を行います。そこでは、現時点の理解を整理し、今後の課題や取り組みの方向性を議論する予定です。ぜひお気軽にご参集ください。

S13-1 車両系林業機械による林内作業と林分への影響 ―森林利用分野の視点から―:佐々木尚三(森林総合研究所)ら

S13-2 集材路での車両走行後における土壌物理性の回復:佐藤弘和(地方独立行政法人北海道立総合研究機構林業試験場)ら

S13-3 攪乱を受けた団粒の再形成過程における土壌物理性の変化:小野裕(信州大学)ら

S13-4 先進林業機械による土壌攪乱が土壌微生物群集および窒素動態に与える影響:館野隆之輔(京都大学)

S13-5 踏圧と窒素付加に対する植栽当年のグイマツ雑種F₁苗木の成長と生理応答:菅井徹人(北海道大学)ら

S13-6 トドマツの損傷と腐朽:徳田佐和子(道総研 林業試験場)ら

S13-7 林業機械の伐出作業に伴うトドマツ残存立木幹・地表部根系の損傷と腐朽被害:山口岳広(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら

S13-8 樹幹傷に起因する腐朽―スギ, ヒノキの事例と今後の課題:服部力(森林総合研究所)

公募セッション

T1 森林へのシカの影響とその管理

Mechanism of deer impact on forest and its management

コーディネータ： 飯島勇人（森林総合研究所），
明石信廣（北海道立総合研究機構林業試験場），安藤正規（岐阜大学），
田村淳（神奈川県自然環境保全センター），藤木大介（兵庫県立大学）

3月21日 9:00-11:30 会場 マリンホール（国際会議室）

ポスター発表 3月21日 P1-227～P1-234

全国各地におけるシカの増加に伴う森林への様々な影響が報告されている。シカによる森林への影響の強弱をもたらす要因や、影響の管理について様々な研究が行われている。これまでに、シカの生態や個体数推定、シカによる森林への影響の把握方法、植生指標におけるシカとその他の要因の分離といった生態的研究だけでなく、これらの知見を実際に適用した管理事例など、様々な研究発表が行われてきた。その結果、様々な研究知見が積み上がる一方で、シカによる森林への影響の顕在化の過程が地域間で異なることが明らかになってきた。その要因として、シカ密度の時系列動態や植生、無機的環境条件などの違いが考えられる。しかし、これらの知見はシカによる影響が顕在化している地域で行われていることが多く、一度シカ密度が増加した後減少した地域や、近年までシカがほぼ分布していなかった地域における研究が不足している。

また、森林におけるシカの影響を管理する上で、天然林と人工林で重視することは大きく異なる。天然林では嗜好性の高い種の消失や土砂流出防止と言った生態系機能の保全に重きが置かれる一方、人工林では植栽木に対する被害減少に重きがおかれる。特に人工林では、成熟した人工林の収穫後の再造林が急増する一方、森林経営計画を策定している森林において鳥獣害防止森林区域が設定されるようになり、森林管理の中にシカ管理を組み込む重要性が増している。森林の種類や地域間差を考慮したシカによる影響の顕在化の過程の解明、影響を低減させるための技術開発、開発された技術を適切に運用する管理体制の確立が求められている。

本セッションは、5回目の開催となる。今年も、シカ問題に関心をもつ多様な分野の研究者の参加による活発な議論を行いたい。

T2 準平衡状態へと分布が移行する中での森林の放射性セシウム研究

Studies on forest radiocesium of which distribution is in transition to
"quasi-equilibrium" state

コーディネータ： 小松雅史（森林総合研究所），大久保達弘（宇都宮大学）

3月21日 9:00-11:45 会場 スノーホールB（メインホール）

ポスター発表 3月21日 P1-157~P1-179

このセッションが行われる2019年3月には、福島第一原発事故からすでに8年が経過したことになり、すでに10年という節目も見えつつある。チェルノブイリ原発事故後のレポートでは、森林内の放射性セシウムの分布状態について、事故から4-5年までは大きく変化する初期段階と定義され、その後は準平衡段階または安定段階とよばれる、分布変化が小さい状態に移行するとされている。実際に福島原発事故に行われてきた研究からも、森林内の放射性セシウム分布の変化は緩やかになってきている。事故後の初期段階は「森林のセシウムがどうなっているのか？」を示すために、まずはサンプル・データを集めて分布状態を明らかにすることに主眼が置かれていたが、今後は安定した環境下における分布状態を材料として、「森林のセシウムはどうなっていくのか？またどうしたらいいのか？」ということにも注目していく必要がある。

一方で、時間の経過とともに事故による影響の認識が風化され、原発事故による被災者支援の打ち切りへの不安が高まるなど、被災地・被災者の社会的な立場はより厳しい状況になりつつある。本公募セッションは今年で7回目となる。森林内の放射性セシウムの挙動を理解しその対策についての議論を深めるため、今年も公募セッションを企画することとした。今年も幅広い分野・視点からの参加をお願いしたい。

T3 熱帯林研究

Tropical Forestry Research

コーディネータ： FUJIWARA Takahiro 藤原敬大（Kyushu University 九州大学），

TERAUCHI Daisuke 寺内大左（Toyo University 東洋大学），

OTA Masahiko 大田真彦（Kyushu Institute of Technology 九州工業大学），

ONDA Nariaki 御田成顕（Kyushu University 九州大学）

3月22日 9:00-12:00 会場 203/204

This session is designed to share knowledge, information, and experiences on tropical forestry research. To address issues and achieve better conservation and utilization of tropical forests, it is essential to have the following: (1) knowledge on interdisciplinary approaches, (2) dialogue based on accurate information, and (3) learning from past experiences of trial and error. We invite presentations from various research fields such as ecology (e.g. biodiversity, carbon stock), silviculture, socioeconomics (e.g. farm economy, community forestry), anthropology

(e.g. local livelihood, culture), politics (e.g. national and international policy), and information science (e.g. remote sensing, GIS). We also welcome presentations by international students as well as young Japanese researchers. To carry out discussion among participants from different countries, English is official language for all presentations and following question and answer in this session. To facilitate lively discussion in this session, the speakers are encouraged to make your presentations understandable for the participants with different background and mother languages.

T4 樹木根の成長と機能

Development and function of tree roots

コーディネータ： 平野恭弘（名古屋大学），
野口享太郎（森林総合研究所），大橋瑞江（兵庫県立大学）

3月21日 9:00-11:45 会場 201B

ポスター発表 3月21日 P1-265~P1-270

『樹木根の成長と機能』の公募セッションでは、樹木根をキーワードに太い根から細い根まで、生態系レベルから細胞レベルまで、根と関連した多岐にわたる研究を公募し、報告対象といたします。本公募セッションでは、樹木根だけでなく、様々な境界領域分野との融合を目指します。ご自身の研究内容に「根」に関する測定や「根」に関連する事象があれば、葉や材質特性など樹木地上部に関する研究、土壌微生物、土壌化学性、土壌緊縛力など土壌に関する研究、温暖化や酸性化といった環境変動に関する研究など、根以外を主な対象とする発表も広く歓迎いたします。また、今後「根」を測定項目としたい会員向けに測定方法の共有も目的とします。発表形式は口頭発表またはポスター発表とします。

発表当日は、趣旨説明の後、口頭発表していただき、適宜発表間に討論時間を設け、最後に総合討論の時間を設ける予定です。趣旨説明では根研究学会の開催する根研究集会の紹介など樹木根の国際および国内動向を森林学会員に広く情報提供し、総合討論では、樹木根と境界領域分野との研究者間ネットワーク作りを促進するための討論も行いたいと思います。

T5 森林環境の持つ保健休養機能の基礎的研究と応用研究

Basic and applied studies on forest amenities

コーディネータ： 上原巖（東京農業大学）

3月21日 9:00-10:30 会場 303/304

本セッションは第130回大会で15回目を迎え、森林科学研究の分野の中で、一般市民の需要と関心が高い分野の1つである。これまでの大会では、生理的および心理的なアプローチの基礎的研究をはじめ、臨床事例、研究手法、尺度開発、国内外の地域における事例研究などが発表されてきた。基礎的研究から、保健休養に供する森林環境の整備といったハードの課題、治療・保養プログラム作成等のソフトの課題、そして各臨床症例・事例研究や、保養地事例などに至るまで多岐にわたった内容になっていることが特徴である。そのため、森林・林業関係者だけでなく、医療、社会福祉、心理、教育など、多領域の専門家に参加していただきながらコラボレーションを行ってきたことが本セッションの特色であり、存続意義である。森林環境は、一般市民の日常的な健康増進はもとより、日常の各職場における保健衛生や、医療、福祉、教育などの社会における諸分野での可能性が大きい。本大会のセッションでは、そのような諸分野における視点から心身の保健休養に供する森林、樹木の利用、活用手法などの調査研究だけでなく、特に事例研究にも重点を置き、森林の持つ保健休養機能についての研究手法、アプローチ方法についても検討、考究することを目的とする。

学会企画

1. 森林環境税（仮称）及び森林経営管理法を契機とした森づくり ～森林環境税（仮称）及び森林経営管理法とは～

コーディネータ：中村太士（国内研究機関連携担当理事，北海道大学）
日時：3月20日 13:30～14:30 会場：朱鷺メッセ 2F スノーホール A（メインホール）

平成30年度税制改正の大綱において、「森林環境税（仮称）及び森林環境譲与税（仮称）の創設」が決まり、平成31年度から譲与が、平成36年度から課税（1000円／年）が開始されることが明記されました。森林・林業白書などによれば、森林環境税（仮称）は、国税として広く国民全体（納税義務者6200万人）から徴収され、森林環境譲与税（仮称）として、人工林面積等の基準により市町村及び都道府県に譲与（再配分）されます。森林経営管理法を踏まえ、市町村が実施する森林の公的管理をはじめとする森林整備の財源となります。

広く国民全体で負担する森林環境税（仮称）及び森林環境譲与税（仮称）とは、一体どのような税金なのか、どのような用途に使うことができるのか。そして導入されるに至った背景には何があるのか、森林経営管理法との関連はどのようなのかなど、あらためて林野庁から説明・解説していただく予定です。学会員にとっても有用な情報となると思います。

2. ダイバーシティ推進ランチョン Workshop 2019 ～森林学会の多様性について考える／今学会で必要なダイバーシティ推進とは？～

コーディネータ：高山範理（ダイバーシティ推進担当理事，森林総合研究所）
竹内啓恵（ダイバーシティ推進担当主事，東京大学）
日時：3月22日 13:15～14:30 会場：朱鷺メッセ 2F 203/204

森林学会では、2018年4月に、男女共同参画部門をダイバーシティ推進部門に変更し、さらに12月には、これまでの理事・主事体制からダイバーシティ推進委員会として、運営・組織的体制を強化したところです。一方、今後学会にて多様な会員が活動しやすい環境を整えていくためには、会員が抱える問題や要望を整理・共有し、女性活躍推進、若手・ポストク問題、外国人会員への対応など、ダイバーシティ推進に係るテーマのうち、学会として何を優先すべきなのかについて会員みなさんと検討していくことが必要だと考えます。そこで、来たる新潟大会において、学会員の要望・意見等の情報収集を目的としたワークショップを開催し、今後、学会として進むべきダイバーシティ推進の方向性等についてみんなで考える機会を設けたいと思います。ぜひ多くのおみなさまのご参加をお待ちしております（お子さんを連れてのご参加も歓迎いたします）。

3. 日林誌に論文を出す

コーディネータ：正木隆（日林誌編集担当常任理事，森林総合研究所）

日時：3月22日 17:00～19:00 会場：朱鷺メッセ 2F スノーホール A（メインホール）

日本森林学会誌（日林誌）は，森林の科学的な情報や新たな知見を日本語で発表・公開する媒体として，大きな意義を有しています。日本森林学会としては，日林誌を通じて価値ある成果を社会・業界に多数発信していきたいと考えているところです。しかし，学生会員や行政分野から研究分野に異動された会員の諸氏にとっては，

- ・どの程度の内容であれば日林誌に論文として掲載される可能性があるのか？

- ・論文原稿を日林誌に投稿する際に注意すべき点はなにか？

など，投稿を前に悩むことも多いかと思います。また，投稿後においても，審査で指摘された事項に対してどのように対応すればよいか，戸惑うこともあるでしょう。このようなことから，具体的な論文投稿のアクションまでなかなか至らないこともあるのではないかと推察いたします。

そこでこのセミナーでは，現在の日林誌の編集方針をお伝えするとともに，

- (1) 日林誌の掲載対象となりうる研究成果の目安

- (2) 投稿原稿を準備する段階での留意事項

- (3) 掲載への早道となる審査結果対応

などについて，日林誌編集委員長，編集委員経験者，査読経験者から話題提供をいただいて質疑応答をおこない，日林誌への投稿に弾みをつけていただきたいと思います。

第6回高校生ポスター発表 学校名・発表題目

3月22日（金）ポスター発表会場（ウェーブマーケットB[展示ホール]

発表 11:00～14:00（コアタイム 奇数番 12:00～12:45 偶数番 12:45～13:30）

表彰式など 14:00～

発表番号	学校名	発表題目
KP01	北海道岩見沢農業高等学校	トドマツ人工林における巻き枯らし間伐の効果と影響についての調査
KP02	北海道旭川農業高等学校	GPS・GISを用いた森林施業管理の研究
KP03	北海道旭川農業高等学校	『音』をキーワードにした木育の推進 ～音階を奏でるスロープトイの開発～
KP04	青森県立五所川原農林高等学校	FSC森林認証 FM認証とCOC認証取得までの道のり
KP05	宮城県農業高等学校	循環型育成法から生まれた桜塩で目指せ！桜の国 ～私達の復興への挑戦～
KP06	栃木県立栃木高等学校	微生物が有機物を分解する際の無機リン酸の生成速度についての研究
KP07	早稲田大学高等学院	崩落跡地に植樹したトチノキの成長量に関する研究 ～望星の森のデータから～
KP08	東京都立江北高等学校	荒川上・中・下流における水生生物の生態Ⅱ ー下流のゴカイを中心にー
KP09	玉川学園高等部	騒音に対するシロイヌナズナの環境応答に関する研究
KP10	東京都立小笠原高等学校	固有種オガサワラカワニナと外来種カワニナとの競合の現状
KP11	東京都立科学技術高等学校	ピンクに染まる不思議な杉 ～未利用資源としてのサンプスギの高度利用～
KP12	東京都立科学技術高等学校	葉っぱを捨てないで ～サンプスギの葉の化学的成分の分析と効果～
KP13	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	マレーシアにおけるパーム油産業と森林・環境問題
KP14	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	ヒノキ科植物の油を蓄えるための葉の構造
KP15	新潟県立新津高等学校	絶滅危惧種ヒゴスミレの生育環境とは？
KP16	新潟県立新津高等学校	なぜ赤くなる？ ユキノシタの研究 ～照度と紫外線とアントシアニン濃度～
KP17	北越高等学校	新潟県の地衣類 Ⅲ
KP18	岐阜県立不破高等学校	南宮山のニホンジカに関する生態学的研究Ⅱ
KP19	三重中学校・高等学校	旧宮川村の森林を科学的データで考える ～木に親しむ
KP20	三重中学校・高等学校	高校生による 森林のまち旧宮川村の地域に関する実践報告
KP21	滋賀県立河瀬高等学校	間伐による森林環境の変化 ～ササラダニ類から見る森林環境～
KP22	滋賀県立河瀬高等学校	森林土壌の性質を化学性から探る
KP23	奈良学園中学校・高等学校	校内サギソウ群落の保全プロジェクト
KP24	和歌山工業高等専門学校	和歌山県煙樹ヶ浜における枯れ松のマツノサイセンチュウ罹患状況の調査
KP25	鳥取県立日野高等学校	環境を考慮した農業実践 ～循環型農業を目指して～
KP26	鳥取県立智頭農林高等学校	緑をとりもどせ ー生物多様性の保全と土砂崩壊の防止を目指してー
KP27	高知県立高知農業高等学校	切り枝生産de林業活性化！ ～シキミ成長に関する基礎研究～
KP28	高知県立高知農業高等学校	竹の再利用 ～竹紙製作の研究～
KP29	熊本県立第二高等学校	豊後街道の杉並木は屋久杉に由来しているのか？
KP30	熊本県立矢部高等学校	山都町の林業活性化を目指して ～木工で熊本地震被災地支援への恩返し～
KP31	熊本県立矢部高等学校	まちを元気に！ 自然の恵みを活かした地域活性化への取り組み

国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」助成事業／大日本山林会協賛 中等教育連携推進委員会

関連研究集会等

集会名	日時	会場
森林 GIS フォーラム学生研究コンテスト	3月20日 17:00-19:00	朱鷺メッセ 303/304
IUFRO-J 平成 31 (2019) 年度機関代表会議	3月22日 12:30-13:30	朱鷺メッセ 306/307
林業経済学会編集委員会	3月22日 12:15-13:15	朱鷺メッセ 203/204
林業経済学会理事会・評議員会	3月22日 18:00-21:00	朱鷺メッセ 201A
林業経済学会春季大会シンポジウム	3月23日 10:00-17:30	新潟市万代市民会館
森林計画学会総会	10:00-12:00	
森林計画学会賞受賞者講演会	3月23日 13:00-13:30	朱鷺メッセ 201A
森林計画学会春季シンポジウム	13:30-16:30	
森林利用学会総会	3月23日 10:30-12:00	駅まえオフィス貸会議室
森林利用学会シンポジウム	13:00-16:30	(新潟市中央区東大通)
第 25 回森林昆虫談話会	3月23日 9:00-12:00	朱鷺メッセ 201B
第 23 回森林施業研究会シンポジウム	3月23日 9:00-12:00	朱鷺メッセ 301A
森林水文・地球科学研究会	3月23日 9:00-12:00	朱鷺メッセ 301B
樹木病害研究会	3月23日 9:00-12:00	朱鷺メッセ 302A
森林遺伝育種学会総会	3月23日 9:00-12:30	朱鷺メッセ 302B
第 8 回森林遺伝育種学会シンポジウム		
森林立地編集委員会	3月20日 13:30-14:30	朱鷺メッセ 303/304
森林立地学会理事会	3月22日 18:00-20:00	朱鷺メッセ 203/204
森林立地学会現地研究会/総会	3月23日 8:15-16:30	新潟市西海岸公園, 新発田市五十公野公園 等

森林 GIS フォーラム学生研究コンテスト

日時：3月20日（水）17:00～19:00

会場：朱鷺メッセ 303/304

テーマ：森林・林業分野における GIS, リモートセンシング技術の応用全般

内容：学生研究コンテストは次世代の森林 GIS を担う若手研究者・技術者の育成と交流の場です。森林学会大会の他部門で発表したものと重複しても結構です。一人15分程度の口頭発表を行い、優れた発表数件を表彰します。以下の2部門で各5名程度を募集し、応募者多数の場合は選抜します。

部門（1）卒業論文の研究

部門（2）修士論文, 博士論文の研究

連絡先：高橋正義, 305-8687 茨城県つくば市松の里1 森林総合研究所 森林災害・被害研究拠点,
Tel. : 029-829-8314, Fax. : 029-874-3720, E-mail: o_fgis@fgis.jp

IUFRO-J 平成 31 (2019) 年度機関代表会議

日時：3月22日（金）12:30～13:30

会場：朱鷺メッセ 306/307

内容：平成30(2018)年度会務報告, 会計決算, 監査報告の審議と承認, 平成31(2019)年度事業計画案, 予算案の審議と承認, 役員選出, その他

連絡先：川元スミレ, 国際森林研究機関連合日本(IUFRO-J)事務局, 〒305-8687 茨城県つくば市松の里1 森林総合研究所 国際連携・気候変動研究拠点
国際研究推進室, Tel. 029-829-8327, Fax. 029-874-3720, E-mail: iufro-j@ffpri.affrc.go.jp

林業経済学会 2019 年春季大会シンポジウム

日時：2019年3月23日（土）10:00～17:30

会場：新潟市万代市民会館（新潟市中央区東万代町9番1号）

テーマ：「森林の文化的価値と森林政策の課題」

内容：森林がもたらす文化的生態系サービスの基盤となる価値を守りながら持続的に利用していくために、森林政策はどのような役割を担い、地域社会にどのように貢献すべきなのだろうか。本シンポジウムではまず柴崎茂光（国立歴史民俗博物館）氏から、森林の文化的価値に関するこれまでの歴史の変遷について、概略的に描いていただく。つづいて齋藤暖生（東京大学）氏から、林野での伝統的な採取活動の衰退と存続を通して、また平野悠一郎（森林総研）氏からは、近年沸き起こってきている新たな森林利用の動向を通して、森林の文化的価値について議論していただく。また、学会外から奥敬一（富山大学）氏をお招きして、森林における生業と文化的景観との関係について、文化財政策の視点も踏まえながら報告していただく。さらに、これら4題の報告に対するコメントを土屋俊幸（東京農工大学）氏から頂戴することとしている。座長は八巻一成（森林総研）氏が務める。

連絡先：八巻一成, 〒305-8687 茨城県つくば市松の里1 森林総合研究所 森林管理研究領域
環境計画研究室 E-mail: yamaki@affrc.go.jp

森林計画学会総会

日時：3月23日（土）10:00～12:00

会場：朱鷺メッセ 201A

連絡先：齋藤英樹（事務局長），つくば市松の1 森林総合研究所，森林管理研究領域，

Tel. 029-829-8314, E-mail: jsfp_office@forestplanning.jp

森林計画学会賞受賞者講演会

日時：3月23日 13:00～13:30

会場：朱鷺メッセ 201A

連絡先：齋藤英樹（事務局長），つくば市松の里1 森林総合研究所 森林管理研究領域, Tel. 029-829-8314,

E-mail: jsfp_office@forestplanning.jp

森林計画学会春季シンポジウム

日時：3月23日（土）13:30～16:30

会場：朱鷺メッセ 201A

テーマ：「2050年を目指した森林管理計画のあり方 ―人口減少の時代を迎えて―」

内容：今後、我が国は本格的な人口減少の時代に突入し、労働人口の減少や高齢化、消費形態の変化など社会構造が大きな転換期を迎える。このような環境変化の中、将来を見据えた森林管理計画のあり方が問われている。そこで、制度・政策、学問体系、イノベーションの観点から、2050年を目指した森林管理計画のあり方を議論する。

連絡先：齋藤英樹（事務局長），つくば市松の里1 森林総合研究所 森林管理研究領域, Tel. :029-829-8314,

E-mail: jsfp_office@forestplanning.jp

森林利用学会総会・シンポジウム

日時：3月23日（土） 総会：10:30～12:00 シンポジウム：13:00～16:30

会場：駅まねオフィス貸会議室 新潟県新潟市中央区東大通1-1-1 第五マルカビル7階 大会議室

テーマ：新潟県における林業成長産業化に向けた取組

内容：戦後造成した人工林が本格的な利用期を迎える中、これらの森林資源を循環利用し、林業の成長産業化を図ることが重要となっています。このためには、新たな森林管理システムの下で意欲と能力のある経営体に森林の管理経営を集積・集約化し、川上から川下までの取組を総合的に推進することが必要です。

そこで本シンポジウムでは、新潟県の民有林、国有林、素材生産現場、加工流通の立場から、林業成長産業化に向けた取組についてご紹介いただき、日本における林業成長産業化に向けた取組について議論を行いたいと思います。

連絡先：森林利用学会事務局，〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学大学院農学生命科学研究科

森林利用学研究室内, E-mail: jfes-office@jfes.jp

備考：3月22日に懇親会を開催いたします。

第25回森林昆虫談話会

日時：3月23日（土）9:00～12:00

開催場所：朱鷺メッセ 中会議室 201B

テーマ：森林施業と昆虫

内容：日本の森林の4割は人工林であるが、その中でも林齢50年を越える高齢林の割合は半分以上を占めている。このような背景の中で持続的な森林管理を行うために、高齢級人工林に対する間伐などの手入れが急務となっている。一方で新たな森林管理の一環として保残伐施業も行われている。このような様々な森林施業（森林生態系への人間の関与）が樹木や昆虫相にどのような影響を与えているか以下の方々に話題提供して頂き、理解と議論を深めていきたい。

<話題提供>

1. 「保残伐施業実証実験における伐採後の森林性昆虫類の変化」
山中 聡・佐山勝彦（森林総研北海道）・佐藤重穂（森林総研四国）・尾崎研一（森林総研）
2. 「スギ・ヒノキ人工林の間伐が虫害の発生に及ぼす影響」
佐藤重穂（森林総研四国）
3. 「間伐しながら立枯れ木を管理して甲虫の生息地を提供する」
小野寺賢介（北海道立総合研究機構林業試験場）
4. 「飛翔性昆虫の群集や機能の変化からみた森林施業の影響」
滝 久智（森林総合研究所）

世話人：吉田智弘（東京農工大学）・松浦 崇遠（富山県森林研究所）・松本剛史（森林総研）

3月22日（金）夜に懇親会を予定しています。

連絡先：松本剛史，〒305-8687 茨城県つくば市松の里1 森林総合研究所 森林昆虫研究領域，

Tel. 029-829-8253, Fax. 029-873-1543, E-mail: mtakeshi@ffpri.affrc.go.jp

第23回森林施業研究会シンポジウム

日時：3月23日（土）9:00～12:00

会場：朱鷺メッセ 301A

テーマ：技術論で考える低コスト林業

内容：林業，とくに更新から初期保育のステージでの低コスト化の必要性が叫ばれ，これについて異論はないであろう。一方，技術的視点から見たとき，その取り組みの妥当性はどこまで検証できているだろうか。このシンポジウムでは，低コスト化の取り組み事例として低密度植栽，下刈り回数の削減，広葉樹への転換について話題を提供し，技術的視点から「低コスト林業が目指す林業は，はたして持続可能な林業経営につながるのか？」を議論したい。

- 1) 過去の低密度植栽試験から考察してみた（平野辰典）
- 2) 下刈り回数の削減はどこでも可能か？（山川博美）
- 3) 広葉樹林への転換は低コストでできるのか？（島田博匡）
- 4) 総合討論「低コスト林業の技術的妥当性と展望」

連絡先：横井秀一 〒501-3714 美濃市曾代88 岐阜県立森林文化アカデミー Tel. 0575-35-3884

Fax. 0575-35-2529 E-mail: yokoi@forest.ac.jp

森林水文・地球科学研究会

日時：3月23日（土）9:00～12:00

会場：朱鷺メッセ 301B

テーマ：色々なスケールの森林水文学：細胞から大陸まで

内容：葉の気孔から、樹木個体・林分・流域での水移動、大陸・地球レベルでの水循環、また、その空間スケールに応じて、秒から数百年までの時間スケール。森林水文学の扱う水・物質・エネルギーの動きのスケールは大変な幅を持っています。この研究会では、”スケール感”に注目して、色々な森林水文学を訪ねます。

話題提供：

宮沢良行（九州大学）

「葉の挙動と林分ガス交換をつなぐ術とその展望を探る」

小杉賢一郎（京都大学）

「土壌と基岩の特徴で考える降雨流出」

熊谷朝臣（東京大学）

「東南アジア熱帯島嶼域での森林破壊が呼ぶ気候変化」

連絡先：熊谷朝臣；東京大学，E-mail：tomoomikumagai@gmail.com

樹木病害研究会

日時：3月23日（土）9:00～12:00

会場：朱鷺メッセ 302A

テーマ：南根腐病

内容：樹木の腐朽病害の中で、樹木を急速に枯死させるほどの病害は少ない。しかし、南根腐病は南西諸島、小笠原を中心に様々な樹木を枯死させており、経済的な問題にもなりつつある。また気候変動により分布域の北上も危惧される。本病害に関する研究は海外でも熱帯地方を中心に行われているが、日本においても数十年前から最近までに様々な研究者による知見が蓄積している。今回は、南根腐病研究のこれまでの到達点と今後の課題について、5名の専門家による発表を通じて議論し、本病害についての理解を深める。

連絡先：松下範久，東京都文京区弥生1-1-1，東京大学大学院農学生命科学研究科，

Tel./Fax. 03-5841-5226/03-5841-7554, E-mail: matusita@fr.a.u-tokyo.ac.jp,

石原誠，札幌市豊平区羊ヶ丘7番地，森林総研北海道支所, Tel./Fax. 011-851-4131/011-851-4167,

E-mail: makolin@affrc.go.jp, 升屋勇人，つくば市松の里1 森林総合研究所きのこ・森林微生物研究領域, Tel. 0298-29-8245, E-mail: massw@ffpri.affrc.go.jp

森林遺伝育種学会総会・第8回森林遺伝育種学会シンポジウム

日時：2019年3月23日（土）9:00～12:30

会場：朱鷺メッセ 302B

テーマ：森林遺伝育種学会総会と第8回森林遺伝育種学会シンポジウム「林木育種の視点からみたコンテナ苗の現状と課題」

内容：

話題提供

- 1 後藤 晋（東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター）
森林遺伝育種学会で、なぜ今、「コンテナ苗」なのか？
- 2 来田和人（北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場道北支場）
カラマツ播種コンテナ苗とクリーンラーチ挿し木コンテナ苗の育苗方法と林木育種への応用
- 3 山野邊太郎・大平峰子・久保田権（国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センター）
林木育種センターにおける検定林造成を目的としたスギ1年生コンテナ苗育成の試行
- 4 三樹陽一郎（宮崎県林業技術センター）
宮崎県におけるコンテナ苗の現状と研究事例
- 5 松田 修（九州大学大学院理学研究院）
高発芽率を実現する樹木種子の選別技術

連絡先：津村義彦 〒305-8572 つくば市天王台1-1-1 筑波大学生命環境系

Email: tsumura.yoshihiko.ke@u.tsukuba.ac.jp

森林立地編集委員会

日時：3月20日（水）13:30～14:30

会場：朱鷺メッセ 303/304

内容：編集状況の報告および編集方針の検討

連絡先：総務担当・石塚成宏，〒305-8687 茨城県つくば市松の里1 森林総合研究所，

Tel. 029-829-8227 Fax. 029-874-3720 E-mail: ritchi_general@ffpri.affrc.go.jp

森林立地学会理事会

日時：3月22日（金）18:00～20:00

会場：朱鷺メッセ 203/204

内容：2018年度実施内容報告，2019年度実施計画（案）検討

連絡先：総務担当・石塚成宏，〒305-8687 茨城県つくば市松の里1 森林総合研究所，

Tel. 029-829-8227 Fax. 029-874-3720 E-mail: ritchi_general@ffpri.affrc.go.jp

森林立地学会現地研究会

日時：3月23日（土）8:15～16:30

開催場所：新潟市西海岸公園，新発田市五十公野公園 等

テーマ：下越地方の海岸林と赤色土

内容：午前は新潟市の中心街に近い海岸林を見学し、海岸林の遷移と鳥類、気候変動との関わりについて話題提供していただきます。その後、胎内市の海岸に移動してクロマツ・広葉樹を植栽した客土試験地を見学します。午後は新発田市の市街地に近い五十公野公園内で赤色土の土壌断面を観察します。普段あまり目にすることのない北日本の赤色土を見学できるまたとない機会です。さらに、この場所がかつて実施されていた酸性雨モニタリングに関する話題提供や、新潟県内で行われているいくつかの関連研究の紹介も予定しています。

行程： 8:15 新潟駅南口 — 8:40 西海岸公園「野鳥の森」（海岸林の遷移と鳥類、気候変動の関わりについての見学と説明） — 11:00 胎内市中村浜（松くい虫被害を受けた海岸林の復旧についての見学と説明） — 12:00 五十公野公園にて昼食と総会 — 13:30 土壌断面の観察と研究紹介 — 15:15 五十公野公園発 — 16:00 新潟空港着 — 16:30 新潟駅着

※大雪の場合は予定を変更する可能性があります。

参加費：¥3,500程度（バス+昼食+保険代，学生・PDは割引予定）

申込方法：(1)森林立地学会申込フォーム（<http://shinrin-ritchi.jp/apply-excursion/>，11月30日より受付開始）(2)E-mail（ritchi_excursion@ffpri.affrc.go.jp）または(3)ハガキ・FAX（下記問い合わせ先参照）にて、必要事項を記入の上2019年2月28日までに申込をしてください。定員を超えた場合は早期締切になる場合があります。性別・年齢は団体保険加入のために使用します。個人情報 は適切に管理し、本研究会以外での利用は行いません。

連絡先：事業担当 山下尚之，〒305-8687 茨城県つくば市松の里1 森林総合研究所，Tel. 029-829-8227
Fax. 029-874-3720 E-mail：ritchi_excursion@ffpri.affrc.go.jp